

平成25年度  
名古屋市立大学大学院薬学研究科  
自己点検・評価報告書

2013

## 目 次

- 1 平成25年度博士(薬学)学位取得者
- 2 平成25年度薬学修士学位取得者
- 3 平成25年度薬学部でなされた講演会、研究会、シンポジウム
- 4 研究業績目録(2013年1月から2013年12月)
- 5 科学研究費等補助金
- 6 学外との共同研究等
- 7 新聞報道等
- 8 進路および就職状況
- 9 薬学部在籍者名簿

## 1 平成25年度博士(薬学)学位取得者

学位（博士）授与報告書

名古屋市立大学大学院

報告番号	博士の学位を授与された者				博士課程の修了等の状況			主論文名	授与年月日	博士論文受理年月日	論文審査完了年月日	主査	副査 (指導教員)	副査	副査	副査
	博士の専攻分野の名称	(ふりがな)氏名	性別	生年月日	本籍	大学院名	研究科(専攻)名									
甲第295号	博士(薬学)	かたの たかひろ 片野 貴大	男	S 57.11.16	愛知県	名古屋市立大学大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	H 25.3.31 単位修得退学	26.3.25	H 26.2.12	H 26.3.14	平嶋	湯浅	今泉	中村克	—
甲第296号	博士(薬学)	しおた あるふみ 塩田 有史	男	S 54.7.30	兵庫県	名古屋市立大学大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	H 25.3.31 単位修得退学	26.3.25	H 26.2.12	H 26.3.14	湯浅	木村	中村克	山村	—
甲第297号	博士(薬学)	はしもと よしふみ 橋本 芳史	男	S 61.3.19	奈良県	名古屋市立大学大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	H 26.3.25	26.3.25	H 26.2.12	H 26.3.14	頭金	星野	糸	湯浅	—
甲第298号	博士(薬学)	おおしろ じゅんや 大城 隼也	男	S 61.11.15	静岡県	名古屋市立大学大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	H 26.3.25	26.3.25	H 26.2.12	H 26.3.14	湯浅	今泉	藤井聡	大澤	山村
甲第299号	博士(薬学)	いとう しおり 伊藤 史織	女	S 61.7.1	愛知県	名古屋市立大学大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	H 26.3.25	26.3.25	H 26.2.12	H 26.3.14	木村	藤井聡	林	服部	—
甲第300号	博士(薬学)	かたおか ともや 片岡 智哉	男	S 57.6.19	滋賀県	名古屋市立大学大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	H 26.3.25	26.3.25	H 26.2.12	H 26.3.14	藤井聡	木村	林	今泉	—
甲第301号	博士(薬学)	さとう だいすけ 佐藤 大介	男	S 60.6.22	愛知県	名古屋市立大学大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	H 26.3.25	26.3.25	H 26.2.12	H 26.3.14	糸	松永	服部	林	—

甲第 302 号	博士 (薬学)	あかほり よしひろ 赤堀 禎紘	男	S 62.3.11	愛知県	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学 専攻	H 26.3.25	Ireland-Claisen転位による二連続第四級不斉中心の一段階構築を機軸とする酸化型テルペノイド類の合成研究	H 26.3.25	H 26.2.12	H 26.3.20	樋口	中村	中川	池田	—
甲第 303 号	博士 (薬学)	さかい ゆうと 坂井 勇斗	男	S 59.1.17	愛知県	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学 専攻	H 25.3.31 単位修得 退学	がんの発生及びその特性におけるTRB3の機能解析	H 26.3.31	H 26.2.12	H 26.4.8	服部	林	平嶋	長田	—
甲第 304 号	博士 (薬学)	きとう ひろあき 鬼頭 宏彰	男	S 59.6.29	愛知県	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学 専攻	H 26.4.15	脳血管内皮細胞におけるイオンチャネルを介した細胞増殖及び細胞死機構の解明	H 26.4.15	H 26.2.12	H 26.4.8	糸	今泉	林	田中	—
甲第 305 号	博士 (薬学)	こんどう ゆうき 近藤 祐樹	男	S 61.10.31	茨城県	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学 専攻	H 26.3.31	薬物動態試験へ応用可能なヒト人工多能性幹細胞由来肝細胞の作出	H 26.3.31	H 26.2.12	H 26.7.8	頭金	松永	湯浅	尾関	—

\*甲305号 鬼頭さん : 日本学術振興会特別研究員(DC2)で本学に在学中のため、平成26年4月15日付で学位授与。(26年度分にカウント)

## 2 平成25年度薬学修士学位取得者

学位番号	分野名	氏名		論文題目	日付	主査	副査	副査	副査
1950	薬化学	伊藤 芳	女	活性中心近傍システイン残基を標的としたPin1阻害剤の開発		中川	樋口	井上	—
1951	薬化学	小島 理奈	女	ビスベンズイミダゾール-ニトロキシドの蛍光特性比較と酸化ストレス計測プローブへの応用		中川	池田	尾関	—
1952	薬化学	福島 直樹	男	光により放出制御可能な硫化水素供与化合物の創製		中川	中村(精)	梅澤	—
1953	精密有機反応学	天野 祐一	男	ペプチド機能制御をめざした新規光切断性アミノ酸の開発		樋口	中川	田中	梅澤
1954	薬品合成化学	鈴木 恵介	男	抗腫瘍性メロテルペノイド・バークレーオン類の合成研究 ～BCD環部の立体選択的な構築～		中村(精)	樋口	中川	—
1955	薬品合成化学	外川 貴史	男	アセチルコリン受容体拮抗剤スピロリドDの合成研究 ～立体選択的なE環部構築への試み～		中村(精)	池田	梅澤	—
1956	機能分子構造学	森田 友香	女	ニッケル/亜鉛触媒系によるβ-酸素脱離を伴うヘック型ドミノ反応		池田	中川	梅澤	—
1957	生体超分子システム解析学	猪飼 千晴	女	Chediak-Higashi症候群原因タンパク質LYSTのマスト細胞における機能解析		平嶋	林	中村(克)	—
1958	生体超分子システム解析学	田中 順一	男	Gfap-cre CNB1fl/fl マウスの中樞神経系における表現型解析		平嶋	糸	山村	田中
1959	生体超分子システム解析学	宮地 克真	男	改変好塩基球による標的的特異的抗腫瘍活性の検討		平嶋	尾関	長田	—
1960	生命分子構造学	稲垣 宏弥	男	プロテインジスルフィドイソメラーゼの機能発現におけるマイクロ-マクロ相関の探査		加藤	平嶋	山中	—
1961	分子生物学	舟木 ゆかり	女	アルギニンメチル化酵素CARM1の発現および機能に関する解析		今川	林	田中	—
1962	薬物送達学	久保田 雅仁	男	ブロックコポリマーを含有させた新規温熱感受性リボソームによる経肺ドラッグデリバリーシステムの開発		尾関	松永	湯浅	—
1963	薬物送達学	高橋 朋弘	男	HDL様金ナノ粒子の創製と血管に対する抗炎症効果の検討		尾関	藤井聡	山中	—
1964	生薬学	田中 和貴	男	配糖化による難水溶性天然物の消化管吸収の改善		水上	尾関	湯浅	牧野
1965	生薬学	張 伏子	女	防風通聖散のコレステロールトランスポーターNPC1L1阻害作用		水上	湯浅	中村(克)	牧野
1966	生薬学	南 安依里	女	ミフクラギに含まれる抗腫瘍活性成分の探索		水上	中川	長田	—
1967	衛生化学	小川 翔大	男	トリ型結核菌Mycobacterium aviumの酸性環境下におけるarcAの機能解析		藤原	星野	藤井(聡)	瀧井
1968	衛生化学	竹野 聖史	男	コラーゲン誘導関節炎モデルマウスにおけるタバコ主流煙中に含まれる関節炎増悪物質の探索		藤原	林	水上	瀧井
1969	衛生化学	金(花井) 朱璃	女	Staphylococcal superantigen-like protein 5(SSL5)とその宿主側標的分子matrix metalloproteinase(MMP)-9の結合様式の解析		藤原	糸	林	—
1970	細胞分子薬効解析学	梅田 俊太郎	男	電位依存性Kv1.3チャネルに対するホスファチジルイノシトール4,5二リン酸の特異的作用の機構解明		今泉	服部	佐藤	—

1971	細胞分子薬効解析学	大羽 輝弥	男	気道上皮細胞の繊毛運動制御におけるイオンチャネルの寄与と細胞障害時の変化		今泉	平嶋	大澤	—
1972	細胞分子薬効解析学	松木 克仁	男	マウス非妊娠・妊娠子宮平滑筋における細胞内Ca <sup>2+</sup> 動員機構の特殊性と生理的意義について		今泉	木村	牧野	—
1973	病態生化学	久永 有紗	女	脳の形成と機能に重要な分泌タンパク質リーリンの切断を担うプロテアーゼの同定		服部	条	林	—
1974	薬物動態制御学	伊藤 悠子	女	aquaporin 10の核酸塩基輸送機能		湯浅	平嶋	山村	—
1975	薬物動態制御学	稲岡 枝梨菜	女	小腸特異的有機アニオントランスポーターOAT11の薬物輸送機能		湯浅	頭金	牧野	—
1976	病態解析学	郭 威	女	トリメチルスフィンゴシンがスフィンゴ脂質代謝及びNF- $\kappa$ Bに与える影響の検討		藤井聡	服部	井上	—
1977	病態解析学	長崎 彩子	女	低酸素環境における脂肪細胞のPAI-1発現調節機構の検討		藤井聡	今川	山村	—
1978	医薬品代謝解析学	永尾 優始	男	メチルトランスフェラーゼ SET8 の TGF- $\beta$ 応答性転写調節における作用機構		林	今川	頭金	—
1979	神経薬理学	長岡 優也	男	中枢神経系におけるインスリンの血糖値低下作用機構の解析		条	林	平嶋	—
1980	医薬品質保証学	城 しおり	女	ヒトiPS細胞の分化プロペンシティ予測マーカーの因クリーニング		佐藤 (客員)	松永	頭金	—
1981	神経薬理学	森 優作	男	睡眠および麻酔感受性に関与する新規遺伝子の機能解析		条	星野	藤原	—



### 3 平成25年度薬学部でなされた 講演会, 研究会, シンポジウム

## 「薬学研究科でなされた講演会」

平成 25 年度 年報

### 1. 講演会、研究会、シンポジウム

開催日:平成 25 年 1 月 30 日

講演会名:日本薬学会東海支部特別講演会

講師名:岩城 孝行 准教授

所属:浜松医科大学薬理学講座

演題:Is the phenotype manifested by complete PAI-1 deficiency in human compatible to that in mouse ?

世話分野:病態解析学分野

開催日:平成 25 年 2 月 22 日

場所:ツインメッセ静岡, 静岡市, 静岡

会議名:アンリツ医薬品技術セミナー

氏名:尾関 哲也

所属:名古屋市立大学大学院薬学研究科

演題:「X線照射が医薬品に与える影響」

開催日:平成 25 年 2 月 24 日

講演会名:薬剤師のためのスキルアップセミナー

講師名:鈴木 匡 教授 他

所属:名古屋市立大学薬学部 臨床薬学教育研究センター 他

演題:フィジカルアセスメントアドバンス編

共催分野:病態解析学分野

開催日:平成 25 年 2 月 25 日

場所:国立医薬品食品衛生研究所, 東京

会議名:国立医薬品食品衛生研究所特別講演会

氏名:尾関 哲也

所属:名古屋市立大学大学院薬学研究科

演題:機能性ナノ粒子の設計と製剤への応用:Functional Engineered Nano-sized Particles and Their Pharmaceutical Applications

開催日:平成 25 年 4 月 1 日

場 所:名古屋市立大学病院  
講演会名:平成 25 年度新規採用者研修  
講 師 名:木村 和哲 教授  
所 属:名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学  
演 題:医薬品の安全管理について  
世 話 人:名古屋市立大学病院

開催日:平成 25 年 4 月 27 日  
場 所:長井記念ホール, 徳島県徳島市  
会議名:徳島リポソーム研究会  
氏 名:田上 辰秋  
所 属:名古屋市立大学大学院薬学研究科  
演 題:超高感度の温熱感受性リポソームの開発と応用

開 催 日:平成 25 年 5 月 22 日  
講演会名:第 136 回薬学談話会  
講 師 名:家田 直弥 先生  
所 属:名古屋市立大学大学院薬学研究科  
演 題:光で制御可能なパーオキシナイトライト発生剤の開発  
世 話 人:寺坂和祥

開 催 日:平成 25 年 5 月 24 日  
講演会名:部門公開セミナー  
講 師 名:Prof. Supa Hannongbua  
所 属:Kasetsart University, Thailand  
演 題:Chemistry Meets Biology: Understanding of Structural Requirement for  
Drug Discovery Through the Lens of Computational Microscope  
場 所:分子科学研究所 山手 3 号館 2 階西 セミナー室  
世 話 人:加藤晃一

開 催 日:平成 25 年 5 月 26 日  
場 所:ポートメッセなごや  
講演会名:第 16 回国際福祉健康産業展 ウェルフェア 2013  
講 師 名:木村 和哲 教授  
所 属:名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学  
演 題:これだけは知っていて欲しい・薬の飲み合わせ

世話人:名古屋国際見本市委員会

開催日:平成25年5月29日

講演会名:日本学術振興会長期招聘外国人研究者講演会

講師名:Robert M. Williams 教授

所属:コロラド州立大学化学科

演題:Total Synthesis as a Vehicle for Penetrating Biomechanistic Puzzles:  
Challenges in Natural Products Chemistry

世話分野:薬品合成化学分野

開催日:平成25年5月31日

講演会名:日本薬学会東海支部特別講演会

講師名:平山 令明 教授

所属:東海大学医学部医学科基礎医学系分子生命科学

演題:HLA分子を標的とする医薬分子の作用機構に関する in silico 解析換

世話分野:医薬品安全性評価学分野

開催日:平成25年6月2日

講演会名:薬剤師のためのスキルアップセミナー

講師名:鈴木 匡 教授 他

所属:名古屋市立大学薬学部 臨床薬学教育研究センター 他

演題:フィジカルアセスメント・ベーシック Class I

共催分野:病態解析学分野

開催日:平成25年6月8日

講演会名:平成25年度比較グライコーム研究会

場所:名古屋市立大学大学院薬学研究科 研究科会議室

世話人:矢木宏和

開催日:平成25年6月28日

講演会名:平成25年度 有機化学系合同セミナー

講師名:山越 博幸 助教

所属:名古屋市立大学大学院薬学研究科

演題:生物活性天然物 cyclindrocyclophane A, idesolide, curcumin の化学生物  
学研究

世話分野:精密有機反応学分野

開催日:平成25年7月30日  
場所:名古屋市立大学桜山キャンパス  
講演会名:名古屋市新人看護職員研修会  
講師名:木村 和哲 教授  
所属:名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学  
演題:薬剤の基礎知識  
世話人:名古屋市立中央看護専門学校

開催日:平成25年8月22日～24日  
講演会名:サマースクール2013「生命システムの動秩序」  
場所:岡崎統合バイオサイエンスセンター 山手3号館2階 大会議室  
世話人:加藤晃一

開催日:平成25年9月1日  
講演会名:薬剤師のためのスキルアップセミナー  
講師名:丸谷 幸子 他  
所属:名古屋市立大学病院 他  
演題:フィジカルアセスメント・ベーシック Class II  
共催分野:病態解析学分野

開催日:平成25年9月9日  
講演会名:糖鎖科学中部拠点 第11回「若手の力」フォーラム  
場所:名古屋市立大学大学院薬学研究科 宮田専治記念ホール・キャンパスモ  
ール  
世話人:加藤晃一

開催日:平成25年10月2日  
講演会名:新学術領域「動的秩序と機能」第1回公開シンポジウム  
場所:岡崎コンファレンスセンター  
世話人:加藤晃一

開催日:平成25年10月10日  
講演会名:日本薬学会東海支部特別講演会  
講師名:御影 雅幸 先生  
所属:金沢大学大学院薬学研究科  
演題:生薬資源の現状と確保に向けて  
開催日:平成25年10月24日

場 所:愛学ホール, 京都薬科大学, 京都  
会議名:文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノDDSの創成」キックオフシンポジウム  
氏 名:尾関 哲也  
所 属:名古屋市立大学大学院薬学研究科  
演 題:機能性ナノ粒子の製剤設計 Functional Engineered Nano-sized Particles

開催日:平成 25 年 10 月 25 日  
場 所:ホテル大阪ガーデンパレス, 大阪市, 大阪  
会議名:アンリツ医薬品技術セミナー  
氏 名:尾関 哲也  
所 属:名古屋市立大学大学院薬学研究科  
演 題:「X線照射が医薬品に与える影響」

開 催 日:平成 25 年 10 月 30 日  
講演会名:第 140 回薬学談話会  
講 師 名:山越 博幸 助教  
所 属:名古屋市立大学大学院薬学研究科  
演 題:生きた細胞中で低分子化合物を観察する手法:アルキンタグラマンイメー  
ジングの開発  
世 話 人:家田直弥, 井上靖道, 岩尾岳洋, 寺坂和祥, 西塚誠, 細田直, 堀田祐  
牧野利明, 矢木宏和

開 催 日:平成 25 年 11 月 3 日  
シンポジウム名:第1回ムラサキに関するシンポジウム

開 催 日:平成 25 年 11 月 10 日  
場 所:名古屋市立大学薬学部  
講演会名:東海薬剤師生涯学習センター講座  
講 師 名:木村 和哲 教授  
所 属:名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学  
演 題:男性の更年期障害とは  
世 話 人:三公立大学 卒後教育講座

開 催 日:平成 25 年 11 月 20 日

講演会名:第 141 回薬学談話会  
講師名:田邊 宏樹 先生  
所属:愛知学院大学薬学部  
演題:生活習慣に起因する疾病に有効な天然化合物の探索とその機序解析  
世話人:牧野利明

開催日:平成 25 年 11 月 20-22 日(presentation: 21)  
場所:Jeju, Public of Korea,  
会議名:Asian Federation for Pharmaceutical Science Conference,  
氏名:尾関 哲也  
所属:名古屋市立大学大学院薬学研究科  
演題: "A Novel Biomimetic HDL Nanoparticles Formulation with Gold-nanocores  
and its Anti-inflammatory Effect"

開催日:平成 25 年 11 月 25-27 日  
講演会名:日韓生体分子科学セミナーー実験とシミュレーション  
場所:岡崎コンファレンスセンター  
世話人:加藤晃一

開催日:平成 25 年 12 月 5 日  
場所:名古屋市立大学医学研究棟講義室 A  
講演会名:名古屋市立大学「医・薬・看護の連携研究の推進」助成事業  
講師名:木村 和哲 教授  
所属:名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学  
演題:保健所における感染予防対策-抗菌薬・消毒薬の知識と実践-  
世話人:名古屋市立大学

開催日:平成 25 年 12 月 13 日  
講演会名:日本薬学会東海支部特別講演会  
講師名:Michael Z. Wincor Associate Professor and Interim Chair  
所属:Clinical Pharmacy and Pharmaceutical Economics & Policy, Associate Dean  
of Global Initiatives and Technology  
演題:臨床薬学のための疾病解析と症例解析  
世話分野:病態解析学分野

開催日:平成 25 年 12 月 15 日  
講演会名:薬剤師のためのスキルアップセミナー  
講師名:阿部 真由美 他  
所属:名古屋市立大学病院 他  
演題:フィジカルアセスメント・ベーシック Class I  
共催分野:病態解析学分野

開催日:平成 25 年 12 月 19 日  
講演会名:日本薬学会東海支部特別講演会  
講師名:栗飯原 一弘 博士  
所属:Meiji Seika ファルマ株式会社 臨床開発総括部  
演題:製薬企業における創薬研究と臨床開発  
世話分野:薬化学分野



4 研究業績目録  
(2013年1月から2013年12月)

【薬化学分野】

(原報)

Hidehiko Nakagawa, Kazuhiro Hishikawa, Kei Eto, Naoya Ieda, Tomotaka Namikawa, Kenji Kamada, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, and Junichi Nabekura.

Fine spatiotemporal control of nitric oxide release by infrared pulse-laser irradiation of a photo-labile donor

*ACS Chem. Biol.*, **8**, 2493–2500 (2013).

Takayoshi Suzuki, Hiroki Ozasa, Yukihiro Itoh, Peng Zhan, Hideyuki Sawada, Koshiki Mino, Louise Walport, Rei Ohkubo, Akane Kawamura, Masato Yonezawa, Yuichi Tsukada, Anthony Tumber, Hidehiko Nakagawa, Makoto Hasegawa, Ryuzo Sasaki, Tamio Mizukami, Christopher J. Schofield, and Naoki Miyata.

Identification of the KDM2/7 Histone Lysine Demethylase Subfamily Inhibitor and its Antiproliferative Activity

*J. Med. Chem.*, **56**, 7222–7231 (2013).

Takayoshi Suzuki, Yuki Kasuya, Yukihiro Itoh, Yosuke Ota, Peng Zhan, Kaori Asamitsu, Hidehiko Nakagawa, Takashi Okamoto and Naoki Miyata.

Identification of Highly Selective and Potent Histone Deacetylase 3 Inhibitors Using Click Chemistry-Based Combinatorial Fragment Assembly

*PLoS One*, **8**, e68669 (2013).

Kodai Kawai, Naoya Ieda, Kazuyuki Aizawa, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata and Hidehiko Nakagawa.

A Reductant-Resistant and Metal-Free Fluorescent Probe for Nitroxyl Applicable to Living Cells

*J. Am. Chem. Soc.*, **135**, 12690–12696 (2013).

Daisuke Ogasawara, Yukihiro Itoh, Hiroki Tsumoto, Taeko Kakizawa, Koshiki Mino, Kiyoshi Fukuhara, Hidehiko Nakagawa, Makoto Hasegawa, Ryuzo Sasaki, Tamio Mizukami, Naoki Miyata and Takayoshi Suzuki.

Lysine-Specific Demethylase 1-Selective Inactivators: Protein-Targeted Drug Delivery Mechanism

*Angew. Chem. Int. Ed.*, **52**, 8620–8624 (2013).

Kazuyuki Aizawa, Hidehiko Nakagawa, Kazuya Matsuo, Kodai Kawai, Naoya Ieda, Takayoshi Suzuki, and Naoki Miyata.

Piloty' s acid derivative with improved nitroxyl-releasing characteristics

*Bioorg. Med. Chem. Lett.*, **23**, 2340–2343 (2013).

Gangadhara R. Sareddy, Binoj C. Nair, Samaya K. Krishnan, Vijay K. Gonugunta, Quan-guang Zhang, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, Andrew J. Brenner, Darrell W. Brann, and Ratna K. Vadlamudi.

KDM1 is a novel therapeutic target for the treatment of gliomas

*Oncotarget*, **4**, 18–28 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

中川秀彦

時空間制御可能な活性酸素・NOの光制御型ドナー化合物

*医学のあゆみ*, **247**, 825–831 (2013).

Yukihiro Itoh, Takayoshi Suzuki and Naoki Miyata.

Small-molecular modulators of cancer-related epigenetic mechanisms

*Mol. Biosyst.*, **9**, 873–896 (2013).

Hidehiko Nakagawa.

Controlled Release of HNO from Chemical Donors for Biological Applications

*J. Inorg. Biochem.*, **118**, 187–190 (2013).

Mohammed Naseer Ahmed Khan, Takayoshi Suzuki, and Naoki Miyata.

An Overview of Phenylcyclopropylamine Derivatives: Biochemical and Biological Significance and Recent Developments

*Med. Res. Rev.*, **33**, 873–910 (2013).

(特許申請)

申請日：平成 25 年 11 月 12 日

出願番号：特願 2013-234477

名称：N-ニトロソアニリン誘導体，並びに，それを用いた NO 発生剤及び NO の発生方法

発明者：家田直弥，中川秀彦

(学会発表)

家田直弥，中川秀彦，Tao Peng，Dan Yang，宮田直樹

細胞内で制御可能な光応答性 ONOO<sup>-</sup>発生剤の開発

日本酸化ストレス学会東海支部 第 1 回学術集会，2013 年 2 月 9 日，名古屋，一般公演 2-08.

家田直弥，中川秀彦，Tao Peng，Dan Yang，鈴木孝禎，宮田直樹

光制御可能な ONOO<sup>-</sup>供与化合物の開発と DNA 切断能の確認

日本薬学会第 133 年会，2013 年 3 月 27–30 日，横浜，28amA-054.

川合洸大，中川秀彦，家田直弥，鈴木孝禎，宮田直樹

細胞系に適用可能な新規 HNO 蛍光検出試薬の創製

日本薬学会第 133 年会，2013 年 3 月 27–30 日，横浜，28amA-067.

荒井卓也, 大野彰子, 柿揮多恵子, 中川秀彦, 小津俊彦, 栗原正明, 福原 潔, 宮田直樹

AD 治療薬の開発を指向した  $A\beta_{1-40}$  および  $A\beta_{1-42}$  の C 末端モチーフを有するビタミン E 誘導体の合成と  $A\beta$  凝集阻害能の解析

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 27-30 日, 横浜, 28L-am01S.

小笠原大介, 伊藤幸裕, 三野光識, 中川秀彦, 水上民夫, 宮田直樹, 鈴木孝禎  
標的酵素へのドラッグデリバリーを目指した LSD1 不活性化薬の創製

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 27-30 日, 横浜, 28L-am03S.

後藤 仰, 鈴木孝禎, 伊藤幸裕, 粕谷佑輝, 太田庸介, 中川秀彦, 宮田直樹  
クリックケミストリーを用いた HDAC 阻害薬の探索研究

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 27-30 日, 横浜, 28L-am13.

澤田英之, 鈴木孝禎, 今井英里佳, Mohammed Naseer Ahmed KHAN, 中川秀彦, 宮田直樹  
新規 SIRT2 選択的阻害薬の創製 ~Structure-based Drug Design による SIRT1 選択的阻害から SIRT2 選択的阻害への転換~

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 27-30 日, 横浜, 28L-pm04S.

福島直樹, 中川秀彦, 家田直弥, 鈴木孝禎, 宮田直樹  
ケトプロフェン型光解除性保護基を導入したケージド  $H_2S$  の創製

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 27-30 日, 横浜, 28amA-076S.

会沢和之, 中川秀彦, 家田直弥, 鈴木孝禎, 宮田直樹  
Piloty's acid 誘導体の合成,  $HNO$  放出能評価および構造活性相関研究

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 27-30 日, 横浜, 29K-pm10S.

大野彰子, 荒井卓也, 中西郁夫, 松本謙一郎, 中川秀彦, 宮田直樹, 栗原正明, 福原潔

カテキンをテンプレートとしたアルツハイマー病予防薬の開発

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 27-30 日, 横浜, 29pmA-085.

家田直弥, 中川秀彦, Tao Peng, Dan Yang, 鈴木孝禎, 宮田直樹 **【学術奨励賞】**  
光制御可能な ONOO<sup>-</sup>発生剤の開発とその機能評価

第 66 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2013 年 6 月 13-14 日, 名古屋, Y-4.

荒井卓也, 大野彰子, 柿澤多恵子, 小澤俊彦, 宮田直樹, 栗原正明, 中川秀彦, 福原潔 **【優秀演題賞】**

抗酸化作用を有する新規アルツハイマー病治療薬の開発

第 66 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2013 年 6 月 13-14 日, 名古屋, P-54.

薄井佑奈, 家田直弥, 河合翔太, 鈴木孝禎, 宮田直樹, 中川秀彦  
NO 放出時に蛍光増大を伴う新規光作動性クマリン型 NO ドナーの開発

第 66 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2013 年 6 月 13-14 日, 名古屋, P-64.

喜多村佳委, 菱川和宏, 家田直弥, 鈴木孝禎, 宮田直樹, 中川秀彦  
ニトロベンゼン型新規二光子作動性 NO donor の開発と細胞内における機能評価  
第 66 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2013 年 6 月 13-14 日, 名古屋, P-65.

喜多村佳委, 菱川和宏, 家田直弥, 鈴木孝禎, 宮田直樹, 中川秀彦  
6-Bromo-7-hydroxycoumarin 骨格を有する新規光作動性 NO donor の合成と機能評価  
日本ケミカルバイオロジー学会第 8 回年会, 2013 年 6 月 19-21 日, 東京, PA-028.

福島直樹, 家田直弥, 鈴木孝禎, 宮田直樹, 中川秀彦  
ケトプロフェン型光解除性保護基を導入した光制御型硫化水素放出薬の機能  
評価  
日本ケミカルバイオロジー学会第 8 回年会, 2013 年 6 月 19-21 日, 東京, PA-058.

Naoya Ieda, Tao Peng, Dan yang, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, Hidehiko  
Nakagawa  
Synthesis and evaluation of photo-controllable peoxynitrite generators  
The 6th Joint Meeting of SFRRRA+J, 12 Sep.-14 Sept. 2013, Sydney, S17.

Kai Kitamura, Kazuhiro Hishikawa, Naoya Ieda, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata,  
Hidehiko Nakagawa **【Young Investigator Award】**  
A novel photocontrollable nitric oxide donor bearing 6-bromo-7-  
hydroxycoumarin structure as a photo absorbing group  
The 6th Joint Meeting of SFRRRA+J, 12 Sep.-14 Sept. 2013, Sydney, S25 .

喜多村佳委, 菱川和宏, 家田直弥, 鈴木孝禎, 宮田直樹, 中川秀彦  
吸光部位として 6-bromo-7-hydroxycoumarin 構造を有する新規光作動性 NO donor の開  
発と細胞への適用  
平成 25 年度日本薬学会東海支部例会, 2013 年 11 月 10 日, 鈴鹿, D-6.

福島直樹, 家田直弥, 鈴木孝禎, 宮田直樹, 中川秀彦  
光解除性保護基を用いた光応答性硫化水素供与剤の開発  
平成 25 年度日本薬学会東海支部例会, 2013 年 11 月 10 日, 鈴鹿, D-7.

喜多村佳委, 菱川和宏, 家田直弥, 鈴木孝禎, 宮田直樹, 中川秀彦  
黄緑色光によって放出制御可能な新規 dimethylnitrobenzene 型一酸化窒素供与剤の開  
発  
第 31 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2013 年 11 月 20-22 日, 広島, 1P-  
23.

家田直弥, 鈴木孝禎, 宮田直樹, 中川秀彦  
可視光で制御可能な一酸化窒素発生剤の設計・合成と機能評価  
第 31 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2013 年 11 月 20-22 日, 広島, 2P-  
23.

【精密有機反応学分野】

(原報)

Yuki Imamura, Naoki Umezawa, Satoko Osawa, Naoaki Shimada, Takuya Higo, Satoshi Yokoshima, Tohru Fukuyama, Takeshi Iwatsubo, Nobuki Kato, Taisuke Tomita, Tsunehiko Higuchi

Effect of Helical Conformation and Side-Chain Structure on  $\gamma$ -Secretase Inhibition by  $\beta$ -Peptide Foldamers: Insight into Substrate Recognition

*J. Med. Chem.*, **56**(4), 1443–1454 (2013).

Yuko Yoshikawa, Naoki Umezawa, Yuki Imamura, Toshio Kanbe, Nobuki Kato, Kenichi Yoshikawa, Tadayuki Imanaka, Tsunehiko Higuchi

Effective Chiral Discrimination of Tetravalent Polyamines on Single-DNA Compaction

*Angew. Chem. Int. Ed.*, **52**(13), 3712–3716 (2013).

Tsugunori Watanabe, Nobuki Kato, Naoki Umezawa, Tsunehiko Higuchi

Synthesis of the Carbon Framework of Scholarisine A by Intramolecular Oxidative Coupling

*Chem. Eur. J.*, **19**(13), 4255–4261 (2013).

Yukinobu Noritake, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, Tsunehiko Higuchi

Manganese Salen Complexes with Acid-Base Catalytic Auxiliary: Functional Mimetics of Catalase

*Inorg. Chem.*, **52**(7), 3653–3662 (2013).

Shunsuke Saito, Hiro Ohtake, Naoki Umezawa, Yuko Kobayashi, Nobuki Kato, Masaaki Hirobe, Tsunehiko Higuchi

Nitrous Oxide Reduction-Coupled Alkene-Alkene Coupling Catalysed by Metalloporphyrin

*Chem. Commun.*, **49**(79), 8979–8981 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

樋口恒彦

へムから広がる化学：黎明期からのへム酵素モデル研究

*化学と工業*, **66**(11), 919–921 (2013).

(特許申請)

申請日：平成 25 年 3 月 4 日

出願番号：特許第 042272 号

名称：ポルフィリン系触媒，ポルフィリン化合物，およびポルフィリン化合物の製造方法

発明者：樋口恒彦，加藤信樹，梅澤直樹，稲垣秀樹

(学会発表)

樋口恒彦

チオラート配位子を有するシトクロム P450 モデル錯体の酸化還元特性の解析  
分子研研究会「生体配位化学の最前線と展望」. 2013 年 2 月 5 日 (岡崎)

白川慶典, 鈴木潤, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヘム-アルコラート錯体・ヘム-セレノラート錯体の合成と化学特性  
日本化学会第 93 春季年会. 2013 年 3 月 22 日 (滋賀); 1B1- 29.

坂田陽輔, 小林由布子, 加藤信樹, 梅津直樹, 樋口恒彦

キノリン系抗マラリア活性化合物とヘムとの相互作用解析  
日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28amA-020.

天野祐一, 野呂侑加, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

環状化を用いたペプチド機能の光制御  
日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28amA-603.

今村優希, 吉川裕子, 梅津直樹, 神戸俊, 加藤信樹, 吉川研一, 今中忠行, 樋口恒彦

環構造を有するキラルポリアミンの合成と DNA 構造に及ぼす影響  
日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28M-pm25S.

渡辺二規, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

分子内酸化的カップリング反応を用いた scholarisine A の合成研究  
日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28N-am08.

白川慶典, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

アルコラート配位ヘム・セレナート配位ヘムの合成とその酸化触媒機能における軸配位子効果  
日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 29 日 (横浜); 290-am28.

稲垣秀樹, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

高度に立体的に遮蔽された金属ポルフィリンの合成と選択的アルカン酸化  
日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30amA-626.

Tsunehiko Higuchi 【依頼講演】

Synthetic Heme Thiolate Complexes as Precise Model of Cytochrome P450

The 223rd Meeting of Electrochemical Society. 2013年5月12-17日 (Toronto, Canada) ; .

渡辺二規, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦  
分子内酸化的カップリング反応を用いた scholarisine A の合成研究  
第11回次世代を担う有機化学シンポジウム. 2013年5月24-25日 (東京) ; 2-06.

白川慶典, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦  
ヘム-チオラート構造の化学特性: 軸配位子及び金属の元素置換体との比較  
第40回 生体分子科学討論会に出席する. 2013年6月7-8日 (吹田) ; 17.

梅澤直樹, 今村優希, 大沢智子, 富田泰輔, 岩坪 威, 加藤信樹, 樋口恒彦  
 $\gamma$ -セクレターゼを阻害するフォルダマーの開発  
日本ケミカルバイオロジー学会第8回年会. 2013年6月19-21日 (東京) ; 0-13.

坂田陽輔, 小林由布子, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦  
キノリン系化合物の抗マラリア活性とヘム相互作用との関連  
第59回日本薬学会東海支部 総会・大会. 2013年7月6日 (名古屋) ; B1720.

本間紘次郎, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦  
生理的条件下での応用を目指した化学発光分子の開発  
第59回日本薬学会東海支部 総会・大会. 2013年7月6日 (名古屋) ; B1730.

天野祐一, 野呂侑加, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦  
環状化を利用したペプチド機能の光制御  
第59回日本薬学会東海支部 総会・大会. 2013年7月6日 (名古屋) ; B1740.

天野祐一, 野呂侑加, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦  
環状化を利用した光応答性ペプチド: 新規光切断性ユニットの開発  
第45回若手ペプチド夏の勉強会. 2013年7月29日 (八王子) ; p-10.

寶来侑平, 今村優希, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦  
ペプチド化学を用いた多彩なポリアミンの固相合成  
第45回若手ペプチド夏の勉強会. 2013年7月29日 (八王子) ; p-11.

梅澤直樹  
 $\gamma$ -セクレターゼを阻害するフォルダマーの開発  
第45回 若手ペプチド夏の勉強会. 2013年7月28-30日 (八王子) ; 特別講演5.

樋口恒彦【招待講演】  
ヘムに関連した生物無機化学および医薬化学における展開  
名古屋工業大学 講演会. 2013年7月30日 (名古屋)

Tsunehiko Higuchi  
Heme Thiolate Complexes as Remarkable Oxidizing Catalyst: Comparison with  
Elemental-substituted Complexes



International Symposium on Relations between Homogeneous and Heterogeneous  
Catalysis  
(ISHHC-16). 2013年8月4-9日(札幌); 2RRR-11.

Nobuki Kato, Tsugunori Watanabe, Naoki Umezawa and Tsunehiko Higuchi  
Synthesis of the Carbon Framework of Scholarisine A by Intramolecular  
Oxidative Coupling  
10th International Symposium on Carbanion Chemistry (ISCC-10). 2013年9月24  
日(京都)  
; P-21.

白川慶典, 丹羽雄紀, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦  
シトクロム P450 の中心構造ヘム-チオラートの軸配位子及び金属の元素置換体の化学  
特性  
第7回バイオ関連化学シンポジウム. 2013年9月29日(名古屋); 3A-10.

樋口恒彦  
立体的に遮蔽された金属ポルフィリンの効率的合成と, その特異な C-H 結合活性化能  
中部公立3大学 新技術説明会. 2013年10月29日(東京)

稲垣秀樹, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦  
高度に立体的に遮蔽された金属ポルフィリン錯体によるアルカンの選択的酸化  
第39回反応と合成の進歩シンポジウム. 2013年11月5-6日(福岡); 1P-57.

齋藤俊輔, 大竹廣雄, 梅澤直樹, 小林由布子, 加藤信樹, 廣部雅昭, 樋口恒彦  
亜酸化窒素を酸化剤とする金属ポルフィリン触媒アルケンカップリング反応  
第46回酸化反応討論会. 2013年11月15-16日(筑波); 10-12.

白川慶典, 丹羽雄紀, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦  
ヘム-チオレート錯体の酸化反応特性: 軸配位子及び金属の元素置換体との比較  
第46回酸化反応討論会. 2013年11月15-16日(筑波); P-37.

坂田陽輔, 小林由布子, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦  
ヘム親和性を基盤とする高機能抗マラリア化合物の開発  
第31回メディシナルケミストリーシンポジウム. 2013年11月20-22日(広島);  
2P-43.

【薬品合成化学分野】

(原報)

Almar F. Palonpon, Jun Ando, Hiroyuki Yamakoshi, Kosuke Dodo, Mikiko Sodeoka, Satoshi Kawata, and Katsumasa Fujita

Raman and SERS Microscopy for Molecular Imaging of Live Cells.

*Nature Protocols*, **8**, 677-692 (2013).

(学会発表)

鈴木恵介, 中村精一

バークレートリオンの合成研究-BCD 環部の立体選択的な構築-

日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 29 日 (横浜); 29M-am14.

赤堀禎紘, 橋本俊一, 中村精一

抗腫瘍性サポニン・シラシロシド E-1 の合成研究-CE 環部の改良合成と D 環構築-

日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30M-pm05.

戸井田明憲, 猪狩俊博, 橋本俊一, 中村精一

アセチルコリン受容体拮抗剤スピロリド類の合成研究-BCD 環部の構築-

日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30pmA-501.

山越博幸, どど孝介, 安藤 潤, Palonpon Almar, 藤田克昌, 河田 聡, 袖岡幹子

アルキン修飾化合物の生細胞ラマンイメージング

日本薬学会第 133 年会. 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30K-am08.

赤堀禎紘, 山越博幸, 橋本俊一, 中村精一

抗腫瘍性サポニン・シラシロシド E-1 アグリコン部の合成研究

第 59 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2013 年 7 月 6 日 (名古屋); B1520.

赤堀禎紘, 澤山侑季, 山越博幸, 橋本俊一, 中村精一

抗腫瘍性サポニン・シラシロシド E-1 アグリコン部の合成研究

第 55 回天然有機化合物討論会. 2013 年 9 月 18 日 (京都); P-45.

赤堀禎紘, 山越博幸, 澤山侑季, 橋本俊一, 中村精一

二連続第四級不斉中心を含む酸化型テルペノイド合成中間体の立体制御合成

第 39 回反応と合成の進歩シンポジウム. 2013 年 11 月 6 日 (福岡); 2P-22.

【機能分子構造学】

(学会発表)

坂崎美香, 白井直洋, 池田慎一

ニッケル触媒によるエノン, アルキン, ビニルシクロプロパンのドミノカップリング  
反応の開発

第 133 年会 日本薬学会 2013 年 3 月 30 日 (横浜) ; 30amA-640.

森田有香, 白井直洋, 池田慎一

ニッケル/亜鉛触媒によるエノン・アルキン・アリルアルコール類のヘック型ドミノ反  
応

第 133 年会 日本薬学会 2013 年 3 月 30 日 (横浜) ; 30amA-641.

【生体超分子システム解析学分野】

(原報)

Yoshikazu Inoh, Tadahide Furuno, Naohide Hirashima, Dai Kitamoto, Mamoru Nakanishi.

Synergistic effect of a biosurfactant and protamine on gene transfection efficiency.

*Eur. J. Pharm. Sci.*, **49**, 1–9 (2013).

Yoshikazu Inoh, Satoshi Tadokoro, Hiroki Tanabe, Makoto Inoue, Naohide Hirashima, Mamoru Nakanishi, Tadahide Furuno.

Inhibitory effects of a cationic liposome on allergic reaction mediated by mast cell activation.

*Biochem. Pharmacol.* **86**, 1731–1738 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

平嶋尚英, 田所 哲

巨大リポソームによるエンド/エクソサイトーシス系のモデル開発

生物物理 **53**, 98–100 (2013).

(学会発表)

伊納義和, 古野忠秀, 平嶋尚英, 北本 大, 中西 守

MEL-A 含有正電荷リポソームによるプロタミン/DNA の遺伝子導入

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 29 日 (横浜) ; 29amB-146.

西川 心, 平嶋尚英, 田中正彦

単一細胞エレクトロポレーションを用いた初代培養神経細胞における遺伝子強制発現系の開発

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 29 日 (横浜) ; 29amB-148.

田所 哲, 加川恭子, 仲川賀子, 平嶋尚英

マスト細胞における分泌小胞の開口放出部位への繫留機構

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 29 日 (横浜) ; 29pmB-197.

柴本翔子, 原田広翔, 田所 哲, 田中正彦, 平嶋尚英

マスト細胞のエクソサイトーシスにおける微小管依存性の分泌顆粒輸送機構

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 29 日 (横浜) ; 29pmB-198.

田中正彦, 西川 心, 平嶋尚英

単一細胞エレクトロポレーションを用いた培養小脳プルキンエ細胞における遺伝子強制発現

第 36 回日本神経科学大会・第 56 回日本神経化学学会大会・第 23 回日本神経回路学会大会  
合同大会 2013 年 6 月 20 日 (京都) ; P1-2-238.

田所 哲, 平嶋尚英

マスト細胞の開口放出様の膜融合における PIP<sub>2</sub> の役割

第 86 回日本生化学学会大会 2013 年 9 月 11 日 (横浜) ; 1P-198.

宮地克真, 児玉卓也, 田所 哲, 平嶋尚英

改変好塩基球を用いたがん細胞を標的とする DDS の構築

第 86 回日本生化学学会大会 2013 年 9 月 13 日 (横浜) ; 3P-378.

田所 哲, 伊納義和, 中西 守, 平嶋尚英

PIP<sub>2</sub> は synaptotagmin 2 による SNARE を介した膜融合の促進に関与する

日本生物物理学会第 51 回年会 2013 年 10 月 30 日 (京都) ; 3P223.

Yuji Mochizuki, Miho Ikeya, Kiyoshi Yamanoue, Hirofumi Konishi, Satoshi Tadokoro, Masahiko Tanaka, Naohide Hirashima

The function of Orai-2 localized on secretory granules in mast cells

第 36 回日本分子生物学会年会 2013 年 12 月 4 日 (神戸) ; 2P-0344.

Yu Inoue, Seiji Hasegawa, Sadanori Ban, Takaaki Yamada, Yasushi Date, Hiroshi Mizutani, Yasuko Terada, Masahiko Tanaka, Naohide Hirashima, Satoru Nakata

Analysis of trace elements that control the epidermal turnover

第 36 回日本分子生物学会年会 2013 年 12 月 4 日 (神戸) ; 2P-0646.

藤田真弥, 八木孝樹, 田中順一, 平嶋尚英, 田中正彦

腸管グリア細胞におけるカルシニューリンの役割

第 36 回日本分子生物学会年会 2013 年 12 月 5 日 (神戸) ; 3P-0580.

田中順一, 平嶋尚英, 田中正彦

Gfap-cre calcineurin B<sup>-fl/fl</sup> mice の中枢神経系における表現型解析

第 36 回日本分子生物学会年会 2013 年 12 月 5 日 (神戸) ; 3P-0726.

Satoshi Tadokoro, Yoshikazu Inoh, Mamoru Nakanishi, Naohide Hirashima

Synaptotagmin 2 promotes SNARE-mediated membrane fusion between liposomes that mimic mast cell exocytosis depending on Ca<sup>2+</sup> and phosphatidylinositol 4,5-bisphosphate

The American Society for Cell Biology Annual Meeting 2013 年 12 月 15 日  
(New Orleans, LA, USA) ; 483.

【コロイド・高分子物性学分野】

(原報)

Mariko Shinohara, Akiko Toyotama, Misaki Suzuki, Yukihiro Sugao, Tohru Okuzono, Fumio Uchida, and Junpei Yamanaka  
Recrystallization and Zone Melting of Charged Colloids by Thermally Induced Crystallization

*Langmuir*, **29**, 9668–9676 (2013).

Jun Nozawa, Satoshi Uda, Yuhei Naradate, Haruhiko Koizumi, Kozo Fujiwara, Akiko Toyotama, and Junpei Yamanaka  
Impurity Partitioning During Colloidal Crystallization

*J. Phys. Chem. B* **117**, 5289–5295 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

Junpei Yamanaka, Tohru Okuzono, Akiko Toyotama  
Colloidal Crystals  
Pattern Formations and Oscillatory Phenomena

Elsevier (2013).

奥蘭 透 他  
薄膜塗布技術と乾燥トラブル対策

技術情報協会 (2013)

(学会発表)

奥蘭 透, 村井雅子, 豊玉彰子, 山中淳平  
重力下における荷電コロイド結晶のダイナミクスとシミュレーション  
東北大学金属材料研究所セミナー 2013年2月21日 (仙台)

奥蘭 透, 関 友崇, 豊玉彰子, 山中淳平  
拡散場中のコロイドダイナミクス  
日本物理学会第68回年次大会 2013年3月27日 (東広島)

Junpei Yamanaka, Akiko Toyotama, Tohru Okuzono 【招待講演】  
Thermally induced crystallization, zone-melting and refining of charged colloids  
CECAM conference, The Role of Interfaces in Crystallization 2013年5月23日  
(スイス・ローザンヌ)

山中淳平, 山本政彰, 豊玉彰子, 中村友紀, 沖塚翔太, 奥蘭 透, 内田文生

イオン性界面活性剤共存下での荷電コロイド分散系の温度誘起結晶化  
第 62 回高分子学会年次大会 2013 年 5 月 29 日 (京都)

山中淳平【招待講演】  
荷電コロイド結晶のゾーンメルト  
界面活性剤を利用したコロイド結晶の温度誘起結晶化  
東北大学金属材料研究所セミナー 2013 年 6 月 18 日 (仙台)

篠原真理子, 豊玉彰子, 鈴木美沙紀, 菅生行紘, 山中淳平  
コロイド結晶のゾーンメルト  
東北大学金属材料研究所セミナー 2013 年 6 月 18 日 (仙台)

Y. Nakamura  
Formation of a multiscale aggregate structure through spontaneous blebbing of an interface  
Clustering of charged colloidal particles in the coexistence of ionic surfactants  
the 27th Conference of the European Colloid and Interface Society 2013 年 9 月 3 日  
(ブルガリア・ソフィア)

T. Okuzono, A. Toyotama, J. Yamanaka  
Dynamics of polyelectrolyte domains under a gradient of weak electrolyte concentration  
International Soft Matter Conference 2013 2013 年 9 月 18 日 (イタリア・ローマ)

山中淳平, 豊玉彰子, 奥蘭 透  
塩基拡散場におけるコロイド粒子の泳動  
第 64 回コロイドおよび界面化学討論会 2013 年 9 月 20 日 (名古屋)

豊玉彰子, 山本政彰, 中村友紀, 沖塚翔太, 飛永あゆみ, 大橋良章, 岡地真奈美, 奥蘭 透, 山中淳平  
イオン性界面活性剤共存下における荷電コロイドの温度誘起結晶化  
第 64 回コロイドおよび界面化学討論会 2013 年 9 月 20 日 (名古屋)

中村友紀, 岡地真奈美, 豊玉彰子, 奥蘭 透, 山中淳平  
界面活性剤共存下での荷電コロイドクラスター形成  
第 64 回コロイドおよび界面化学討論会 2013 年 9 月 20 日 (名古屋)

村門 愛, 平岩いずみ, 豊玉彰子, 奥蘭 透, 山中淳平  
有機溶媒中における荷電コロイド結晶の作製  
第 64 回コロイドおよび界面化学討論会 2013 年 9 月 20 日 (名古屋)

大橋良章, 岡地真奈美, 飛永あゆみ, 豊玉彰子, 奥蘭 透, 山中淳平



イオン界面活性剤を用いた荷電コロイド粒子の結晶化  
第 64 回コロイドおよび界面化学討論会 2013 年 9 月 20 日 (名古屋)

岡地真奈美, 中村友紀, 豊玉彰子, 奥蘭 透, 山中淳平  
反対電荷をもつ荷電コロイド粒子の会合体形成  
第 64 回コロイドおよび界面化学討論会 2013 年 9 月 20 日 (名古屋)

山中淳平, 豊玉彰子, 奥蘭 透  
荷電コロイドの一方向結晶成長に伴う格子の不均一性  
第 43 回結晶成長国内会議 2013 年 11 月 8 日 (長野)

豊玉彰子, 山本政彰, 中村友紀, 奥蘭 透, 山中淳平  
界面活性剤の吸着を利用した荷電コロイドの温度誘起結晶化  
第 43 回結晶成長国内会議 2013 年 11 月 8 日 (長野)

村門 愛, 平岩いずみ, 豊玉彰子, 奥蘭 透, 山中淳平  
有機溶媒中における荷電コロイド結晶の作製  
第 43 回結晶成長国内会議 2013 年 11 月 8 日 (長野)

増田竜大, 奥蘭 透, 豊玉彰子, 山中淳平  
荷電コロイド系におけるクラスター形成の数値シミュレーション  
東北大学金属材料研究所セミナー 2013 年 11 月 20 日 (仙台)

山中淳平【招待講演】  
荷電コロイドの結晶格子収縮過程と会合体形成の顕微鏡観察  
東北大学金属材料研究所セミナー 2013 年 11 月 21 日 (仙台)

篠原忠臣, 谷川正幸, 曾我見郁夫, 伊藤研策, 山中淳平  
シリカラテックス混合分散液におけるコロイド結晶の fcc-bcc 相図  
マイクログラビティー応用学会 2013 2013 年 11 月 29 日 (東京)

柿原千穂, 豊玉彰子, 奥蘭 透, 山中淳平, 篠原忠臣, 谷川正幸, 曾我見郁夫  
荷電コロイドの電荷誘起結晶化と結晶構造  
マイクログラビティー応用学会 2013 2013 年 11 月 29 日 (東京)

沖塚翔太, 柿原千穂, 村門 愛, 平岩いずみ, 大橋良章, 豊玉彰子, 奥蘭 透, 山中淳平, 篠原忠臣, 谷川正幸, 曾我見郁夫  
荷電コロイドの電荷誘起結晶化に関する宇宙実験検討  
マイクログラビティー応用学会 2013 2013 年 11 月 29 日 (東京)

山中淳平【招待講演】  
温度勾配での荷電コロイドの結晶化  
第 3 回ソフトマター研究会 2013 年 12 月 14 日 (東京)

岡地真奈美, 中村友紀, 豊玉彰子, 奥蘭 透, 山中淳平  
反対電荷をもつ荷電コロイド粒子の会合体形成

第3回ソフトマター研究会 2013年12月14日(東京)

奥菌 透, 豊玉彰子, 山中淳平

弱電解質拡散場中の高分子電解質ドメインのダイナミクス

第3回ソフトマター研究会 2013年12月15日(東京)

【生命分子構造学分野】

(原報)

Takumi Yamaguchi, Tsuyoshi Uno, Yoshinori Uekusa, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato

Ganglioside-embedding small bicelles for probing membrane-landing processes of intrinsically disordered proteins

*Chem. Commun.*, **49**, 1235–1237 (2013).

Yukiko Kamiya, Kotaro Yanagi, Toshihiko Kitajima, Takumi Yamaguchi, Yashunori Chiba, and Koichi Kato

Application of metabolic <sup>13</sup>C labeling in conjunction with high-field nuclear magnetic resonance spectroscopy for comparative conformational analysis of high mannose-type oligosaccharides

*Biomolecules*, **3**, 108–123 (2013).

Maho Yagi-Utsumi, Yoshiki Yamaguchi, Pornthip Boonsri, Takeshi Iguchi, Kazuo Okemoto, Shunji Natori, and Koichi Kato

Stable isotope-assisted NMR characterization of interaction between lipid A and sarcotoxin IA, a cecropin-type antibacterial peptide

*Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **431**, 136–140 (2013).

Gouram Mondal, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Bishnu Pada Chatterjee

Multidimensional HPLC analysis of *N*-linked glycans of serum alpha-1-acid glycoprotein in chronic hepatitis B and hepatitis B-induced liver cirrhosis patients

*Trends in Carbohydrate Research.*, **5**, 11–19 (2013).

Masaaki Sugiyama, Hiroki Sahashi, Eiji Kurimoto, Shin-ichi Takata, Hirokazu Yagi, Keita Kanai, Eri Sakata, Yasufumi Minami, Keiji Tanaka, and Koichi Kato

Spatial arrangement and functional role of  $\alpha$  subunits of proteasome activator PA28 in hetero-oligomeric form

*Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **432**, 141–145 (2013).

Soichiro Kitazawa, Tomoshi Kameda, Maho Yagi-Utsumi, Kenji Sugase, Nicola J. Baxter, Koichi Kato, Michael P. Williamson, and Ryo Kitahara

Solution structure of the Q41N variant of ubiquitin as a model for the alternatively folded state N<sub>2</sub> of ubiquitin

*Biochemistry*, **52**, 1874–1885 (2013).

Kentaro Kumoi, Tadashi Satoh, Kazuyoshi Murata, Takeshi Hiromoto, Tsunehiro Mizushima, Yukiko Kamiya, Masanori Noda, Susumu Uchiyama, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

An archaeal homolog of proteasome assembly factor functions as a proteasome activator

*PLoS ONE*, **8**, e60294 (2013).

Tsutomu Fujimori, Yukiko Kamiya, Kazuhiro Nagata, Koichi Kato, and Nobuko Hosokawa

Endoplasmic reticulum lectin XTP3-B inhibits endoplasmic reticulum-associated degradation of a misfolded  $\alpha$ 1-antitrypsin variant

*FEBS J.*, **280**, 1563–1575 (2013).

Mahesh S.Chandak, Takashi Nakamura, Toshio Takenaka, Tapan K.Chaudhuri, Maho Yagi-Utsumi, Jin Chen, Koichi Kato, and Kunihiro Kuwajima

The use of spin desalting columns in DMSO-quenched H/D-exchange NMR experiments

*Protein Sci.*, **22**, 486–491 (2013).

Takumi Yamaguchi, Yukiko Kamiya, Yeun-Mun Choo, Sayoko Yamamoto, and Koichi Kato

Terminal spin labeling of a high-mannose-type oligosaccharide for quantitative NMR analysis of its dynamic conformation

*Chem. Lett.*, **42**, 544–546 (2013).

Maho Yagi-Utsumi, Tomoko Kuniyama, Takashi Nakamura, Yoshinori Uekusa, Koki Makabe, Kunihiro Kuwajima, and Koichi Kato

NMR characterization of the interaction of GroEL with amyloid  $\beta$  as a model ligand

*FEBS Lett.*, **587**, 1605–1609 (2013).

Seon-Joo Yoon, Natalia Utkina, Martin Sadilek, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Sen-itiroh, and Hakomori

Self-recognition of high-mannose type glycans mediating adhesion of embryonal fibroblasts

*Glycoconjugate J.*, **30**, 485–496 (2013).

Noritaka Nishida, Maho Yagi-Utsumi, Fumihiro Motojima, Masasuke Yoshida, Ichio Shimada, and Koichi Kato

NMR approaches for characterizing interactions between the bacterial chaperonin GroEL and unstructured proteins

*J. Biosci. Bioeng.*, **116**, 160–164 (2013).

Eiji Kurimoto, Kimiko Kuroki, Yoshiki Yamaguchi, Maho Yagi-Utsumi, Takahiro Igaki, Takeshi Iguchi, Katsumi Maenaka, and Koichi Kato

Structural and functional mosaic nature of MHC class I molecules in their peptide-free form

*Mol. Immunol.*, **55**, 393–399 (2013).

Mahesh S.Chandak, Takashi Nakamura, Koki Makabe, Toshio Takenaka, Atsushi Mukaiyama, Tapan K.Chaudhuri, Koichi Kato, and Kunihiro Kuwajima

The H/D-exchange kinetics of the *Escherichia coli* co-chaperonin GroES studied by 2D NMR and DMSO-quenched exchange methods

*J. Mol. Biol.*, **425**, 2541–2560 (2013).

Kazutaka Araki, Shun-ichiro Iemura, Yukiko Kamiya, David Ron, Koichi Kato, Tohru Natsume, and Kazuhiro Nagata

Ero1- $\alpha$  and PDIs constitute a hierarchical electron transfer network of endoplasmic reticulum oxidoreductases

*J. Cell. Biol.*, **202**, 861–874 (2013).

Satoshi Horimoto, Satoshi Ninagawa, Tetsuya Okada, Hibiki Koba, Takehiro Sugimoto, Yukiko Kamiya, Koichi Kato, Shunichi Takeda, and Kazutoshi Mori

The Unfolded Protein Response Transducer ATF6 Represents a Novel Transmembrane-type Endoplasmic Reticulum-associated Degradation Substrate Requiring Both Mannose Trimming and SEL1L Protein

*J. Biol. Chem.*, **288**, 31517–31527 (2013).

Masamichi Nagae, Kousuke Yamanaka, Shinya Hanashima, Akemi Ikeda, Kana Morita-Matsumoto, Tadashi Satoh, Naoki Matsumoto, Kazuo Yamamoto, and Yoshiki Yamaguchi

Recognition of Bisecting *N*-Acetylglucosamine

Structural basis for asymmetric interaction with the mouse lectin dendritic cell inhibitory receptor 2

*J. Biol. Chem.*, **288**, 33598–33610 (2013).

Hirokazu Yagi, Naoki Nakagawa, Takuya Saito, Hiroshi Kiyonari, Takaya Abe, Tatsushi Toda, Sz-Wei Wu, Kay-Hoo Khoo, Shogo Oka, and Koichi Kato

AG061-dependent GlcNAc modification primes the formation of functional glycans on  $\alpha$ -dystroglycan

*Sci. Rep.*, **3**, Article number: 3288 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

矢木真穂

超高磁場 NMR を用いた糖脂質クラスター上における A $\beta$  の構造研究

生物物理, **53**, 32–33 (2013).

矢木宏和, 加藤晃一

IgG-FcとFc受容体の複合体形成における糖鎖の役割

実験医学, **31**, 1602–1606 (2013).

前仲勝実, 加藤晃一

創薬に向けた構造生物学

薬学雑誌, **133**, 507 (2013).

加藤晃一, 山口拓実

NMR 原理

揺らぎ・ダイナミクスと生体機能 (寺嶋正秀編), 化学同人, pp69-79 (2013).

矢木宏和, 加藤晃一

神経幹細胞の幹細胞性維持における複合糖質の役割

生化学, **85**, 1012-1016 (2013).

Ying Zhang, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato

New NMR tools for characterizing the dynamic conformations and interactions of oligosaccharides

*Chem. Lett.*, **42**, 1455-1462 (2013).

(学会発表)

Kotaro Yanagi, Yukiko Kamiya, Toshihiko Kitajima, Takumi Yamaguchi, Yasunori Chiba, and Koichi Kato

Comparative conformational analysis of high-mannose-type oligosaccharides using high-field NMR spectroscopy combined with <sup>13</sup>C-labeling technique

Sokendai Asian Winter School "Frontiers in Photo-Molecular Science" 2013 年 1 月 15 日 (岡崎)

矢木宏和

神経系におけるキシロース含有 N 型糖鎖の高次機能およびその分子基盤の解明

新学術研究「神経糖鎖生物学」第 4 回 非公開班会議 2013 年 1 月 16 日 (宮崎)

今村幸治, 矢部宇一郎, 近藤幸子, 矢木宏和, 高橋禮子, 加藤晃一

3D-HPLC を利用した糖鎖構造解析法

第 5 回 先導技術交流会「次世代バイオ医薬品への挑戦(2)~CHO 細胞に替わる生産系開発の現状とレギュレーションの世界動向~」 2013 年 1 月 21 日 (東京)

Koichi Kato 【招待講演】

Structural Views of Carbohydrate-Protein Interaction Systems as Potential Therapeutic Targets

Kasetsart University Special Seminar 2013 年 1 月 22 日 (Bangkok, Thailand)

Maho Yagi-Utsumi and Koichi Kato

NMR Spectroscopic Characterization of the Pathogenic Interaction of Amyloid  $\beta$  Peptide with GM1 Clusters

Pure and Applied Chemistry International Conference 2013 (PACCON 2013)  
2013 年 1 月 24 日 (Chon Buri, Thailand) ; BBC-0-001.

Takumi Yamaguchi, Ying Zhang, and Koichi Kato

Paramagnetic Lanthanide-tagging for NMR Conformational Characterization of Glycolipids

Pure and Applied Chemistry International Conference 2013 (PACCON 2013)  
2013 年 1 月 24 日 (Chon Buri, Thailand) ; BBC-0-002.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural Views of Carbohydrate-Protein Interaction Systems as Potential Therapeutic Targets

Pure and Applied Chemistry International Conference 2013 (PACCON 2013)  
2013年1月24日 (Chon Buri, Thailand) ; OMC-I-002.

Pornthip Boonsri, Ratsupa Thammaphorn, Kiattawee Choowongkomol, Koichi Kato, and Supa Hannongbua

Structural and Dynamics Properties of HIV-1 Reverse Transcriptase Induced by Non-Nucleoside Inhibitors (NNRTIs) Based on Molecular Docking and NMR Studies

Pure and Applied Chemistry International Conference 2013 (PACCON 2013)  
2013年1月24日 (Chon Buri, Thailand) ; BBC-P-022.

Takumi Yamaguchi and Koichi Kato 【招待講演】

NMR approaches to the molecular basis of oligosaccharide functions

2013 Asian Core Winter School 2013年1月28日 (Busan, Korea)

加藤晃一 【招待講演】

生命分子複合体の動態解明への実験的アプローチ

京都大学原子炉実験所 特別講演会 2013年2月12日 (熊取)

Zhang Ying, 山口拓実, 山本さよこ, 植草義徳, 矢木真穂, 加藤晃一

Paramagnetic NMR approaches for characterization of conformational dynamics and interactions of oligosaccharides

日本生物物理学会中部支部講演会 2013年2月19日 (名古屋) ; T13.

大川慶祐, 矢木宏和, 植草義徳, 矢木真穂, 水島恒裕, 佐藤匡史, 佐伯 泰, 田中啓二, 加藤晃一

プロテアソームを構成するサブユニットとその集合因子 Ump1p の相互作用解析

日本生物物理学会中部支部講演会 2013年2月19日 (名古屋) ; T14.

Koichi Kato 【招待講演】

Conformational dynamics and interactions of oligosaccharides in physiological and pathological contexts

Fifth Korea-Japan Seminars on Biomolecular Sciences: Experiments and Simulations  
2013年2月25日 (Korea) ; S03-2.

Maho Yagi-Utsumi, Takumi Yamaguchi, Yoshinori Uekusa, and Koichi Kato 【招待講演】

NMR approaches for characterizing molecular recognition process of intrinsically disordered proteins

Fifth Korea-Japan Seminars on Biomolecular Sciences: Experiments and Simulations  
2013年2月25日 (Korea) ; S03-3.

Mahesh S. Chandak, Takashi Nakamura, Koki Makabe, Toshio Takenaka, Jin Chen, Koichi Kato, and Kunihiro Kuwajima 【招待講演】

Structural fluctuations of free GroES and the GroES bound to the single-ring chaperonin SR1 studied by hydrogen/deuterium exchange and 2D NMR

Fifth Korea-Japan Seminars on Biomolecular Sciences: Experiments and Simulations

2013年2月25日 (Korea) ; S03-4.

Koichi Kato 【招待講演】

Molecular and structural basis for N-glycan-dependent determination of glycoprotein fates in cells

Glycobiology Gordon Research Conference 2013年3月4日 (Ventura)

加藤晃一 【招待講演】

NMR と SANS によるタンパク質の動的構造解析

中性子連携研究会 2013年3月13日 (品川)

加藤晃一 【依頼講演】

NMR による糖鎖クラスターのダイナミクスと相互作用の解析

糖鎖集合状態の変化による幹細胞近接場制御についての討論会 2013年3月16日 (岡崎)

吉正 泰, 藤田大士, 佐藤宗太, 矢木真穂, 加藤晃一, 藤田 誠

生体分子インターフェースとしての  $M_nL_{2n}$  巨大球状錯体: 表面に精密配置した糖クラスターとペプチド A・の相互作用解析

日本化学会第93回春季年会 2013年3月23日 (草津) ; 2A5-12.

竹内良介, 佐藤宗太, 矢木真穂, 山口拓実, 山口芳樹, 加藤晃一, 藤田 誠

磁場配向性錯体の階層的自己組織化を利用した残余磁気双極子相互作用の誘起と制御

日本化学会第93回春季年会 2013年3月23日 (草津) ; 2B5-40.

佐藤匡史, 植草義徳, 廣本武史, 矢木真穂, 矢木宏和, 水島恒裕, 佐伯 泰, 田中啓二, 加藤晃一

プロテアソーム集合因子 Nas2 を介したプロテアソームの分子集合機構の構造基盤

日本薬学会 第133回年会 2013年3月29日 (横浜) ; 29S-am08.

加藤晃一 【招待講演】

NMR を用いた生体分子のダイナミクスの解析

大阪市立大学分子ナノ情報解析センターユーザーズミーティング 2013年4月16日 (大阪)

加藤晃一 【依頼講演】

生命分子のダイナミクスと自己組織化

国際高等研究所研究プロジェクト

「分子基盤に基づく生体機能への揺らぎとダイナミックネットワークの解明」第1回



研究会  
2013年4月21日(奈良)

Maho Yagi-Utsumi and Koichi Kato 【招待講演】

NMR approaches for characterizing interactions between GroEL and intrinsically disordered proteins

8<sup>th</sup> Asian Biophysics Association Symposium (ABA Jeju 2013) 2013年5月26日  
(jeju); IL2-3.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural glycobiology for biophysical decoding sweet messages

8<sup>th</sup> Asian Biophysics Association Symposium (ABA Jeju 2013) 2013年5月27日  
(jeju); IL7-1.

Tadashi Satoh, Yoshinori Uekusa, Takeshi Hiromoto, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Tsunehiro Mizushima, Yasushi Saeki, Keiji Tanaka, and Koichi Kato  
Structural insights into proteasome orchestration mechanism through a proteasome assembly factor Nas2

8<sup>th</sup> Asian Biophysics Association Symposium (ABA Jeju 2013) 2013年5月27日  
(jeju); 0\_34.

Takumi Yamaguchi, Ying Zhang, and Koichi Kato

Paramagnetic NMR approaches for revealing conformational dynamics of oligosaccharides

8<sup>th</sup> Asian Biophysics Association Symposium (ABA Jeju 2013) 2013年5月28日  
(jeju); 0\_15.

Tong Zhu, Maho Yagi-Utsumi, Hirokazu Yagi, Tadashi Satoh, and Koichi Kato  
Recombinant expression of an ER folding sensor UDP-glucose:glycoprotein glucosyltransferase

Korea and Japan joint symposium (Structural and functional studies on  
biomolecules)  
2013年5月28日(jeju)

Ratsupa Thammaporn, Maho Yagi-Utsumi, Supa Hannongbua, and Koichi Kato

Investigation of non-nucleoside reverse transcriptase inhibitors binding to HIV-1 reverse transcriptase: NMR analysis and isothermal titration calorimetry

Korea and Japan joint symposium (Structural and functional studies on  
biomolecules)  
2013年5月28日(jeju)

Tadashi Satoh

Structural basis for the proteasome orchestration mechanism by a proteasome assembly chaperone Nas2

Korea and Japan joint symposium (Structural and functional studies on  
biomolecules)

2013年5月28日 (jeju)

矢木真穂【招待講演】

NMR法を用いたアミロイド・の構造研究

第4回「アルツハイマー病診断・治療薬創出に向けた革新的探索系構築に関する研究会」

2013年6月7日 (大府)

矢木宏和

異なる生物基材で発現させた抗体の糖鎖プロファイリング

平成25年度 比較グライコーム研究会 2013年6月8日 (名古屋); S7.

佐藤匡史

糖タンパク質選別輸送装置の超分子形成および作動機構の解明

平成25年度 新学術領域「構造細胞生物学」全体会議・総括班会議

2013年6月19-21日 (清里)

Ying Zhang, Takumi Yamaguchi, Sayoko Yamamoto, Yoshinori Uekusa, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato

NMR analyses of conformational dynamics and interactions of oligosaccharides by employing paramagnetic probes

The 22nd International Glycoconjugate Symposium (GLYCO 22)

2013年6月25日 (Dalian); 144.

Gautam Mondal, Yogesh K Chawla, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Bishnu P Chatterjee

Glycoproteomics of serum proteins in hepatitis B and hepatitis C induced liver cirrhosis

The 22nd International Glycoconjugate Symposium (GLYCO 22)

2013年6月25日 (Dalian); 167.

Pornthip Boonsri, Maho Yagi-Utsumi, Ratsupa Thammaporn, Takumi Yamaguchi, Kotaro Yanagi, Kiattawee Choowongkomol, Koichi Kato, and Supa Hannongbua

Structural Analyses of HIV-1 Reverse Transcriptase Induced by Non-Nucleoside Inhibitors, based on NMR Studies and Molecular Dynamic Simulations

EUROMAR 2013 2013年7月2日 (Crete); 508TU.

Ying Zhang

Elucidation of the conformational dynamics of oligosaccharides by using NMR

Seminar in Shanghai University 2013年7月5日 (Shanghai)

佐藤匡史, 鈴木康介, 西尾美穂, 神谷由紀子, 矢木真穂, 水島恒裕, 加藤晃一

ERGIC-53/MCFD2 複合体による糖鎖認識の構造基盤

第59回 日本薬学会東海支部会 2013年7月6日 (名古屋)

矢木宏和

AG061 はラミニン結合性糖鎖の生合成に関与している

新学術領域研究「神経糖鎖生物学」第5回 非公開班会議  
2013年7月23日(滋賀); T-11, P-17.

Tadashi Satoh, Yoshinori Uekusa, Takeshi Hiromoto, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Tsunehiro Mizushima, Yasushi Saeki, Keiji Tanaka, and Koichi Kato  
Mechanistic insights into the proteasome orchestration by a proteasome assembly chaperone Nas2

7th International Conference on Structural Genomics (ICSG2013-SLS)  
2013年7月29日-8月1日(札幌); P007.

Koya Inagaki, Yoshinori Uekusa, Yukiko Kamiya, Tadashi Satoh, and Koichi Kato  
Structural basis underlying the redox-dependent domain rearrangement of the substrate-binding region of protein disulfide isomerase

7th International Conference on Structural Genomics (ICSG2013-SLS)  
2013年7月29日-8月1日(札幌); P129.

Eiji Kurimoto, Kimiko Kuroki, Yoshiki Yamaguchi, Maho Yagi-Utsumi, Takahiro Igaki, Takeshi Iguchi, Katsumi Maenaka, and Koichi Kato  
Structural and functional mosaic nature of MHC class I molecules in their peptide-free form

7th International Conference on Structural Genomics (ICSG2013-SLS)  
2013年7月29日-8月1日(札幌); P130.

山口拓実, Zhang Ying, 王 進政, 喜多島敏彦, 千葉靖典, 戸谷希一郎, 神谷由紀子, 加藤晃一

安定同位体標識と常磁性プローブ導入による高マンノース型糖鎖のNMR動的構造解析  
第32回日本糖質学会年会 2013年8月6日(大阪); B2-03.

佐藤匡史, 鈴木康介, 西尾美穂, 神谷由紀子, 矢木真穂, 水島恒裕, 加藤晃一  
積荷受容体 ERGIC-53/MCFD2 による糖鎖認識の構造基盤

第32回日本糖質学会年会 2013年8月6日(大阪); P-053.

加藤晃一【招待講演】

立体構造からみた糖鎖の不均一性

第32回日本糖質学会年会 2013年8月7日(大阪); W-8

小川光貴, 河合崇生, 堺谷祐太, 矢木宏和, 加藤晃一, 古川鋼一, 岡島徹也  
アダムズ-オリバー症候群に関わる Eogt 遺伝子変異の分子機構解析

第32回日本糖質学会年会 2013年8月7日(大阪); P-134.

山口拓実, 加藤晃一【招待講演】

NMR を用いた糖鎖のコンフォメーション揺らぎとクラスター特性の解析

国際高等研研究プロジェクト「分子基盤に基づく生体機能ネットワークとダイナミクスの解明」第2回研究会 2013年8月8日(木津川)

加藤晃一【招待講演】

生命分子システムにおける動的秩序形成と高次機能発現

国際高等研究プロジェクト「分子基盤に基づく生体機能ネットワークと  
ダイナミクスの解明」第2回研究会 2013年8月9日（木津川）

加藤晃一【招待講演】

NMRを用いた生命分子のダイナミクス解析

第2回 立命館大学BKC生体分子ネットワークセミナー 2013年8月20日（滋賀）

Koichi Kato【招待講演】

Dynamic organization of biomolecular systems for promotion of integrative  
functions

Summer School 2013 “Bioorganization” 2013年8月23日（岡崎）

Koichi Kato【招待講演】

Atomic Anatomy of Antibody as Glycoprotein

World Biopharma Week China Focus 2013 2013年9月5日（Shanghai）

Ying Zhang, Takumi Yamaguchi, Sayoko Yamamoto, and Koichi Kato【奨励賞受賞】

Paramagnetism-assisted NMR for atomic description of dynamic oligosaccharides  
糖鎖科学中部拠点 第11回若手のカフォーラム 2103年9月9日（名古屋）；0-  
6(A).

小川光貴, 河合崇生, 塚谷祐太, 矢木宏和, 加藤晃一, 古川鋼一, 岡島徹也

細胞外O-GlcNAcの神経組織における役割

糖鎖科学中部拠点 第11回若手のカフォーラム 2103年9月9日（名古屋）；P-1.

Tong Zhu, Kazuyoshi Murata, Takahasu Toshimori, Maho Yagi-Utsumi, Tadashi Satoh,  
and Koichi Kato

Bacterial expression and EM analysis of UDP-glucose glycosyltransferase from a  
thermophilic fungus

糖鎖科学中部拠点 第11回若手のカフォーラム 2013年9月9日（名古屋）；P-18.

小川光貴, 塚谷祐太, 河合崇生, 矢木宏和, 加藤晃一, 古川鋼一, 岡島徹也

EOGTの酵素化学的性質とアダムズ-オリバー症候群の関連性

第86回日本生化学会大会 2013年9月11日（横浜）；1T06p-15, 1P-041.

加藤晃一【招待講演】

シンポジウム3「医薬品をイメージするー革新的医薬品創出のための基礎技術ー」  
バイオ医薬品の構造をみる

第22回日本バイオイメージング学会学術集会 2013年9月16日（東京）；S3-1.

加藤晃一【招待講演】

糖鎖が担うタンパク質社会の秩序維持

市民公開講座・第99回分子科学フォーラム 2013年9月20日（岡崎）

山口拓実, Zhang Ying, 王 進政, 戸谷希一郎, 榮 慶丈, 岡本祐幸, 神谷由紀子, 加藤晃一

【講演賞受賞】

ランタニドイオンを活用した常磁性 NMR 法による糖鎖の動的構造解析

第 7 回バイオ関連化学シンポジウム 2013 年 9 月 27 日 (名古屋) ; 1B-10.

加藤晃一【招待講演】

生命分子の動的秩序形成におけるミクロ-マクロ相関の探査と設計原理の探求

新学術領域研究「動的秩序と機能」第 1 回公開シンポジウム 2013 年 10 月 2 日 (岡崎)

山口拓実【招待講演】

常磁性効果を活用した糖鎖の立体構造解析—NMR と分子動力学計算によるコンフォメーション空間の探査—

日本分光学会 NMR 分光部会 平成 25 年度講習会 2013 年 10 月 16 日 (名古屋)

加藤晃一【招待講演】

多次元 HPLC 法および NMR 法による糖鎖解析技術

抗体バイオ分析セミナー—抗体/バイオ医薬品における各種分析手法および解析手法—  
2013 年 10 月 22 日 (東京)

Koichi Kato【招待講演】

NMR characterization of dynamic conformational ensembles of oligosaccharides and intermolecular interactions in glycolipid clusters

5<sup>th</sup> Asia-Pacific NMR Symposium in conjunction with ANZMAG 2013  
2013 年 10 月 28 日 (Brisbane)

矢木-内海真穂

ガングリオシドとの特異的な相互作用に伴うアミロイド関連タンパク質の構造移転の NMR 解析

NMR characterization of conformational transitions of amyloidogenic proteins upon their specific interactions with gangliosides

第 51 回日本生物物理学会年会 2013 年 10 月 30 日 (京都) ; 3SEA-02.

Maho Yagi-Utsumi

Assembly mechanism of hereditary amyloid- $\beta$  variants upon their specific interactions with gangliosides

1<sup>st</sup> Annual Meeting of the Centre for Misfolding Diseases 2013 年 11 月 4 日  
(Cambridge)

加藤晃一【招待講演】

糖鎖の機能解明を目指した NMR アプローチ

NMR approaches for elucidating the functional roles of glycans

第 52 回 NMR 討論会 2013 年 11 月 12 日 (金沢) ; IL5.

北沢創一郎, 亀田倫史, 矢木-内海真穂, Nicola Baxter, 加藤晃一, Mike P. Williamson,  
北原 亮

高圧力 NMR 法によるユビキチンの準安定状態 N2 の立体構造解析: Q41N 変異体, 2500 気圧

High Pressure NMR Reveals Solution Structure of Alternatively Folded State of Ubiquitin: Q41N Variant at 2500 bar

第 52 回 NMR 討論会 2013 年 11 月 12 日 (金沢); P30.

Tong Zhu, Kazuyoshi Murata, Takayasu Toshimori, Takumi Yamaguchi, Maho Yagi-Utsumi, Tadashi Satoh, and Koichi Kato

EM tomography analysis of ER folding sensor enzyme UDP-glucose: glycoprotein glucosyltransferase

平成 25 年度 生理学研究所研究会「電子顕微鏡機能イメージングの医学・生物学への応用」

2013 年 11 月 13 日 (岡崎); P19.

加藤晃一【招待講演】

糖鎖を見る: 分子模型からムービーへ

平成 25 年度 生理学研究所研究会「構造の多様性に立脚した糖鎖機能の解明に向けて」

2013 年 11 月 15 日 (岡崎); 講演 12.

加藤晃一, 山口拓実【招待講演】

生命分子アッセムブリーにおける分子間相互作用のダイナミクスの精密解析

山田研究会・統合バイオサイエンスシンポジウム 2013 年 11 月 20 日 (伊良湖)

Ying-Hui Wang, Tadashi Satoh, Takeshi Hiromoto, Yoshinori Uekusa, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Tsunehiro Mizushima, Yasushi Saeki, Keiji Tanaka, and Koichi Kato

Interaction mode of a proteasome assembly chaperone Nas2 with the proteasome Rpt5 subunit

山田研究会・統合バイオサイエンスシンポジウム 2013 年 11 月 20 日 (伊良湖); 8-B.

Ying Zhang, Takumi Yamaguchi, Sayoko Yamamoto, and Koichi Kato

Conformation dynamics of ganglioside glycans as revealed by paramagnetism-assisted NMR spectroscopy

山田研究会・統合バイオサイエンスシンポジウム 2013 年 11 月 20 日 (伊良湖); 8-C.

Tong Zhu, Kazuyoshi Murata, Takayasu Toshimori, Takumi Yamaguchi, Maho Yagi-Utsumi, Tadashi Satoh, and Koichi Kato

Overall structure of ER folding sensor UDP-glucose: glycoprotein glucosyltransferase revealed by EM tomography

山田研究会・統合バイオサイエンスシンポジウム 2013 年 11 月 20 日 (伊良湖); 9-A.

Koya Inagaki, Yoshinori Uekusa, Yukiko Kamiya, Satoru Itoh, Hisashi Okumura, Tadashi Satoh, and Koichi Kato

Redox-dependent conformational changes of the substrate-binding region of protein disulfide isomerase

山田研究会・統合バイオサイエンスシンポジウム 2013年11月20日(伊良湖); 9-B.

加藤晃一【招待講演】

タンパク質社会の秩序維持における糖鎖の役割

お茶の水女子大学 糖鎖科学教育研究センター 第6回 公開シンポジウム  
2013年11月23日(東京)

Takumi Yamaguchi, Ying Zhang, Yukiko Kamiya, Yoshitake Sakae, Yuko Okamoto,  
and Koichi Kato

Paramagnetism-assisted NMR evaluation of molecular dynamics simulations for  
conformational characterization of oligosaccharides

6<sup>th</sup> Japan-Korea Seminars on Biomolecular Science: Experiments and Simulation  
2013年11月25日(岡崎)

Tadashi Satoh, Hirokazu Yagi, Ying-Hui Wang, Yoshinori Uekusa, Takeshi Hiromoto,  
Maho Yagi-Utsumi, Tsunehiro Mizushima, and Koichi Kato

Structural basis for proteasome formation mediated by assembly chaperone Nas2

6<sup>th</sup> Japan-Korea Seminars on Biomolecular Science: Experiments and Simulation  
2013年11月25日(岡崎)

Kentaro Kumoi, Tadashi Satoh, Kazuyoshi Murata, Takeshi Hiromoto, Tsunehiro  
Mizushima, Yukiko Kamiya, Masanori Noda, Susumu Uchiyama, Masaaki Sugiyama,  
Hirokazu Yagi, and Koichi Kato【招待講演】

An archaeal homolog of proteasome assembly chaperone forms a homotetramer and  
functions as proteasome activator

6<sup>th</sup> Japan-Korea Seminars on Biomolecular Science: Experiments and Simulation  
2013年11月27日(岡崎)

Ying-Hui Wang, Tadashi Satoh, Takeshi Hiromoto, Yoshinori Uekusa, Hirokazu Yagi,  
Maho Yagi-Utsumi, Tsunehiro Mizushima, Yasushi Saeki, Keiji Tanaka, and Koichi  
Kato

NMR characterization of the interaction of a proteasome assembly chaperone Nas2  
with the proteasome Rpt5 subunit

SOKENDAI Asian Winter School "Innovations and Challenges in Molecular  
Science:

From Basics to Cutting-edge Researches" 2013年12月11日(岡崎); P-18.

Ratsupa Thammaphorn, Pornthip Boonsri, Kiattawee Choowongkamon, Maho Yagi-Utsumi,  
Takumi Yamaguchi, Supa Hannongbua, and Koichi Kato

NMR investigation of non-nucleoside inhibitors binding to HIV-1 reverse  
transcriptase

SOKENDAI Asian Winter School "Innovations and Challenges in Molecular  
Science:

From Basics to Cutting-edge Researches" 2013年12月11日(岡崎); P-24.

Panuwat Padungros, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato

Position Selective  $^{13}\text{C}$  Labeling of Multi-Antennary Oligosaccharides for NMR Analysis

SOKENDAI Asian Winter School "Innovations and Challenges in Molecular Science:

From Basics to Cutting-edge Researches" 2013年12月11日 (岡崎)

山口拓実

核磁気共鳴法による糖鎖の3次元構造ダイナミクスの解明

第2回 NINS Colloquium 2013年12月16日 (掛川)

Koichi Kato 【招待講演】

Structural biology of glycoconjugates: Sugar chains as therapeutic targets

Yonsei-IMS Seminars on Biomolecular Sciences: Protein Structures and Diseases  
2013年12月16日 (Busan)

Tadashi Satoh, Kosuke Suzuki, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato 【招待講演】

Structural basis for disparate sugar-binding specificities in the homologous cargo receptors ERGIC-53 and VIP36

Yonsei-IMS Seminars on Biomolecular Sciences: Protein Structures and Diseases  
2013年12月16日 (Busan)

Hirokazu Yagi, Naoki Nakagawa, Takuya Saito, Hiroshi Kiyonari, Takaya Abe, Tatsushi Toda, Sz-Wei Wu, Kay-Hooi Khoo, Shogo Oka, and Koichi Kato 【招待講演】  
AG061-dependent GlcNAc modification primes the formation of functional glycans on  $\alpha$ -dystroglycan

Yonsei-IMS Seminars on Biomolecular Sciences: Protein Structures and Diseases  
2013年12月16日 (Busan)

Ying Zhang, Takumi Yamaguchi, Sayoko Yamamoto, and Koichi Kato

Elucidation of the conformational dynamics of oligosaccharides by using paramagnetism-assisted NMR spectroscopy

Yonsei-IMS Seminars on Biomolecular Sciences: Protein Structures and Diseases  
2013年12月16日 (Busan)

Tong Zhu, Kazuyoshi Murata, Takayasu Toshimori, Takumi Yamaguchi, Maho Yagi-Utsumi, Tadashi Satoh, and Koichi Kato

The structural biology study on ER folding sensor UDP-glucose:glycoprotein glucosyltransferase (UGGT)

Yonsei-IMS Seminars on Biomolecular Sciences: Protein Structure and Diseases  
2013年12月16日 (Busan)



【分子生物薬学分野】

(原報)

Natsuki Ochiai, Makoto Nishizuka, Tomomi Miyamoto, Ichiro Miyoshi, Masahito Ikawa, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa

Targeted disruption of fad24, a regulator of adipogenesis, causes pre-implantation embryonic lethality due to the growth defect at the blastocyst stage.

*Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **438**, 301–305 (2013).

Keisuke Tachibana, Kentaro Takeuchi, Hirohiko Inada, Ken Sugimoto, Kenji Ishimoto, Masanori Yamashita, Takashi Maegawa, Daisuke Yamasaki, Shigehiro Osada, Toshiya Tanaka, Hiromi Rakugi, Takao Hamakubo, Juro Sakai, Tatsuhiko Kodama, and Takefumi Doi

Human mannose-binding lectin 2 is directly regulated by peroxisome proliferator-activated receptors (PPARs) via a peroxisome proliferator responsive element.

*J. Biochem.*, **154**, 265–273 (2013).

Shigehiro Osada, Shugo Suzuki, Chiaki Yoshimi, Miho Matsumoto, Tomoyuki Shirai, Satoru Takahashi, and Masayoshi Imagawa.

Elevated expression of coactivator-associated arginine methyltransferase 1 is associated with early hepatocarcinogenesis.

*Oncol. Rep.*, **30**, 1669–1674 (2013).

Keishi Kishimoto, Makoto Nishizuka, Daiki Katoh, Ayumi Kato, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa

FAD104, a regulatory factor of adipogenesis, acts as a novel regulator of calvarial bone formation.

*J. Biol. Chem.*, **288**, 31772–31783 (2013).

(学会発表)

Keishi Kishimoto, Makoto Nishizuka, Takashi Ueda, Kenji Kajita, Shinya Ugawa, Shoichi Shimada, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa

Disruption of fad104, impairs the differentiation of alveolar epithelial cell.

Keystone Symposia conference Lung Development, Cancer and Disease  
2013年2月6日 (Taos); 1033.

西塚 誠【招待講演】

新規に同定した脂肪細胞分化制御因子の多様な生理機能

薬物代謝・分子毒性学仙台セミナー ～基礎研究から創薬・臨床へ～  
2013年2月16日 (仙台)

加藤大輝, 西塚 誠, 岸本圭史, 長田茂宏, 今川正良  
脂肪細胞分化を制御する fad104 が癌細胞の浸潤に与える影響の解析  
第 133 年会 日本薬学会 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28R-am18.

落合なつき, 長田茂宏, 西塚 誠, 今川正良  
脂肪細胞に重要な新規遺伝子 fad24 は胚発生に必須である  
第 133 年会 日本薬学会 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28P-pm13.

西塚 誠, 若林まい, 浅野真美, 長田茂宏, 今川正良  
脂肪細胞分化過程における K2P 型カリウムチャネルの役割  
第 133 年会 日本薬学会 2013 年 3 月 29 日 (横浜); 29amA-310.

長田茂宏【依頼講演】  
がん細胞の特徴を知って, がんのくすりを理解する  
第 16 回国際福祉健康産業展「ウェルフェア 2013」「ウェルフェア健康大学」  
2013 年 5 月 24 日 (名古屋)

今川正良【依頼講演】  
肥満を科学する  
平成 25 年度かすがい熟年大学 健康科学コース 2013 年 8 月 8 日 (春日井)

落合なつき, 西塚 誠, 長田茂宏, 今川正良  
脂肪細胞分化制御因子 fad24 は胚盤胞形成に必須である  
第 12 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2013 2013 年 9 月 14 日 (東京); 8.

今川正良【依頼講演】  
痩せているのに糖尿病? ~日本人の身体の秘密~  
平成 25 年度名古屋市地域女性団体連絡協議会セミナー 課題別リーダー研修  
2013 年 10 月 10 日 (名古屋)

長田茂宏【依頼講演】  
生活習慣病と遺伝子 ~くすりは遺伝子を制御できるか?~  
平成 25 年度市民公開講座 「遺伝子」と「病気」の関係 ~くすりは遺伝子に勝てるのか?~ 2013 年 10 月 19 日 (名古屋)

今川正良【特別講演】  
脂肪細胞分化の分子機構および新規制御因子が有する多彩な機能  
第 19 回福島県薬剤師研究発表会 2013 年 11 月 3 日 (郡山)

芝田裕一, 小松浩大, 今川正良, 長田茂宏  
オートファジー誘導時におけるヒストンバリエント H2A.Z 発現量の解析  
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2013  
2013 年 11 月 10 日 (鈴鹿); D-32.

長谷川郁恵, 今川正良, 長田茂宏

ヒストンメチル化酵素 CARM1 と転写調節因子 Nrf2 の相互作用

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2013  
2013年11月10日(鈴鹿); D-33.

新美有希, 今川正良, 長田茂宏

ヒストン脱アセチル化酵素 HDAC9 とハンチントン病関連タンパク質 HAP1 の相互作用の  
解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2013  
2013年11月10日(鈴鹿); D-34.

加藤大輝, 西塚 誠, 長田茂宏, 今川正良

新規遺伝子 fad104 ががん細胞の浸潤を制御する分子機構の解析

第36回日本分子生物学会年会 2013年12月3日(神戸); P1-0829.

長田茂宏, 新美有希, 山口桃子, 中村真也, 篠田 晃, 林 秀敏, 今川正良

ヒストン脱アセチル化酵素 HDAC9 とハンチントン病原因遺伝子に関連する HAP1 の相互  
作用

第36回日本分子生物学会年会 2013年12月4日(神戸); P2-0241.

Daiki Katoh, Makoto Nishizuka, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa  
Fad104, a positive regulator of adipocyte differentiation, suppresses  
invasion of cancer cells.

American Society for Cell Biology (ASCB) Annual Meeting  
2013年12月16日(New Orleans); B1501.

Hikaru Yamaguchi, Makoto Nishizuka, Mai Wakabayashi, Shigehiro Osada, and  
Masayoshi Imagawa

Functional analyses of KCNK2, a member of tandem-pore potassium channel, on  
formation of the protrusion and insulin signaling.

American Society for Cell Biology (ASCB) Annual Meeting  
2013年12月17日(New Orleans); B604.

【薬物送達学分野】

(原報)

Ozeki T

Functionally engineered nanosized particles in pharmaceuticals: improved oral delivery of poorly water-soluble drugs.

*Current Pharmaceutical Design* **19**(35):6259-69 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

田上辰秋, 尾関哲也

スプレードライ法による難水溶性薬物ナノ粒子ハンドリング技術の開発 製剤開発の世界潮流とわが国の将来展望

じほう, 第8章アカデミアにおける製剤基礎研究, p181-184 (2013).

田上辰秋

生体 HDL を模倣した金ナノ粒子によるリンパ腫に対する新しい DDS 戦略

ファルマシア 12 号, トピックス, F 医療薬科学 (2013).

(特許申請)

出願日: 2013 年

出願番号:

名称: 胃潰瘍予防剤

発明者: 尾関哲也, 田上辰秋, 宮崎剛, 宮本幸治

特許出願人: 日油 (株)

(学会発表)

田上辰秋, 羽倉文史, 尾関哲也

イマチニブの効率的なリポソーム内封入法の開発と骨形成に与える影響

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 27 日~30 日 (横浜)

伊藤竜也, 田上辰秋, 瀧井猛将, 小野寄菊夫, 尾関哲也

結核治療に向けた経肺投与型薬物ナノ粒子含有マイクロ粒子の開発

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 27 日~30 日 (横浜)

田上辰秋, 福重 香, 竹内堂朗, 東久保宏一, 池崎秀和, 尾関哲也

名古屋市立大学薬学部の製剤学実習における味覚センサー導入の試み~第 2 報~

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 27 日~30 日 (横浜)

竹内堂朗, 水迫英己, 田上辰秋, 服部憲治郎, 尾関哲也

葉酸 7 分岐修飾シクロデキストリン/ドキシソルピシン結合体による薬剤耐性がん細胞株  
に対する有用性

日本薬剤学会第 28 年会 2013 年 5 月 25 日 (名古屋)

前田 了, 伊藤竜也, 田上辰秋, 瀧井猛将, 小野寄菊夫, 尾関哲也  
肺胞マクロファージに効率的に薬物送達するための高水溶性薬物/界面活性剤ナノ粒子  
含有マイクロ粒子の開発

日本薬剤学会第 28 年会 2013 年 5 月 25 日 (名古屋)

上原一彰, 田上辰秋, 宮崎 格, 村田勲一, 大久保比呂司, 尾関哲也  
X 線検査装置により生じる X 線照射が医薬品錠剤の品質・製剤物性に与える影響

日本薬剤学会第 28 年会 2013 年 5 月 25 日 (名古屋)

高橋朋弘, 田上辰秋, 岩城壮一郎, 藤井 聡, 尾関哲也  
炎症誘発モデルマウスに対する人工 HDL 金ナノ粒子製剤の抗炎症効果

第 29 回日本 DDS 学会学術集会 2013 年 7 月 5 日 (京都)

久保田雅仁, 田上辰秋, 尾関哲也  
Poloxamer188 ハイブリッドリポソームによる温度応答型薬物放出制御

第 29 回日本 DDS 学会学術集会 2013 年 7 月 5 日 (京都)

照喜名孝之, 内藤禎人, 田上辰秋, 市川哲雄, 尾関哲也  
歯科インプラント治療に有用な Simvastatin 含有徐放性骨セメントの開発

第 59 回日本薬学会東海支部総会・大会 2013 年 7 月 6 日 (名古屋)

福重 香, 田上辰秋, 尾関哲也  
siRNA ナノキャリアとして有用な新規ヒアルロン酸被覆型脂質粒子の開発

第 59 回日本薬学会東海支部総会・大会 2013 年 7 月 6 日 (名古屋)

Yukino Imao, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki  
Curcumin nanoparticles preparation by femtosecond laser and the anti  
proliferation effect on cancer cell lines

The 5th Asian Arden Conference 2013 年 8 月 5 日 (名古屋)

Tatsuaki Tagami, Takeshi Hagura, Tetsuya Ozeki  
Imatinib-loaded liposome preparation by remote loading method and the bone  
formation effect in vitro The 5th Asian Arden Conference 2013 年 8 月 5 日  
(名古屋)

Kaori Fukushige, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki  
Evaluation and characterization of hyaluronic acid-coated lipid nanoparticles  
containing siRNA

The 5th Asian Arden Conference 2013 年 8 月 5 日 (名古屋)

Saori Kashiwagi, Yukihisa Kameya, Toshiro Fukami, Tatsuaki Tagami,  
Toyohumi Suzuki, Kazuo Tomono, Tetsuya Ozeki

Physical Characterization of Acetaminophen-Profile Cocystal Prepared by Spray Drying

The 10th International Symposium on AGGLOMERATION 2013年9月3日(神戸)

Ryo Maeda, Tatsuya Ito, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki  
Novel Inhaled Formulation of Surfactant-Coated Drug Nanoparticle/Mannitol Composites Prepared by a Unique Spray Nozzle-Based Spray Dryer

The 10th International Symposium on AGGLOMERATION 2013年9月3日(神戸)

高橋朋弘, 田上辰秋, 岩城壮一郎, 藤井 聡, 尾関哲也  
善玉コレステロール(HDL)様ナノ粒子の創製とその物性評価

第22回DDSカンファランス 2013年9月6日(静岡)

久保田雅仁, 田上辰秋, 尾関哲也  
Poloxamer188含有DPPCリポソームによる温熱感受性の基礎的検討

第22回DDSカンファランス 2013年9月6日(静岡)

星川晃宏, 田上辰秋, 尾関哲也  
動脈硬化症治療を目的とした膜タンパク再構成リポソームの調製

平成25年度粉体工学会中部談話会研究・技術交流会 2013年9月25日(浜松)

高橋朋弘, 田上辰秋, 岩城壮一郎, 藤井 聡, 尾関哲也  
善玉コレステロール様ナノ粒子の創製とその抗炎症効果の評価

平成25年度粉体工学会中部談話会研究・技術交流会 2013年9月25日(浜松)

上原一彰, 田上辰秋, 宮崎 格, 村田勲一, 大久保比呂司, 尾関哲也  
種々の強度のX線照射による医薬品錠剤の品質・製剤物性への影響

第30回製剤と粒子設計シンポジウム 2013年10月18日(岐阜)

Masahito Kubota, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki  
Thermosensitive property of poloxamer188-incorporated DPPC liposome

2013 AAPS Annual Meeting and Exposition 2013年11月13日  
(San Antonio, Texas, USA )

Tomohiro Takahashi, Tatsuaki Tagami, Soichiro Iwaki, Satoshi Fujii, Tetsuya Ozeki

Anti-inflammatory effect of synthesized biomimetic HDL nanoparticles on inflammation-induced mice

2013 AAPS Annual Meeting and Exposition 2013年11月13日  
(San Antonio, Texas, USA )

Takayuki Terukina, Yoshihito Naito, Tatsuaki Tagami, Tetsuo Ichikawa, Tetsuya Ozeki  
Development of sustainable and controllable simvastatin-releasing device based on PLGA microspheres for useful dental implant therapy

2013 AAPS Annual Meeting and Exposition 2013年11月14日  
(San Antonio, Texas, USA )

Tetsuya Ozeki, Tatsuya Ito, Tatsuaki Tagami, Takemasa Takii, Tetsuya Ozeki  
Pulmonary Nanoparticles Delivery of a Novel Drug Candidate OCT313 for  
Inhalation Therapy of Tuberculosis

2013 AAPS Annual Meeting and Exposition 2013年11月14日  
(San Antonio, Texas, USA )

瀧 萌子, 田上辰秋, 尾関哲也

2液混合型スプレーノズルによる健康食品の苦味マスキング技術の開発

創剤フォーラム若手研究会 2013年12月7日(船橋)

【生薬学分野】

(原報)

Hiroataka Yamashita, Toshiaki Makino, Naoki Inagaki, Mitsuhiko Nose, Hajime Mizukami

Assessment of relief from pruritus due to kampo medicines by using murine models of atopic dermatitis

*J. Trad. Med.* **30**(3), 114–123 (2013).

Fan Bai, Toshiaki Makino, Keiko Kono, Akito Nagatsu, Takahiko Ono, Hajime Mizukami

Calycosin and formononetin from astragalus root enhance dimethylarginine dimethylaminohydrolase 2 and nitric oxide synthase expressions in Madin Darby Canine Kidney II cells

*J. Nat. Med.* **67**(4): 782–789 (2013).

Toshiaki Makino, Misaki Kanemaru, Shuji Okuyama, Ryosuke Shimizu, Hisashi Tanaka, Hajime Mizukami

Anti-allergic effects of enzymatically modified isoquercitrin ( $\alpha$ -oligoglucosyl quercetin 3-*O*-glucoside), quercetin 3-*O*-glucoside,  $\alpha$ -oligoglucosyl rutin, and quercetin, when these substances were orally administered to mice

*J. Nat. Med.* **67**(4): 881–886 (2013).

Keisuke Asada, Vonny Salim, Sayaka Masada-Atsumi, Elizabeth Edmunds, Mai Nagatoshi, Kazuyoshi Terasaka, Hajime Mizukami, Vincenzo De Lucab

A 7-deoxyloganetic Acid glucosyltransferase contributes a key step in secologanin biosynthesis in madagascar periwinkle.

*Plant Cell* **25**(10): 4123–4134 (2013).

Takamitsu Yoshida, Kazuyoshi Terasaka, Setsuko Kato, Fan Bai, Naoki Sugimoto, Hiroshi Akiyama, Takeshi Yamazaki, Hajime Mizukami

Quantitative determination of carthamin in *Carthamus Red* by <sup>1</sup>H-NMR spectroscopy

*Chem. Pharm. Bull.* **61**(12): 1264–1268 (2013).

Masayuki Sakiyama, Hiroataka Matsuo, Seiko Shimizu, Toshinori Chiba, Akiyoshi Nakayama, Yuzo Takada, Takahiro Nakamura, Tappei Takada, Emi Morita, Mariko Naito, Kenji Wakai, Hiroki Inoue, Seishiro Tatsukawa, Junki Sato, Kazumi Shimono, Toshiaki Makino, Takahiro Satoh, Hiroshi Suzuki, Yoshikatsu Kanai, Nobuyuki Hamajima, Yutaka Sakurai, Kimiyoshi Ichida, Toru Shimizu, Nariyoshi Shinomiya

A common variant of leucine-rich repeat containing 16A (LRRC16A) gene is associated with gout susceptibility

*Human Cell* **7**(4): e35763 (2013).



Hong Wang, Xue Bai, Jiahong Sun, Yoshihiro Kano, Toshiaki Makino, Dan Yuan  
Metabolism and excretion of kakkalide and its metabolites in rat urine, bile,  
and feces as determined by HPLC/UV and LC/MS/MS

*Planta Med.* **79**(16): 1552-1557 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

水上 元

薬用植物のバイオテクノロジー

『薬用植物学』(共著, 木村孟淳, 田中俊弘, 酒井英二, 山地誠一編), 南江堂, 東京,  
pp. 72-81 (2013).

Toshiaki Makino, Nobuhiro Ohtake

Mechanisms of licorice-induced pseudoaldosteronism, one of the most common side  
effects of traditional Japanese kampo medicine and traditional Chinese medicine

“Traditional Medicine - New Research” ed. Yoshiharu Motoo, Nova Science  
Publishers, New York, in pp.135-146 (2013).

牧野利明

薬剤による副作用～漢方薬, 健康食品

『図解薬害・副作用学』(共著, 川西正祐, 小野秀樹, 賀川義之編), 南山堂,  
pp. 352-355 (2013).

雷祥麟, 牧野利明

中国医学の研究方法論～1920年代台湾での杜聡明のケースから

*薬史学雑誌* **48**(1), 7-15 (2013).

牧野利明, 笛木 司

漢方薬の薬学管理における留意点～方剤成分の煎出に対する水質の影響

*薬局* **64**(10), 72-76 (2013).

元雄良治, 牧野利明

日常診療能力を高めるための漢方活用術～小柴胡湯の副作用事例の遺したもの

*治療* **95**(10), 1678-1682 (2013).

牧野利明

生薬・漢方薬の基礎薬理研究レビュー

*漢方の臨床* **60**(1), 78 (2013).

牧野利明

漢方薬理・最前線～小青竜湯①

*phil 漢方* **41**, 9-11 (2013).

牧野利明

漢方薬理・最前線～小青竜湯②

*phil 漢方* **42**, 9-11 (2013).

牧野利明  
漢方薬理・最前線～抑肝散・抑肝散加陳皮半夏①  
*phil 漢方* 43, 9-11 (2013).

牧野利明  
漢方薬理・最前線～抑肝散・抑肝散加陳皮半夏②  
*phil 漢方* 45, 10-13 (2013).

牧野利明  
漢方薬理・最前線～六君子湯①  
*phil 漢方* 46, 10-11 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第6回～生薬が原料の医薬品製剤について  
*医薬経済* 1月15日号, 46-47 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第7回～医療用漢方エキス製剤について  
*医薬経済* 2月1日号, 46-47 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第8回～医療用漢方エキス製剤の適応  
*医薬経済* 3月15日号, 46-47 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第9回～漢方薬に関する医薬品情報  
*医薬経済* 4月1日号, 48-49 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第10回～漢方薬が含む化合物の消化管吸収  
*医薬経済* 5月15日号, 50-51 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第11回～漢方薬と西洋薬の相互作用  
*医薬経済* 6月1日号, 45-46 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第12回～漢方薬が食前投与である理由  
*医薬経済* 7月15日号, 50-51 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第13回～漢方薬による副作用①～間質性肺炎と薬物性  
肝障害  
*医薬経済* 8月15日号, 50-51 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第14回～漢方薬による副作用②～アリストロキア腎症  
*医薬経済* 9月15日号, 50-51 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第15回～漢方薬による副作用③～麻黄  
*医薬経済* 10月1日号, 46-47 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第16回～漢方薬による副作用④～偽アルドステロン症  
*医薬経済* 11月1日号, 46-47 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第17回～漢方薬による副作用⑤～腸間膜静脈硬化症  
*医薬経済* 11月15日号, 50-51 (2013).

牧野利明  
今さら聞けない生薬・漢方薬 第18回～生薬に関する独特な用語の解説  
*医薬経済* 12月1日号, 48-49 (2013).

牧野利明  
薬用植物について①  
*道薬誌* 30(8), 17-18 (2013).

牧野利明  
薬用植物について②  
*道薬誌* 30(10), 15-16 (2013).

牧野利明  
薬用植物について③  
*道薬誌* 30(12), 21-22 (2013).

(学会発表)

牧野利明  
その他の重要な処方～去痰剤, 安神剤, 平肝熄風剤／生薬・漢方薬の医療薬学的諸問題①  
漢方勉強会「基礎からの漢方60分」第11回, 2013年1月7日(名古屋)

牧野利明  
初心者のための重要漢方処方～真武湯, 呉茱萸湯, 当帰四逆加呉茱萸生姜湯  
東海漢方協議会, 2013年1月11日(名古屋)

牧野利明

生薬の解説：蒼朮と白朮について

日本東洋医学会関西支部六県合同教育講演会，2013年2月24日（大阪）

牧野利明

漢方専門医のための生薬学入門～漢方専門医は生薬を知らなくていいのですか？

日本東洋医学会東北支部教育講演会，2013年3月3日（仙台）

牧野利明

初心者のための重要漢方処方～当帰芍薬散，加味逍遙散，桂枝茯苓丸

東海漢方協議会，2013年3月10日（名古屋）

牧野利明

生薬・漢方薬の医療薬学的諸問題②

漢方勉強会「基礎からの漢方60分」第12回，2013年3月13日（名古屋）

牧野利明【シンポジスト講演】

医療人がそなえるべき漢方薬の薬理と薬能について

第86回日本薬理学会年会，2013年3月23日（福岡）；S3C-28-4.

渥美さやか，高橋 豊，寺坂和祥，水上 元，橋井則貴，袴塚高志，川原信夫，合田幸広

イオンモビリティ分離技術を利用した生薬中の異性体成分の構造推定法に関する研究：

大黄中のアントラキノン配糖体について

日本薬学会第133回年会，2013年3月29日（横浜）；29amA-318.

森永 紀，牧野利明，大北剛司，水上 元，正山征洋

甘草の副作用，偽アルドステロン症発症推定原因物質 3MGA の ELISA による定量法の開発

日本薬学会第133回年会，2013年3月30日（横浜）；30pmF-683.

牧野利明

漢方薬，生薬における医療薬学的諸問題

知多市薬剤師会研究会，2013年4月4日（知多）

牧野利明

初心者のための重要漢方処方～桂枝湯，葛根湯，麻黄湯，小青竜湯

東海漢方協議会，2013年4月14日（名古屋）

Hisae Minami, Yoichi Shintani, Toshiaki Makino, Hajime Mizukami, Akimichi Morita

Screening of natural medicine effects on melanogenesis in normal human melanocytes

International Investigative Dermatology 2013, 2013年5月8-11日 (Edinburgh, Scotland)

牧野利明

漢方専門医のための生薬学入門

鳥羽漢方ミーティング, 2013年5月19日(鳥羽)

牧野利明

初心者のための重要漢方処方～小柴胡湯, 大柴胡湯, 柴胡桂枝湯

東海漢方協議会, 2013年6月9日(名古屋)

牧野利明

健康食品と医薬品

NPO 医療教育研究所 E ラーニング, 2013年6月23日(東京)

村上友康, 倉谷亮佑, 勝 弘毅, 山本昇平, 条 和彦, 牧野利明, 上園保仁, 大澤匡弘

がん悪液質に対する PPAR $\gamma$  活性化能をもつ生薬の効果

第123回日本薬理学会近畿部会, 2013年7月12日(名古屋); B-24.

牧野利明

臨床生薬学

東京漢方教育センター, 2013年7月14日(東京)

牧野利明

口腔外科領域における漢方治療及び処方解説

漢方勉強会「基礎からの漢方60分」, 2013年7月18日(名古屋)

Toshiaki Makino 【シンポジスト講演】

Trials to translate the effect in traditional Chinese medicine of crude drugs to the pharmacology in modern science

The 6th Annual Conference of Specialty Committee of TCM Pharmacology of the World Federation of Chinese Medicine Societies, 2013年7月20日, Harbin, China

Toshiaki Makino

“Clinical Pharmacognosy 臨床生薬学” Integration between Pharmacognosy and Clinical Pharmacy

黑龙江中医药大学特別セミナー, 2013年7月21日(哈日賓)

牧野利明

臨床生薬学

医学生のための漢方医学セミナー, 2013年8月8日(亀岡)

牧野利明

漢方の科学

東百会, 2013年8月17日(名古屋)

牧野利明  
漢方の科学

日本漢方協会, 2013年8月18日(東京)

牧野利明【シンポジスト講演】

伝統医学における多様性の中での生薬学の役割

第30回和漢医薬学会学術大会, 2013年8月31日(金沢); S1-4.

全 智揚, 牧野利明, 井上勝央, 水上 元

小青竜湯の有機アニオン輸送ペプチド(OATP)1A2阻害作用

第30回和漢医薬学会学術大会, 2013年8月31日(金沢); P-24.

山本彩乃, 鈴木俊章, 山本昇平, 大澤匡弘, 牧野利明, 元雄良治, 水上 元

オキサリプラチンによる末梢神経障害性疼痛に対する人参養栄湯の効果緩和作用

第30回和漢医薬学会学術大会, 2013年8月31日(金沢); P-45.

渥美さやか, 牧野利明, 伊藤美千穂, 能勢充彦, 鄭美和, 三上正利, 柴原直利, 花輪  
壽彦, 一般用漢方製剤委員会, 袴塚高志, 合田幸広

一般用漢方製剤の安全性確保に関する研究(1):「安全に使うための漢方処方確認票」  
の作成

第30回和漢医薬学会学術大会, 2013年8月31日(金沢); P-66.

牧野利明

臨床生薬学入門～生薬・漢方薬における医療薬学的諸問題

薬剤師のための漢方学術講演会(旭川薬剤師会), 2013年9月5日(旭川)

南安依里, 梶田梨恵, 田中基裕, 渡邊高志, 飯田 修, 小山鐵夫, 水上 元

ミフクラギに含まれる抗腫瘍活性成分の探索

日本生薬学会第60回年会, 2013年9月7日(当別町, 北海道); 1D-08.

鈴木俊章, 山本彩乃, 横山尚美, 大澤匡博, 牧野利明, 水上 元, 元雄良治

Oxaliplatinによる*in vitro*神経障害に対する人参養栄湯の緩和作用

日本生薬学会第60回年会, 2013年9月7日(当別町, 北海道); 1E-04.

横山尚美, 鈴木俊章, 大澤匡弘, 牧野利明, 水上 元

オキサリプラチンによるマウス脊髄後根神経節細胞障害に対する加工ブシの作用

日本生薬学会第60回年会, 2013年9月7日(当別町, 北海道); 1P-03.

立岩千佳, 寺坂和祥, 水上 元

センブリ由来イリド配糖化酵素遺伝子の探索

日本生薬学会第60回年会, 2013年9月7日(当別町, 北海道); 1P-72.

渥美さやか, 牧野利明, 伊藤美千穂, 能勢充彦, 鄭美和, 三上正利, 柴原直利, 花  
輪壽彦, 一般用漢方製剤委員会, 袴塚高志, 合田幸広

一般用漢方製剤の安全性確保に関する研究(2):「安全に使うための漢方処方確認  
票」の作成

日本生薬学会第 60 回年会, 2013 年 9 月 7 日 (当別町, 北海道); 1P-78.

寺坂和祥【奨励賞受賞講演】

植物の二次代謝糖転移酵素の機能解析とその有用配糖体政産への応用

日本生薬学会第 60 回年会, 2013 年 9 月 8 日 (当別町, 北海道); 2A-AW5.

塚本恒星, 山本恭輔, 牧野利明, 水上 元

芍薬成分 mudanpioside E が小青竜湯の抗アレルギー作用を抑制していた

日本生薬学会第 60 回年会, 2013 年 9 月 8 日 (当別町, 北海道); 2P-28.

堀場亜佐子, 田代雄祐, 服部 広, 寺坂和祥, 水上 元

ムラサキ由来 MATE タンパク質の RA 輸送能

日本生薬学会第 60 回年会, 2013 年 9 月 8 日 (当別町, 北海道); 2P-78.

篠田祐布香, 寺坂和祥, 關 光, 村中俊哉, 水上 元

ウラルカンゾウからの有機アニオントランスポーターホモログ遺伝子の単離とグリチルリチン酸輸送活性の検討

第 31 回日本植物細胞分子生物学会 (札幌) 大会・シンポジウム, 2013 年 9 月 10 日 (札幌); P-10.

鮎川美奈子, 木村雪乃, 永利麻衣, 寺坂和祥, 加藤信樹, 樋口恒彦, 水上 元

クチナシのクロシン生合成に關与するアルデヒド酸化酵素の機能解析

第 31 回日本植物細胞分子生物学会 (札幌) 大会・シンポジウム, 2013 年 9 月 11 日 (札幌); 2Aa-02.

牧野利明

生薬の薬能のサイエンス

京都漢方研究会, 2013 年 9 月 15 日 (京都)

渥美さやか, 寺坂和祥, 瀧野裕之, 高橋 豊, 橋井則貴, 川崎ナナ, 水上 元, 川原信夫, 袴塚高志, 合田幸広

イオンモビリティ分離技術を利用した生薬中の異性体成分の構造推定法に関する研究 (2): 大黃中のアントラキノン配糖体について

第 55 回天然有機化合物討論会, 2013 年 9 月 18 日 (京都); P-16.

牧野利明

漢方エキス製剤の使い方と問題点

東北大学大学院医学系研究科総合地域医療研修センター第 7 回漢方研修会, 2013 年 9 月 20 日 (仙台)

牧野利明【シンポジスト講演】

漢方研究のターゲットとしてのトランスポーター

日本薬物動態学会第 28 回年会, 2013 年 10 月 10 日 (東京); SY-10-05.

山本彩乃, 鈴木俊章, 大澤匡弘, 牧野利明, 元雄良治, 水上 元

オキサリプラチンによるマウスでの神経障害性疼痛に対する人參養榮湯の緩和作用

第 43 回日本東洋医学会東海支部学術総会, 2013 年 11 月 10 日 (名古屋); 1.

鈴木俊章, 山本彩乃, 大澤匡弘, 牧野利明, 元雄良治, 水上 元

オキサリプラチンによる in vitro 神経障害に対する人参養栄湯の保護作用

第 43 回日本東洋医学会東海支部学術総会, 2013 年 11 月 10 日 (名古屋); 2.

横山尚美, 鈴木俊章, 大澤匡弘, 牧野利明, 水上 元

オキサリプラチンによるマウス脊髄後根神経節培養細胞障害に対する加工ブシの作用

第 43 回日本東洋医学会東海支部学術総会, 2013 年 11 月 10 日 (名古屋); 3.

牧野利明

生薬・東洋ハーブ原料の活用の現状と今後の可能性

マーケティング研究協会「東洋生薬研究セミナー」, 2013 年 11 月 13 日 (東京)

牧野利明

漢方エキス製剤の使い方と問題点

兵庫医科大学中医薬孔子学院生涯教育センター第 1 回漢方薬教育セミナー,  
2013 年 11 月 16 日 (神戸)

牧野利明

ペインクリニック領域における漢方治療の実際と処方解説

漢方勉強会「基礎からの漢方 60 分」, 2013 年 11 月 21 日 (名古屋)

牧野利明

中黄膏の製造方法

第 15 回日本漢方交流会漢方薬剤師育成研修会, 2013 年 11 月 23 日 (熊本)

Toshiaki Makino

Identification of Cangzhu (蒼朮) and Baizhu (白朮), and their differences in  
TCM pharmacology (效能)

沈阳药科大学特別セミナー, 2013 年 11 月 25 日 (沈阳)

牧野利明

医学生のための生薬学／漢方薬理学

大阪大学医学部特別講義, 2013 年 12 月 4 日 (大阪)

牧野利明

初心者のための重要漢方処方～桂枝加朮附湯, 越婢加朮湯, 麻杏甘石湯

東海漢方協議会, 2013 年 12 月 8 日 (名古屋)



【衛生化学分野】

(原報)

Keiichi Taniguchi, Takemasa Takii, Saburo Yamamoto, Jun-ichi Maeyama, Sumiko Iho, Mitsuo Maruyama, Narushi Iizuka, Yuriko Ozeki, Sohkiichi Matsumoto, Tomohiro Hasegawa, Yuuji Miyatake, Saotomo Itoh and Kikuo Onozaki

Reactivation of immune responses against *Mycobacterium tuberculosis* by boosting with the CpG oligomer in aged mice primarily vaccinated with *Mycobacterium bovis* BCG

*Immunity & Ageing*, **10**, 25 (2013) .

Saotomo Itoh, Ryosuke Yokoyama, Go Kamoshida, Toshinobu Fujiwara, Hiromi Okada, Takemasa Takii, Tsutomu Tsuji, Satoshi Fujii, Hideki Hashizume, Kikuo Onozaki. Staphylococcal superantigen-like protein 10 (SSL10) inhibits blood coagulation by binding to prothrombin and factor Xa via their  $\gamma$ -carboxyglutamic acid (Gla) domain.

*Journal of Biological Chemistry*, **288**, 21569–21580 (2013) .

Nagatoshi Fujiwara, Steven A. Porcelli, Takashi Naka, Ikuya Yano, Shinji Maeda, Hirotaka Kuwata, Shizuo Akira, Satoshi Uematsu, Takemasa Takii, Hisashi Ogura, Kazuo Kobayashik

Bacterial sphingophospholipids containing non-hydroxy fatty acid activate murine macrophages via Toll-like receptor 4 and stimulate bacterial clearance.

*Biochim Biophys Acta.*, **1831**, 1177–1184 (2013).

Miki Adachi , Shosuke Okamoto , Satomi Chujo , Tomohiro Arakawa , Megumi Yokoyama , Kyohei Yamada , Aki Hayashi, Kunihiko Akita , Masafumi Takeno , Saotomo Itoh , Takemasa Takii , Yuko Waguri-Nagaya , Takanobu Otsuka , Kazuichi Hayakawa , Keiji Miyazawa and Kikuo Onozaki

Cigarette smoke condensate extracts induce IL-1 beta production from rheumatoid arthritis patient-derived synoviocytes, but not osteoarthritis patient-derived synoviocytes, through aryl hydrocarbon receptor-dependent NF-kappa B activation and novel NF-kappa B sites

*Journal of Interferon & Cytokine Research*, **33**, 297–307 (2013) .

Saotomo Itoh, Natsuko Yamaoka, Go Kamoshida, Takemasa Takii, Tsutomu Tsuji,

Hidetoshi Hayashi, Kikuo Onozaki

Staphylococcal superantigen-like protein 8 (SSL8) binds to tenascin C and inhibits tenascin C - fibronectin interaction and cell motility of keratinocytes.

*Biochemical and Biophysical Research Communications*, **433**, 127-132 (2013) .

Naoki Takizawa, Toshinobu Fujiwara, Manabu Yamasaki, Ayako Saito, Akira Fukao, Akio Nomoto, Kiyohisa Mizumoto

The essential role for the RNA triphosphatase Cet1p in nuclear import of the mRNA capping enzyme Cet1p-Ceg1p complex of *Saccharomyces cerevisiae*.

*PLoS One*. 2013 Oct 30;8(10):e78000 (2013) .

(学会発表)

宮竹佑治, 山本三郎, 瀧井猛将

BCG Tokyo172 株 (I 型・II 型) 間における酸化ストレス応答性の差異に関する研究

第 86 回日本細菌学会総会 2013 年 3 月 18-20 日 (千葉)

小川翔大, 小川賢二, 大原直也, 後藤義孝, 瀧井猛将

酸性条件下における *Mycobacterium avium* の *arcA* mRNA 発現誘導の解析

第 86 回日本細菌学会総会 2013 年 3 月 18-20 日 (千葉)

花村菜月, 堀田康弘, 伊藤佐生智, 小川賢二, 八木哲也, 西森 敬, 大原直也, 藤原永年,

前田伸司, 山崎利雄, 瀧井猛将

トリ型結核菌 *Mycobacterium avium* のアミノ酸代謝とアンモニア産生に関する研究

第 88 回日本結核病学会総会 2013 年 3 月 27 日 (千葉)

横山領介, 伊藤佐生智, 鴨志田剛, 奥村拓也, 瀧井猛将, 藤井 聡, 辻 勉, 小野寄菊夫

黄色ブドウ球菌スーパー抗原様タンパク質 SSL3 は Toll like receptor 2 の細胞外領域に結合し, TLR2 を介したマクロファージからの炎症性サイトカイン産生を抑制する

日本薬学会 第 133 年会 2013 年 3 月 30 日 (横浜)

横山領介, 伊藤佐生智, 奥村拓也, 鴨志田剛, 瀧井猛将, 藤井 聡, 辻 勉, 小野寄菊夫,

藤原俊伸

Staphylococcal superantigen-like 3 は Toll-like receptor 2 に結合する

第 14 回 Pharmacohematology シンポジウム 2013 年 6 月 1 日 (東京)

Takemasa Takii, Keiichi Taniguchi, Saburo Yamamoto, Jun-ichi Maeyama, Sumiko Iho, Mitsuo Maruyama, Narushi Iizuka, Yuriko Ozeki, Sohkichi Matsumoto, Saotomo Itoh and Kikuo Onozaki

Boosting effect of Oligo-B in super aged mice primarily vaccinated with Mycobacterium bovis BCG on the protection activity against Mycobacterium tuberculosis infection

Front Range Mycobacteria Conference 2013 2013 年 6 月 19 日 (USA)

深尾亜喜良, 藤原俊伸

真核生物の翻訳開始段階における, 翻訳促進機構と抑制機構との拮抗関係の解析

第 15 回日本 RNA 学会 7 月 24-26 日 (松山)

矢野雄暉, 深尾亜喜良, 藤原俊伸

活性型 Akt1 による eIF4B のリン酸化を介した RNA 結合タンパク質 HuD の cap 依存的翻訳の促進

RNA frontier meeting 2013 9 月 3-5 日 (静岡)

筑比地慧, 宮田江里香, 花村菜月, 小川翔大, 藤原俊伸, 伊藤佐生智, 瀧井猛将

マクロファージ内 Mycobacterium avium の Clarithromycin 感受性に及ぼす Bafilomycin A1 の効果

第 25 回微生物シンポジウム 9 月 6-7 日 (静岡)

小川翔大, 花村菜月, 宮田江里香, 藤原俊伸, 伊藤佐生智, 瀧井猛将

非結核性抗酸菌 Mycobacterium avium の pH 依存的な arcA の発現調節に関する研究

第 25 回微生物シンポジウム 9 月 6-7 日 (静岡)

花井朱璃, 伊藤佐生智, 藤原俊伸, 瀧井猛将, 辻 勉, 小野寄菊夫

Staphylococcal superantigen-like protein 5 (SSL5) とその宿主側標的分子 matrixmetalloproteinase (MMP)-9 の結合様式の解析

第 25 回微生物シンポジウム 9 月 6-7 日 (静岡)

横山領介, 伊藤佐生智, 鴨志田剛, 奥村拓也, 藤原俊伸, 瀧井猛将, 藤井 聡, 辻 勉,

小野寄菊夫

Staphylococcal superantigen like 3 (SSL3) は toll like receptor 2 (TLR2) の細胞外ドメインに結合し, TLR2 リガンドによるマクロファージのサイトカイン産生を抑制する

第 58 回日本ブドウ球菌研究会 9 月 27-28 日 (八王子)

Saotomo Itoh, Ryosuke Yokoyama, Go Kamoshida, Toshinobu Fujiwara, Hiromi Okada, Takemasa Takii, Tsutomu Tsuji, Satoshi Fujii, Hideki Hashizume, and Kikuo Onozaki

Staphylococcal superantigen-like protein 10 (SSL10) binds to vitamin K-dependent blood coagulation factors via their  $\gamma$ -carboxyglutamic acid (Gla) domain and inhibits blood coagulation.

EMBO | EMBL Symposium: New Approaches and Concepts in Microbiology

10 月 14-16 日 (Heidelberg, Germany)

高辻良文

HuD と eIF3 との結合を介した翻訳制御機構の解析

第 36 回日本分子生物学会 12 月 3-6 日 (神戸)

矢野雄暉, 深尾亜喜良, 藤原俊伸

活性型 Akt1 による eIF4B のリン酸化を介した RNA 結合タンパク質 HuD の cap 依存的翻訳の促進

第 36 回日本分子生物学会 12 月 3-6 日 (神戸)

佐藤亮介, 深尾亜喜良, 野本明男, 藤原俊伸

RNA 結合蛋白質 HuD の mRNA 核外輸送因子 TAP/NXF1 への結合性と神経分化誘導能との相関の解析

第 36 回日本分子生物学会 12 月 3-6 日 (神戸)

【遺伝情報学分野】

(原報)

Saito, S., Hosoda, N., Hoshino, S.  
Hbs1-Dom34 functions in non-stop mRNA decay (NSD) in mammalian cells.  
*J Biol Chem*, **288**, 17832-17843 (2013) .

Ogami, K., Cho, R., Hoshino, S.  
Molecular cloning and characterization of a novel isoform of the non-canonical poly(A) polymerase PAPD7.  
*Biochem Biophys Res Commun.*, **432**, 135-140 (2013).

(学会発表)

星野真一  
人工キメラ遺伝子 ZFN 安定発現系の構築,  
平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 (B 型肝炎創薬実用化等研究事業) 班会議  
2013 年 12 月 16 日 (東京)

細田 直, 釣真由美, 船越佑司, 星野真一  
CPEB によって制御される mRNA ポリ A 鎖分解機構  
第 36 回日本分子生物学会年会, 2013 年 12 月 3 日-6 日 (神戸)

野木森拓人, 細田 直, 星野真一  
B 型肝炎治療を目指した mRNA トランスフェクションによる高効率遺伝子発現系の確立  
日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会, 日本薬学会東海支部合同学術大会 2013  
2013 年 11 月 10 日 (鈴鹿)

橋本芳史, 細田 直, 星野真一  
翻訳終結因子 eRF3 のプロセス体 p-eRF3 の新規機能  
第 86 回日本生化学会大会 2013 年 9 月 11 日-13 日 (横浜)

橋本芳史, 細田 直, 星野真一  
翻訳終結因子 eRF3 の細胞内局在制御  
第 15 回日本 RNA 学会年会 2013 年 7 月 24-26 日 (愛媛)

山岸良太, 津阪剛史, 光永紘子, 前畑高明, 星野真一  
STAR ファミリー蛋白質 QKI によるポリ A 鎖伸長を介した遺伝子発現の転写後調節機構  
第 15 回日本 RNA 学会年会 2013 年 7 月 24-26 日 (愛媛)

岡本淳志, 細田 直, 星野真一  
翻訳終結因子 Sup35 の切断が酵母プリオンの出現を防御する  
第 15 回日本 RNA 学会年会 2013 年 7 月 24-26 日 (愛媛)

奥村真由, 細田 直, 星野真一

ポリ A 鎖分解酵素 Nocturnin による mRNA 動態制御

第 59 回日本薬学会東海支部大会 2013 年 7 月 6 日 (名古屋)

西浦久達, 細田 直, 星野真一

eRF3 ファミリーに属する G 蛋白質 GTPBP1 の機能解析

第 59 回日本薬学会東海支部大会 2013 年 7 月 6 日 (名古屋)

橋本芳史, 細田 直, 星野真一

切断型 eRF3 によるアポトーシス阻害タンパク質 IAP を介したアポトーシス制御機構の  
解析

第 133 回薬学会年会 2013 年 3 月 28 日 (横浜)

星野真一【オーガナイザー兼シンポジスト】

細胞内 mRNP 顆粒形成の分子メカニズム

第 133 回薬学会, シンポジウム『RNA ダイナミクスから迫る生命現象』  
2013 年 3 月 29 日 (横浜)

【細胞分子薬効解析学分野】

(原報)

Suzuki Y, Yamamura H, Ohya S, Imaizumi Y.  
Direct molecular interaction of caveolin-3 with  $K_{Ca}1.1$  channel in living HEK293 cell expression system.

*Biochem Biophys Res Commun.* **430**(3), 1169–74 (2013).

Tao S, Yamazaki D, Komazaki S, Zhao C, Iida T, Kakizawa S, Imaizumi Y, Takeshima H.

Facilitated hyperpolarization signaling in vascular smooth muscle-overexpressing TRIC-A channels.

*J. Biol Chem.* **288**(22), 15581–9 (2013).

Ohya S, Nakamura E, Horiba S, Kito H, Matsui M, Yamamura H, Imaizumi Y.  
Role of the  $K_{Ca}3.1$   $K^+$  channel in auricular lymph node  $CD4^+$  T-lymphocyte function of the delayed-type hypersensitivity model.

*Br. J. Pharmacol.* **169**(5), 1011–23 (2013).

Yamamura H, Cole WC, Kita S, Hotta S, Murata H, Suzuki Y, Ohya S, Iwamoto T, Imaizumi Y.

Overactive bladder mediated by accelerated  $Ca^{2+}$  influx mode of  $Na^+-Ca^{2+}$  exchanger in smooth muscle.

*Am. J Physiol. Cell. Physiol.* **305**(3), C299–308 (2013).

Ohba T, Sawada E, Suzuki Y, Yamamura H, Ohya S, Tsuda H, Imaizumi Y.  
Enhancement of  $Ca^{2+}$  influx and ciliary beating by membrane hyperpolarization due to ATP-sensitive  $K^+$  channel opening in mouse airway epithelial cells.

*J. Pharmacol. Exp. Ther.* **347**(1), 145–53 (2013).

Fujii M, Hayashi K, Ohya S, Yamamura H, Imaizumi Y.

New screening system for sensitive blockers of voltage-gated  $K^+$  channels using recombinant cell lines dying upon single action potential.

*J. Pharmacol. Sci.* **123**(2), 147–58 (2013).

Suzuki Y, Yamamura H, Ohya S, Imaizumi Y.

Caveolin-1 facilitates the direct coupling between large-conductance  $Ca^{2+}$ -activated  $K^+$  ( $BK_{Ca}$ ) and  $Cav1.2$   $Ca^{2+}$  channels and their clustering to regulate membrane excitability in vascular myocytes.

*J. Biol Chem.* **288**(51), 36750–61(2013).

(総説・著書・総合論文など)

山村寿男

“チャンネル機能”を視る：イメージングによるイオンチャンネル分子機能解析

日薬理誌, 142, 79-84 (2013).

山村寿男

カルシウム活性化クロライドチャンネル：TMEM16

日薬理誌, 142, 144 (2013).

山村寿男

PIP<sub>2</sub>によるイオンチャンネルの直接的制御

日薬理誌, 142, 320 (2013).

(学会発表)

今泉祐治, 清田恵子, 水谷浩也, 村松 真, 山村寿男, 大矢 進

松果体におけるカルシウムクロック機構作動の可能性

第6回多階層生体機能学領域全体会議・研究成果発表会, 2013年1月16日(沖縄)

大城隼也, 橋爪圭吾, 木村泰介, 大矢 進, 山村寿男, 今泉祐治

再構築系を用いたカルシウムクロックからペースメーカー電位へのシグナル変換モデル

第6回多階層生体機能学領域全体会議・研究成果発表会, 2013年1月17日(沖縄)

鬼頭宏彰, 山村寿男, 大矢 進, 浅井清文, 今泉祐治

脳血管内皮細胞における細胞周期進行と細胞増殖に対するCRACチャンネルの寄与の解明

第86回日本薬理学会年会, 2013年3月22日(福岡); 02H-10-5.

山村寿男【学術奨励賞受賞講演】

イメージングによるイオンチャンネル分子機能解析

第86回日本薬理学会年会, 2013年3月22日(福岡); AL3.

清田恵子, 村松 真, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

ラット松果体細胞における自発的電気活動と過分極活性化非選択的陽イオンチャンネル

第86回日本薬理学会年会, 2013年3月22日(福岡); 02G-17-5.

伊奈山宗典, 鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

軟骨細胞におけるヒスタミン誘発性Ca<sup>2+</sup>流入にSOCチャンネルが寄与する



第 86 回日本薬理学会年会, 2013 年 3 月 22 日 (福岡) ; 02H-20-1.

大城隼也, 橋爪圭吾, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

リアノジン受容体と  $\text{Ca}^{2+}$  活性化  $\text{Cl}^-$  チャンネル TMEM16A の共発現 HEK293 細胞での  $\text{Ca}^{2+}$  クロックの電気信号への変換

第 86 回日本薬理学会年会, 2013 年 3 月 23 日 (福岡) ; 03H-33-3.

大羽輝弥, 澤田英士, 鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

チャンネル開口薬によって引き起こされる膜電位の変化による繊毛運動への影響

第 86 回日本薬理学会年会, 2013 年 3 月 23 日 (福岡) ; 03F-28-2.

鈴木良明, 大矢 進, 山村寿男, 今泉祐治

軟骨細胞モデル細胞株 (OUMS-27) 由来の新規  $\text{BK}\alpha$  スプライスバリエント体の解析

第 86 回日本薬理学会年会, 2013 年 3 月 23 日 (福岡) ; 03F-29-4.

藤井将人, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

1 発の活動電位発生により細胞死を起こす遺伝子改変導入細胞を用いた選択的な Kv チャンネル阻害薬の新規スクリーニング法の開発

第 86 回日本薬理学会年会, 2013 年 3 月 23 日 (福岡) ; 03H-44-3.

松木克仁, 竹本将士, 山村寿男, 大矢 進, 竹島 浩, 今泉祐治

マウス妊娠・非妊娠子宮における細胞内 Ca 動員機構機能解析

第 86 回日本薬理学会年会, 2013 年 3 月 23 日 (福岡) ; 03G-43-2.

鬼頭宏昭, 山村寿男, 大矢 進, 浅井清文, 今泉祐治

脳血管内皮細胞の細胞周期進行における  $\text{Ca}^{2+}$  release-activated  $\text{Ca}^{2+}$  channel の発現変動

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 29 日 (横浜) ; 29amD-130.

山村寿男, 大矢 進, 村木克彦, 今泉祐治

膀胱平滑筋細胞における活動電位発生時のミトコンドリア  $\text{Ca}^{2+}$  取り込み機構

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 30 日 (横浜) ; 30T-am11.

鈴木良明, 伊奈山宗典, 船橋賢司, 栗田 卓, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

軟骨細胞モデルにおける  $\text{Ca}^{2+}$  透過チャンネルの分子実体とその機能解析

第9回 TRP チャネル研究会, 2013年6月13日(岡崎)

鈴木良明, 伊奈山宗典, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

SOCE channels regulate histamine-induced  $Ca^{2+}$  influx in human chondrocytes

The 2nd HD Physiology International Symposium 2013, 2013年6月29日(東京); P-39.

大羽輝弥, 澤田英士, 鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

Membrane hyperpolarization due to ATP-sensitive  $K^+$  channel openers facilitated ciliary beating in mouse airway ciliated cells

The 2nd HD Physiology International Symposium 2013, 2013年6月29日(東京); P-40.

西村歌織, 山村寿男, 今泉祐治

ラット松果体細胞における  $Ca^{2+}$  活性化  $Cl^-$  チャネル の機能発現

第123回日本薬理学会近畿部会, 2013年7月12日(名古屋); A-12.

栗太 卓, 船橋健二, 鈴木義明, 山村久雄, 大矢 進, 今泉雄二

ヒト由来軟骨肉腫細胞株(OUMS-27)における  $Cl^-$  チャネルの機能解析

第123回日本薬理学会近畿部会, 2013年7月12日(名古屋); C-1.

R. Azizieh, A. Ohno, S. Ohya, Y. Suzuki, H. Yamamura, Y. Imaizumi

The regulatory mechanism underlying the enhanced expression of large conductance  $Ca^{2+}$  activated  $K^+$  channel by testosterone

IUPS 2013, 2013年7月22日(Birmingham); PCA394.

S. Ohya, Y. Fukuyo, M. Matsui, H. Yamamura, R. Shibaoka, H. Niguma, M. Fujii, Y. Imaizumi

Role of the intermediate-conductance  $Ca^{2+}$ -activated  $K^+$  channel,  $K_{Ca}3.1$  in  $CD4^+$  T-lymphocytes of mesenteric lymphnode of mice inflammatory bowel disease model

IUPS 2013, 2013年7月23日(Birmingham); PCB331.

H. Yamamura, W. C. Cole, S. Kita, S. Hotta, H. Murata, Y. Suzuki, S. Ohya, T. Iwamoto, Y. Imaizumi

Overactive bladder mediated by accelerated  $Ca^{2+}$  influx mode of  $Na^+/Ca^{2+}$  exchanger in smooth muscle

IUPS 2013, 2013年7月23日(Birmingham) ; PCB372.

M. Inayama, Y. Suzuki, H. Yamamura, S. Ohya, Y. Imaizumi  
Contribution of Orai-STIM to histamine-induced store operated  $Ca^{2+}$  entry and functional coupling with  $Ca^{2+}$ -activated  $K^+$  channels in chondrocytes

IUPS 2013, 2013年7月25日(Birmingham) ; PCD191.

山村寿男, 今泉祐治

産生により制御される細胞内  $Ca^{2+}$  動態イメージング

第55回日本平滑筋学会総会, 2013年8月7日(旭川) ; S1-4.

鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

BK チャネル-VGCC 複合体形成及び血管平滑筋細胞機能に対するカベオリン 1/カベオラの寄与

第55回日本平滑筋学会総会, 2013年8月7日(旭川) ; 02-4.

松木克仁, 竹本将士, 山村寿男, 大矢 進, 竹島 浩, 今泉祐治

マウス妊娠・非妊娠子宮平滑筋における  $Ca^{2+}$  動員機構解析

第55回日本平滑筋学会総会, 2013年8月8日(旭川) ; YA-14.

大羽輝弥, 澤田英士, 鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

気道上皮細胞での  $K_{ATP}$  チャネル開口薬による繊毛運動活性化機構

生体機能と創薬シンポジウム 2013, 2013年8月29日(福岡) ; P1-7.

鬼頭宏彰, 山村寿男, 鈴木良明, 大矢 進, 浅井清文, 今泉祐治

脳血管内皮細胞の細胞周期進行における  $Ca^{2+}$  release-activated  $Ca^{2+}$  channel 寄与の解明

生体機能と創薬シンポジウム 2013, 2013年8月29日(福岡) ; P1-8.

栗田 卓, 鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

ヒト由来軟骨肉腫細胞株(OUMS-27)における  $Cl^-$  チャネルの機能解析

次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2013, 2013年8月31日(熊本) ; A-12.

西村歌織, 山村寿男, 今泉祐治

ラット松果体細胞における  $Cl^-$  チャネルの機能発現解析

次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2013, 2013年8月31日(熊本) ; B-10.

鬼頭宏彰, 山村寿男, 鈴木良明, 大矢 進, 浅井清文, 今泉祐治

脳血管内皮細胞における細胞周期進行に対する CRAC チャネルの寄与の解明

第 124 回日本薬理学会近畿部会, 2013 年 11 月 1 日 (京都) ; B-18.

大羽輝弥, 澤田英士, 鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 今泉祐治

K<sub>ATP</sub> チャネル活性化による繊毛運動活性化機構の解明

第 124 回日本薬理学会近畿部会, 2013 年 11 月 1 日 (京都) ; C-10.

近藤るびい, 大城隼也, 鈴木良明, 山村寿男, 今泉祐治

門脈圧亢進症モデルマウスの門脈平滑筋における TMEM16A の発現変化

第 124 回日本薬理学会近畿部会, 2013 年 11 月 1 日 (京都) ; P15.

山村寿男, 邊見 智, 大城隼也, 近藤るびい, 鈴木良明, 今泉祐治

平滑筋収縮制御機構における Ca<sup>2+</sup>活性化 Cl<sup>-</sup>チャネル (TMEM16A) の役割

生理研研究会 2013 「心血管膜輸送分子の構造・機能・病態の統合的研究戦略」

2013 年 11 月 28 日 (岡崎) : 5-3.

鬼頭宏彰, 山村寿男, 鈴木良明, 大矢 進, 浅井清文, 今泉祐治

脳血管内皮細胞における Ca<sup>2+</sup> release-activated Ca<sup>2+</sup> channel を介した細胞周期制御機構の解明

第 23 回日本循環薬理学会, 2013 年 12 月 6 日 (福岡) ; YIA-06.

【病態生化学分野】

(原報)

Fuchigami, T., Sato, Y., Tomita, Y., Takano, T., Miyauchi, S.Y., Tsuchiya, Y., Saito, T., Kubo, K., Nakajima, K., Fukuda, M., Hattori, M., and Hisanaga, S. Dab1-mediated colocalization of multi-adaptor protein CIN85 with Reelin receptors, ApoER2 and VLDLR, in neurons.

*Genes Cell*, **18**, 410–24 (2013).

Sugawara, T., Hisatsune, C., Le, T.D., Hashikawa, T., Hirono, M., Hattori, M., Nagao, S., and Mikoshiba, K.

Type 1 inositol trisphosphate receptor regulates cerebellar circuits by maintaining the spine morphology of purkinje cells in adult mice.

*J. Neurosci.*, **33**, 12186–96. (2013).

Hisatsune, C., Miyamoto, H., Hirono, M., Yamaguchi, N., Sugawara, T., Ogawa, N., Ebisui, E., Ohshima, T., Yamada, M., Hensch, T.K., Hattori, M., and Mikoshiba, K.

IP3R1 deficiency in the cerebellum/brainstem causes basal ganglia-independent dystonia by triggering tonic Purkinje cell firings in mice.

*Front. Neural Circuits*, **7**, 156 (2013).

(学会発表)

松丸沙織, 河野孝夫, 服部光治

プルキンエ細胞の成熟におけるリーリン-Dab1 シグナルの機能解明

日本薬学会第 133 回年会 2013 年 3 月 28 日 (横浜)

奥村恭子, 久永有紗, 鯉江真利, 河野孝夫, 服部光治

リーリンの特異的分解の機構と生理的意義

Neuro2013 2013 年 6 月 21 日 (京都)

服部光治, 田頭大志, 深見 瑛, 梅田健太郎, 鈴木友美子, 高嶋 悠, 杉江真梨子, 松田幸江, 石井 萌, 馬場 敦, 河野孝夫

難読症関連遺伝子 KIAA0319 による神経細胞形態制御の分子機構

Neuro2013 2013 年 6 月 21 日 (京都)

尾上 文, 竹内真理, 河野孝夫, 服部光治

新規モノクローナル抗体を用いた Reelin-Dab1 経路の解析

第 59 回日本薬学会東海支部大会 2013 年 7 月 6 日 (名古屋)

奥村恭子, 久永有紗, 鯉江真利, 河野孝夫, 服部光治

リーリンの特異的切断による機能制御機構

第 59 回日本薬学会東海支部大会 2013 年 7 月 6 日 (名古屋)

森下駿介, 久永有紗, 河野孝夫, 服部光治

てんかん発作後に生じるリーリン切断の分子機構

第 59 回日本薬学会東海支部大会 2013 年 7 月 6 日 (名古屋)

久永有紗, 鯉江真利, 奥村恭子, 河野孝夫, 服部光治

脳の形成と機能に重要な分泌タンパク質リーリンの切断機構の解明

第 85 回日本生化学会大会 2013 年 9 月 11 日 (横浜)

河野孝夫, 服部光治

リーリンの新規分解は, 生後の神経発達を制御する

第 85 回日本生化学会大会 2013 年 9 月 11 日 (横浜)

Arisa Hisanaga, Takao Kohno, Mitsuharu Hattori

The mechanism and physiological significance of proteolytic cleavage of Reelin

Neuroscience2013:Society for Neuroscience 2013 年 11 月 11 日 (サンディエゴ)

【薬物動態制御学分野】

(原報)

Yuichiro Imamura, Nobuyuki Murayama, Noriko Okudaira, Atsushi Kurihara, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa, Takashi Izumi, Hiroyuki Kusahara, Yuichi Sugiyama

Effect of the fluoroquinolone antibacterial agent DX-619 on the apparent formation and renal clearances of 6 $\beta$ -hydroxycortisol, an endogenous probe for CYP3A4 inhibition, in healthy subjects.

*Pharm. Res.*, **30**, 447-457 (2013).

Mai Furumiya, Katsuhisa Inoue, Kinya Ohta, Yayoi Hayashi, Hiroaki Yuasa  
Transcriptional regulation of PCFT by KLF4, HNF4 $\alpha$ , CDX2 and C/EBP $\alpha$ : implication in its site-specific expression in the small intestine.

*Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **431**, 158-163 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

井上勝央, 湯浅博昭

メトトレキサートによる関節リウマチ治療と葉酸トランスポーター

*医学のあゆみ*, **245**, 127-132 (2013).

(学会発表)

井上勝央【招待講演】

水溶性ビタミンの腸管吸収機構.

第91回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム, 2013年2月16日(東京)

鬼頭朋子, 伊藤澄人, 井上勝央, 湯浅博昭, 森山芳則, 乾 賢一, 増田智先, 杉山雄一, 楠原洋之

トリプタンと $\beta$ 遮断薬の腎排泄に関わる有機カチオントランスポーターの解析.

日本薬学会第133年会, 2013年3月28日(横浜); 28amF-094.

古宮 舞, 伊藤友江, 林 弥生, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

PCFTの転写調節におけるKLF4, HNF4 $\alpha$ , CDX2及びC/EBP $\alpha$ の関与.

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28pmF-220S.

福井佑実, 青木那佳, 井上勝央, 保嶋智也, 太田欣哉, 湯浅博昭

ヒト OCT3 に対する corticosterone の結合特性の解析.

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28pmF-221.

楠原洋之, 伊藤澄人, 井上勝央, 湯浅博昭, 森山芳則, 杉山雄一

腎排泄過程における cimetidine とカチオン性薬物との薬物間相互作用に関わるトランスポーターの解析

日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28pmF-227.

山城貴弘, 太田欣哉, 井上勝央, 古宮 舞, 林 弥生, 湯浅博昭

PGFT に対する myricetin の持続性阻害効果の解析

日本薬剤学会第 28 年会, 2013 年 5 月 23 日 (名古屋); 23-4-09.

庄司大介, 古宮 舞, 林 弥生, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

PGFT の小腸内局在性への KLF4, HNF4 $\alpha$ , CDX2 及び C/EBP $\alpha$  の関与

日本薬剤学会第 28 年会, 2013 年 5 月 25 日 (名古屋); P-118.

福井佑実, 青木那佳, 井上勝央, 保嶋智也, 太田欣哉, 湯浅博昭

ヒト OCT3 特異的な corticosterone 結合の評価: OCT1 及び OCT2 との比較

日本薬剤学会第 28 年会, 2013 年 5 月 25 日 (名古屋); P-140.

湯浅博昭【招待講演】

米国との薬学教育・研究交流: 名古屋市立大学の取り組み

日本薬剤学会第 28 年会, 2013 年 5 月 25 日 (名古屋); 教-02.

湯浅博昭【招待講演】

小腸の栄養物質トランスポーター: 分子実体と薬物吸収における役割

第 50 回薬剤学懇談会研究討論会, 2013 年 6 月 26 日 (札幌); 1-2.

伊藤悠子, 太田欣哉, 片野貴大, 井上勝央, 湯浅博昭

アクアポリン 10 の新たな輸送機能

第 28 回日本薬物動態学会年会, 2013 年 10 月 9 日 (東京); 1-G-P-44.

廣田 豪, 山元有子, 原田 滯, 熊井俊夫, 井上勝央, 湯浅博昭, 家入一郎



*PCFT/SLC46A1* 遺伝子 5' 上流域の多型解析とその機能評価

第 28 回日本薬物動態学会年会, 2013 年 10 月 9 日 (東京); 1-G-P-53.

古川純士, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

核酸塩基利用における新規核酸塩基トランスポーターと核酸代謝酵素の機能的協働効果

第 28 回日本薬物動態学会年会, 2013 年 10 月 9 日 (東京); 1-B-06-1.

鬼頭朋子, 伊藤澄人, 木本絵美, ライ・ユーロン, 井上勝央, 湯浅博昭, 森山芳則, 杉山雄一, 楠原洋之

カチオン系薬物の尿細管分泌における MATE1 および MATE2-K の寄与率の解析

第 28 回日本薬物動態学会年会, 2013 年 10 月 11 日 (東京); 3-B-015-2.

井上勝央, 福井佑実, 太田欣哉, 湯浅博昭

有機カチオントランスポーターに対するコルチコステロンの結合性の評価

第 57 回日本薬学会関東支部大会, 2013 年 10 月 26 日 (東京); P-166.

Erina Inaoka, Mai Furumiya, Katsuhisa Inoue, Chihiro Nishijima, Takahiro Yamashiro, Kinya Ohta, Yayoi Hayashi, Hiroaki Yuasa

Noncompetitive inhibitory effect of myricetin on folate transport by proton-coupled folate transporter.

The 2013 Annual Meeting of American Association of Pharmaceutical Scientists

2013 年 11 月 11 日 (San Antonio, Texas, U.S.A.); M1117.

Yuko Ito, Kinya Ohta, Takahiro Katano, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa

Functional characteristics of aquaporin 7 as a facilitative glycerol carrier.

The 2013 Annual Meeting of American Association of Pharmaceutical Scientists

2013 年 11 月 11 日 (San Antonio, Texas, U.S.A.); M1118.

Takahiro Yamashiro, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Mai Furumiya, Yayoi Hayashi, Hiroaki Yuasa

Kinetic evaluation of sustained inhibitory effect of myricetin on folate transport by proton-coupled folate transporter.

The 2013 Annual Meeting of American Association of Pharmaceutical Scientists

2013 年 11 月 11 日 (San Antonio, Texas, U.S.A.); M1136.

Hiroaki Yuasa, Mai Furumiya, Katsuhisa Inoue, Kinya Ohta, Yayoi Hayashi  
Transcriptional regulation of PCFT: roles of KLF4, HNF4 $\alpha$ , CDX2 and C/EBP $\alpha$  in  
its uniquely graded expression profile in the small intestine.

The 2013 Annual Meeting of American Association of Pharmaceutical Scientists  
2013年11月13日 (San Antonio, Texas, U.S.A.); W4361.

【病態解析学分野】

(原報)

岩城壮一郎, 松井恵利華, 藤井 聡.

スフィンゴシン1-リン酸のヒト皮膚線維芽細胞におけるコラーゲン産生に及ぼす影響.  
*日本褥瘡学会誌*, **15**, 8-14 (2013).

Naoki Mizutani, Misa Kobayashi, Sayaka Sobue, Masatoshi Ichihara, Hiromi Ito, Kouji Tanaka, Soichiro Iwaki, Satoshi Fujii, Yurie Ito, Keiko Tamiya-Koizumi, Akira Takagi, Tetsuhito Kojima, Tomoki Naoe, Motoshi Suzuki, Mitsuhiro Nakamura, Yoshiko Banno, Yoshinori Nozawa, Takashi Murate.

Sphingosine kinase 1 expression is downregulated during differentiation of Friend cells due to decreased c-MYB.

*Biochim Biophys Acta*, **1833**, 1006-1016 (2013).

Shiori Ito, Soichiro Iwaki, Keiko Koike, Yuichiro Yuda, Ayako Nagasaki, Ryunosuke Ohkawa, Yutaka Yatomi, Tomoo Furumoto, Hiroyuki Tsutsui, Burton E Sobel, Satoshi Fujii.

Increased Plasma Sphingosine-1-Phosphate in Obese Subjects and Its Capacity to Increase Expression of Plasminogen Activator Inhibitor-1 in Adipocytes.

*Coron Artery Dis.*, **24**, 642-650 (2013).

Saotomo Itoh, Ryosuke Yokoyama, Go Kamoshida, Toshinobu Fujiwara, Hiromi Okada, Takemasa Takii, Tsutomu Tsuji, Satoshi Fujii, Hideki Hashizume, Kikuo Onozaki. Staphylococcal superantigen-like protein 10 (SSL10) inhibits blood coagulation by binding to prothrombin and factor Xa via their  $\gamma$ -carboxyglutamic acid (Gla) domain.

*J Biol Chem.*, **288**, 21569-21580 (2013).

Yasuhiro Noda, Mika Saito, Kazuya Watanabe, Akimasa Sanagawa, Yu Sobajima, Satoshi Fujii.

Physicochemical characterization of tretinoin tocoferil emulsion and povidone-iodine sugar ointment blend developed for improved regulation of wound moisture.

*Chem Pharm Bull (Tokyo)*, **61**, 700-705 (2013).

Hiroki Satoh, Jun Nishihira, Tatsuhiko Wada, Satoshi Fujii, Hiroyuki Tsutui. The relation between habitual sleep duration and blood pressure values in Japanese male subjects.

*Environ Health Prev Med.*, **18**, 215-220 (2013).

Tomonori Sugiura, Yasuaki Dohi, Yuji Hirowatari, Sumiyo Yamashita, Nobuyuki Ohte, Genjiro Kimura, Satoshi Fujii.

Cigarette smoking induces vascular damage and persistent elevation of plasma serotonin unresponsive to 8 weeks of smoking cessation.

*Int J Cardiol.*, **166**, 748-749 (2013).

Yasuhiro Andoh, Hisako Ogura, Masashi Satoh, Kentaro Shimano, Hironori Okuno, Satoshi Fujii, Naoki Ishimori, Koji Eshima, Tatsuro Otani, Yukihiro Nakai, Luc Van Kaer, Hiroyuki Tsutsui, Kazunori Onoé, Kazuya Iwabuchi.

Natural killer T cells are required for lipopolysaccharide-mediated enhancement of atherosclerosis in apolipoprotein E-deficient mice.

*Immunobiology.*, **218**, 561-569 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

藤井 聡.

プラスミン・PAI-1 骨髄—末梢血による炎症の制御と修飾.

*別冊 BIO Clinica 北隆館 (東京)*, **2**, 106-109 (2013).

Fujii S.

Insulin resistance and heart failure: underlying molecular mechanisms and potential pharmacological solutions.

*J Cardiovasc Pharmacol.*, **62**, 379-380 (2013).

藤井 聡.

既卒薬剤師リカレント教育への症候論の導入によるセルフメディケーションの向上.

平成24年度一般用医薬品セルフメディケーション調査研究・啓発事業等報告書, No7,  
136-144 (2013).

江藤浩之, 鈴木康裕, 遠藤 大, 古賀 震, 山下 篤, 藤井 聡.

2012 Hot Topics 血管バイオロジー分野.

*日本血栓止血学会誌*, **24**, 66-67 (2013).

藤井 聡.

ジャーナルクラブ 静脈血栓塞栓症予防のための低用量アスピリン.

*日本血栓止血学会誌*, **24**, 81 (2013).

(学会発表)

藤井 聡.

愛知県薬剤師会生涯教育特別委員会企画「2012年度 問診の技法」第3回 発熱

名市大東海薬剤師生涯学習センター, 2013年1月10日 (名古屋)

藤井 聡.

愛知県薬剤師会生涯教育特別委員会企画「2012年度 問診の技法」第4回 腹痛  
名市大東海薬剤師生涯学習センター, 2013年1月17日 (名古屋)

藤井 聡.

薬剤師に必要なフィジカルアセスメント  
岡崎薬剤師会 フィジカルアセスメント1日コース, 2013年1月20日 (岡崎)

藤井 聡.

これだけ変わった! 最新・元気に過ごすためのくすりのはなし2013  
名古屋市立大学連携講座「正しく使うためにくすりを知る」, 2013年2月6日 (名古屋)

藤井 聡.

薬剤師に必要なフィジカルアセスメント. コース1  $\beta$ 遮断薬により低血糖がマスクされた心不全の症例, コース2 認知症によりインスリン管理不良で糖尿病性ケトアシドーシスをきたした症例, コース3 ジャヌビア追加により低血糖と便秘をきたした症例.

薬剤師のためのスキルアップセミナー フィジカルアセスメント・アドバンス編,  
2013年2月24日 (名古屋)

Satoshi Fujii.

Education and continual education of pharmacists in Japan.  
University of Southern California School of Pharmacy, 2013年2月19日 (LA, USA)

Tomonori Sugiura, Yasuaki Dohi, Sumiyo Yamashita, Nobuyuki Ohte, Soichiro Iwaki, Akimasa Sanagawa, Shiori Ito, Yuji Hirowatari, Ryunosuke Ohkawa, Yuko Mishima, Yutaka Yatomi, Genjiro Kimura, Satoshi Fujii.

Circulating MicroRNA-126 as a Potential Biomarker for Recovery from Smoking-Related Endothelial Damage.

77th Annual Scientific Session of the Japanese Circulation Society, 2013年3月16日 (Yokohama)

Tomonori Sugiura, Yasuaki Dohi, Yuji Hirowatari, Sumiyo Yamashita, Nobuyuki Ohte, Genjiro Kimura, Satoshi Fujii.

Cigarette Smoking Induces Vascular Damage and Persistent Elevation of Plasma Serotonin Unresponsive to 8 Weeks of Smoking Cessation.

77th Annual Scientific Session of the Japanese Circulation Society, 2013年3月  
16日 (Yokohama)

鳶田理佳, 藤井 聡, 土肥靖明, 明石恵子, 木村和哲.

高血圧患者の服薬アドヒアランス尺度 – 服薬アドヒアランスを規定する因子–

第77回日本循環器学会 コメディカルセッションシンポジウム

3. 循環器疾患患者への服薬指導, 2013年3月16日 (横浜)

藤井 聡

スフィンゴシン-1-リン酸 (S1P) の循環器疾患および炎症に果たす役割

第3回免疫学セミナー, 2013年3月28日 (北里大学)

伊藤邦彦, 藤井 聡, 大井一弥, 堀 雄史, 川上純一, 斎藤寛子, 長谷川高明, 水野裕之, 木村和哲, 増田雅也, 大槻眞嗣, 矢野裕章, 岩本卓也, 奥田真弘, 小野秀樹

大学連携による教育用症例作成と症例データベース構築: 東海薬学教育コンソーシアムの取り組み

日本薬学会第133回年会, 2013年3月28日 (横浜)

真川明将, 岩城壮一郎, 浅井萌子, 榎原大輔, 山村周平, 藤井 聡.

S1Pが血液線溶系に与える影響の解明.

日本薬学会第133回年会, 2013年3月28日 (横浜)

伊藤史織, 岩城壮一郎, 岩捌和也, 藤井 聡.

NKT細胞ハイブリドーマにおけるS1P受容体を介したTNF- $\alpha$ 発現増加機構およびS1Pに対する走化性についての解析.

日本薬学会第133回年会, 2013年3月30日 (横浜)

鈴木 匡, 藤井 聡, 大原弘隆, 明石恵子, 木村和哲, 金 允勝.

医療系学部連携によるチーム医療に貢献する薬局薬剤師養成研修 (2年目の成果検証)

日本薬学会第133回年会, 2013年3月30日 (横浜)

隅田師玄, 今井敬司, 三木健義, 安田貴美子, 宮崎 剛, 伏見友里, 今井大輔, 菊池千草, 鈴木 匡, 藤井 聡.

薬剤師を対象としたフィジカルアセスメント教育プログラムの開発と評価.

日本薬学会第133回年会, 2013年3月30日(横浜)

横山領介, 伊藤佐生智, 鴨志田剛, 奥村拓也, 瀧井猛将, 藤井 聡, 辻 勉, 小野寄菊夫.

黄色ブドウ球菌スーパー抗原様タンパク質ssL3はToll like receptor2の細胞外領域に結合しTLR2を介したマクロファージからの炎症性サイトカイン産生を抑制する.

日本薬学会第133回年会, 2013年3月30日(横浜)

藤井 聡

薬剤師に必要なフィジカルアセスメント

薬剤師のためのスキルアップセミナーフィジカルアセスメント・ベーシック

(株ディー・ピー・シー主催)

2013年5月12日(三島)

Satoshi Fujii.

Sphingosine 1-phosphate posttranscriptionally regulates the expression of plasminogen activator inhibitor type-1 in human liver derived cells.

The 8th Aso International Meeting, 2013年5月17日(Kumamoto)

藤井 聡.

ω-3系脂肪酸と心血管疾患 最近の話題

第12回 知多在宅栄養ケアセミナー, 2013年5月23日(知多)

草原ゆり, 小笠原美沙, 安本美貴, 岩城壮一郎, 藤井 聡.

一般住民と高校生の血圧に対する知識の違いの実態.

第2回臨床高血圧フォーラム, 2013年5月25日(東京)

藤井 聡, 真川明将, 岩城壮一郎, 浅井萌子, 榊原大輔, 山村周平.

低酸素環境においてスフィンゴ脂質が線溶系に与える分子機構の解析.

第35回日本血栓止血学会学術集会, 2013年6月1日(山形)

岩城壮一郎, 真川明将, 吉川 優, 浅井萌子, 榊原大輔, 山村周平, 藤井 聡.

S1PはPAI-1の発現を調節することで血液線溶系を制御する.

第14回Pharmaco-Hematologyシンポジウム, 2013年6月1日(東京)

横山領介, 伊藤佐生智, 奥村拓也, 鴨志田剛, 瀧井猛将, 藤井 聡, 辻 勉, 小野寄菊夫, 藤原俊伸.

Staphylococcal superantigen-like 3はToll-like receptor 2に結合する.

第14回Pharmaco-Hematologyシンポジウム, 2013年6月1日 (東京)

藤井 聡.

薬剤師に必要なフィジカルアセスメント.

薬剤師のためのスキルアップセミナーフィジカルアセスメント・ベーシックClass 1,

2013年6月2日 (名古屋)

藤井 聡.

妊娠, 更年期に関連した高血圧—くすりを安全に正しく使うために.

女性のための健康「くすり」講座, 2013年6月18日 (名古屋)

藤井 聡.

メタボリックシンドロームの血栓傾向に対するクルクミンの効果の検討.

第25回東洋医学に関する学術研究報告会, 2013年6月29日 (名古屋)

Shiori Ito, Rie Kondo, Soichiro Iwaki, Kazuya Iwabuchi, Satoshi Fujii.

Sphingosine-1-Phosphate Induced TNF- $\alpha$  Expression in Natural Killer T (NKT) Cell Hybridomas Through S1P<sub>2</sub>/Gq/PLC/PKC Pathway and Mediated Migration of NKT Cell Hybridomas.

XXIV Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis.

2013年7月2日 (Amsterdam, Nederland)

Yamamura S, Iwaki S, Sanagawa A, Fujii S.

The Expression Of Plasminogen Activator Inhibitor Type-1 Is Post-transcriptionally Regulated By Sphingosine-1-phosphate And SERPINE1 mRNA binding protein.

XXIV Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis.

2013年7月2日 (Amsterdam, Nederland)

高橋朋弘, 田上辰秋, 岩城壮一郎, 藤井 聡, 尾関哲也.

炎症誘導モデルマウスに対する人工HDL金ナノ粒子製剤の抗炎症効果.

第29回日本DDS学会学術集会, 2013年7月4日 (京都)



野田康弘, 藤井 聡.

ブレンド軟膏（ユーパスタとオルセノン軟膏）の吸水性, ヨウ素の放出性および展延性.

第15回日本褥瘡学会, 2013年7月19日（神戸）

伊藤史織, 岩城壮一郎, 藤井 聡.

脂肪細胞および肥満患者におけるスフィンゴシン 1-リン酸の増加とPAI-1発現増加機構の解析.

第61回東海血栓症研究会, 2013年7月19日（名古屋）

Sugiura T, Dohi Y, Yamashita S, Ohte N, Ito S, Hirowatari Y, Fujii S.

Cigarette Smoking Induces Vascular Damage of Both Conduit Arteries and Small Vessels and Persistent Elevation of Plasma Serotonin Unresponsive to 8 Weeks of Smoking Cessation.

ESC Congress 2013. 2013年8月31日～9月4日（Amsterdam, The Netherlands）

Sugiura T, Dohi Y, Yamashita S, Ohte N, Ito S, Sanagawa A, Iwaki S, Ohkawa R, Mishima Y, Yatomi Y, Fujii S.

Circulating MicroRNA-126 as a Potential Biomarker for Recovery from Smoking-Related Endothelial Damage.

ESC Congress 2013. 2013年8月31日～9月4日（Amsterdam, The Netherlands）

藤井 聡.

薬剤師に必要な循環器疾患の知識—胸の痛みを理解する—.

薬剤師のためのスキルアップセミナーフィジカルアセスメント・ベーシックClass II  
2013年9月1日（名古屋）

藤井 聡.

循環器疾患とフィジカルアセスメント：疾患の理解と病態をフィジコを通して体験する.

薬剤師のためのスキルアップセミナーフィジカルアセスメント・ベーシックClass II  
2013年9月1日（名古屋）

藤井 聡.

症例検討会—医師に処方提案してみよう.

薬剤師のためのスキルアップセミナーフィジカルアセスメント・ベーシックClass II

2013年9月1日（名古屋）

高橋朋弘, 田上辰秋, 岩城壮一郎, 藤井 聡, 尾関哲也.

善玉コレステロール (HDL) 様ナノ粒子の創製とその物性評価.

第22回DDSカンファランス, 2013年9月6日（静岡）

井上みなみ, 水谷直貴, 西田弥生, 小泉恵子, 鈴木 元, 岩城壮一郎, 藤井 聡, 中村光浩, 野沢義則, 村手 隆.

前立腺癌細胞株LNCaPの酸性セラミダーゼは脱ユビキチン化酵素USP2により発現調節される.

第86回日本生化学会大会, 2013年9月11日（横浜）

伊藤史織, 岩城壮一郎, 岩渕和也, 藤井 聡.

NKT細胞ハイブリドーマにおけるS1P受容体を介したTNF- $\alpha$ 発現調節機構および遊走制御の解析.

第86回日本生化学会大会, 2013年9月13日（横浜）

大森由佳里, 水谷直貴, 井上みなみ, 西田弥生, 鈴木 元, 小泉恵子, 高木 明, 小嶋哲人, 岩城壮一郎, 藤井 聡, 中村光浩, 野沢義則, 村手 隆.

レスベラトロールによる白血病細胞株への細胞障害性機序の解析.

第86回日本生化学会大会, 2013年9月13日（横浜）

吉永恵一郎, 富山勇輝, 越智典樹, 加藤千恵次, 井上真美子, 西田睦, 西尾紗織, 藤井 聡, 玉木長良.

新たな臨床的血管機能計測装置を用いた加齢に伴う血管断面積の増加および進展性低下の検出.

第61回日本心臓病学会学術集会, 2013年9月13日（熊本）

横山領介, 伊藤佐生智, 鴨志田剛, 奥村拓也, 藤原俊伸, 瀧井猛将, 藤井 聡, 辻 勉, 小野寄菊夫.

Staphylococcal superantigen like 3 (SSL3)はtoll like receptor 2 (TLR2) の細胞外ドメインに結合し, TLR2リガンドによるマクロファージのサイトカイン産生を抑制する.

第58回日本ブドウ球菌研究会, 2013年9月27-28日（東京）

藤井 聡.

サイレントキラーを侮るな.

稲沢市成人大学専門講座, 2013年9月27日 (稲沢市民会館)

Itoh S, Yokoyama R, Kamoshida G, Fujiwara T, Okada H, Takii T, Tsuji T, Fujii S, Hashizume H, Onozaki K.

Staphylococcal superantigen-like protein 10 (SSL10) binds to vitamin K-dependent blood coagulation factors via their  $\gamma$ -carboxyglutamic acid (Gla) domain and inhibits blood coagulation.

New Approaches and Concepts in Microbiology. EMBL symposia,  
2013年10月14日-16日 (Heidelberg, Germany)

富山勇輝, 吉永恵一郎, 越智典樹, 加藤千恵次, 井上真美子, 西田 睦, 西尾妙織, 藤井聡, 玉木長良.

オシロメトリック法による自動血管機能測定装置を用いた新たな血管反応性検出法.

第36回日本高血圧学会総会 2013年10月26日 (大阪)

Takahashi T, Tagami T, Iwaki S, Fujii S, Ozeki T.

Anti-inflammatory effect of synthesized biomimetic HDL nanoparticles on inflammation-induced mice.

American Association of Pharmaceutical Scientist (AAPS), 2013年11月10日-14日  
(San Antonio, USA)

Sugiura T, Dohi Y, Yamashita S, Ohte N, Hirowatari Y, Ito S, Iwaki S, Fujii S.

Smoking-Induced Vascular Damage is Associated With Decreased Circulating MicroRNA-126 and Persistent Elevation of Plasma Serotonin.

Scientific Session of the American Heart Association. 2013年11月18日 (Dallas, USA)

Sanagawa A, Iwaki S, Asai M, Sakakibara D, Norimoto H, Fujii S.

HIF-1 $\alpha$ /HuR Pathway Regulates the Increased Expression of PAI-1 Induced by Sphingosine 1-phosphate in HepG2 Cells Rendered Hypoxic: A Novel Linkage between Thrombosis and Hypoxia.

Scientific Session of the American Heart Association. 2013年11月19日 (Dallas, USA)

水谷直貴, 井上みなみ, 西田弥生, 大森由香里, 鈴木 元, 小泉恵子, 高木 明, 小嶋  
哲人, 岩城壮一郎, 藤井 聡, 中村光浩, 野沢義則, 村手 隆.

ストレス刺激下でのスフィンゴシンキナーゼ2の発現調節機能.

第36回日本分子生物学会年会, 2013年12月9日 (神戸)

藤井 聡

薬剤師に必要なフィジカルアセスメント

薬剤師のためのスキルアップセミナーフィジカルアセスメント・ベーシックClass 1

2013年12月15日 (名古屋)

## 【医薬品代謝解析学分野】

(原報)

Yuto Sakai, Katsumi Fukamachi, Mitsuru Futakuchi, Hidetoshi Hayashi, Masumi Suzui.  
Promotive effects of cell proliferation and chromosomal instability induced by tribbles-related protein 3 in mouse mammary tumor cells.  
*Oncology Reports*, **30**(1), 64–70 (2013).

Saotomo Itoh, Natsuko Yamaoka, Go Kamoshida, Takemasa Takii, Tsutomu Tsuji, Hidetoshi Hayashi, Kikuo Onozaki  
Staphylococcal superantigen-like protein 8 (SSL8) binds to tenascin C and inhibits tenascin C–fibronectin interaction and cell motility of keratinocytes.  
*Biochem, Biophys, Res. Commun.*, **433**(1), 127–133 (2013).

Hatano N, Suzuki H, Itoh Y, Muraki K.  
TRPV4 partially participates in proliferation of human brain capillary endothelial cells.  
*Life Sci.* **92**(4–5), 317–324 (2013).

(学会発表)

宮嶋ちはる, 野原 匠, 伊藤友香, 井上靖道, 林 秀敏  
TRBファミリータンパク質TRB1およびTRB3によるインターロイキン2の転写制御  
日本薬学会第133年会. 2013年3月28日(横浜); 28amC-009.

波多野紀行, 鈴木裕可, 伊藤友香, 村木由起子, 林秀敏, 小野寄菊夫, Ian Wood, David Beech, 村木克彦  
炎症性刺激により誘導されるTRPA1は細胞内亜鉛濃度を制御する  
日本薬学会第133年会. 2013年3月29日(横浜); 29amD-117.

波多野紀行, 伊藤友香, 鈴木裕可, 村木由起子, 林秀敏, 小野寄菊夫, Ian Wood, David Beech, 村木克彦  
滑膜線維芽様細胞におけるTRPA1発現誘導を介したサイトカイン分泌制御機構  
日本薬学会第133年会. 2013年3月29日(横浜); 29amD-118.

鈴木裕可, 波多野紀行, 村木由起子, 伊藤友香, 林 秀敏, 小野寄菊夫, 村木克彦  
NADPHオキシダーゼ阻害剤はTRPA1チャンネルを活性化する  
日本薬学会第133年会. 2013年3月29日(横浜); 29amD-123.

澤中美希, 吉井由比子, 伊藤友香, 井上靖道, 林 秀敏  
キナーゼ様タンパク質TRB1によるTGF- $\beta$ シグナルの制御  
第59回日本薬学会東海支部大会. 2013年7月6日(名古屋); G-1540.

永尾優始, 井上靖道, 伊藤友香, 林 秀敏  
メチルトランスフェラーゼSET8によるTGF- $\beta$ シグナル伝達制御機構の解析  
第59回日本薬学会東海支部大会. 2013年7月6日(名古屋); G-1550.

野原 匠, 杉山和弥, 宮嶋ちはる, 伊藤友香, 井上靖道, 林 秀敏  
T細胞におけるストレス誘導性タンパク質TRB3によるIL-2の発現制  
第59回日本薬学会東海支部大会. 2013年7月6日(名古屋); G-1600.

波多野紀行, 伊藤友香, 鈴木裕可, 村木由起子, 林 秀敏, 小野寄菊夫, Ian Wood, David Beech, 村木克彦

低酸素誘導因子HIF1 $\alpha$ によるTRPA1チャネル発現制御機

第 59 回日本薬学会東海支部大会. 2013 年 7 月 6 日 (名古屋); H-1510.

宮田和弥, 森本真宗, 伊藤友香, 井上靖道, 林 秀敏

CYP3A4のタンパク質レベルでの発現解析

第 59 回日本薬学会東海支部大会. 2013 年 7 月 6 日 (名古屋); I-1710.

酒井 聡, 安藤昌幸, 林 秀敏, 北川雅敏, 皆川信子

ピルビン酸キナーゼ M2 の過剰発現における SUMO 化の役割

第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 13 日 (横浜); 3P-114.

永尾優始, 井上靖道, 伊藤友香, 林 秀敏

メチルトランスフェラーゼ SET8 による TGF- $\beta$  シグナル伝達の制御機構

第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 13 日 (横浜); 3LBA-002.

Satoshi Sakai, Masatoshi Kitagawa, Hidetoshi Hayashi

PKM2 protein expression is regulated by posttranslational modification

第 72 回日本癌学会学術総会. 2013 年 10 月 5 日 (横浜); P-3186.

西尾愛梨紗, 井上靖道, 隅田ちひろ, 伊藤友香, 林 秀敏

Lox12 による TGF $\beta$  誘導性上皮間葉転換制御の解析

フォーラム 2013 : 衛生薬学・環境トキシコロジー

2013 年 9 月 14 日 (福岡); P-090.

鈴木美沙紀, 楽 怡, 岡山敦子, 野口祐美子, 井上靖道, 伊藤友香, 小野寄菊夫, 齊藤昌之, 林 秀敏

白色脂肪細胞における TGF $\beta$  による PPAR $\gamma$  遺伝子の発現制御

フォーラム 2013 : 衛生薬学・環境トキシコロジー

2013 年 9 月 14 日 (福岡); P-091.

川原田祐貴, 井上靖道, 伊藤友香, 林 秀敏

PAI-1 遺伝子発現制御における Smad と p53 とのクロストーク

第 12 回次世代を担う若手ファーマバイオフォーラム 2013

2013 年 9 月 15 日 (東京); 49.

Atsuzo Matsudaira, Yuka Itoh, Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi

Rifampicin regulates the expression of UGT1A1 protein

日本薬物動態学会第 28 回年会. 2013 年 10 月 9 日 (東京); 1-G-P-27.

永尾優始, 井上靖道, 伊藤友香, 林 秀敏

メチルトランスフェラーゼ SET8 による TGF- $\beta$  シグナル伝達制御機構の解析

第 36 回日本分子生物学会年会. 2013 年 12 月 3 日 (神戸); 1P-0461.

長田茂宏, 新美有希, 山口桃子, 中村真也, 篠田 晃, 林 秀敏, 今川正良

ヒストン脱アセチル化酵素 HDAC9 とハンチントン病原因遺伝子に関連する HAP1 の相互作用

第 36 回日本分子生物学会年会. 2013 年 12 月 4 日 (神戸); 2P-0241.

宮嶋ちはる, 伊藤友香, 井上靖道, 林 秀敏

IL-2 発現に対する pseudokinase TRB1 による負の制御機構

第 36 回日本分子生物学会年会. 2013 年 12 月 5 日 (神戸); 3P-0471.

Hidetoshi Hayashi

Functional analysis of TRB1, one of the TRB pseudokinase family in T cells

第 24 回日本免疫学会学術集会. 2013 年 12 月 11 日 (幕張); 1-J-W19-10-P.

【神経薬理学分野】

(原報)

Masateru Kataoka, Yuki Kawamuro, Nobuaki Shiraki, Rika Miki, Daisuke Sakano, Tetsu Yoshida, Takanori Yasukawa, Kazuhiko Kume and Shoen Kume.

Recovery from Diabetes in Neonatal Mice after a Low-Dose Streptozotocin Treatment.

*Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **430**, 1103-8 (2013).

Minako Kawabata, Taro Ueno, Jun Tomita, Junko Kawatani, Akemi Tomoda, Shoen Kume and Kazuhiko Kume.

Temporal Organization of Rest Defined by Actigraphy Data in Healthy and Childhood Chronic Fatigue Syndrome Children.

*BMC Psychiatry*, **13**, 281 (2013).

Soichiro Ogaki, Nobuaki Shiraki, Kazuhiko Kume and Shoen Kume.

Wnt and Notch Signals Guide Embryonic Stem Cell Differentiation into the Intestinal Lineages.

*Stem Cells*, **31**, 1086-96 (2013).

Taiji Yamazoe, Nobuaki Shiraki, Masashi Toyoda, Nobutaka Kiyokawa, Hajime Okita, Yoshitaka Miyagawa, Hidenori Akutsu, Yutaka Sasaki, Kazuhiko Kume and Shoen Kume.

A Synthetic Nanofibrillar Matrix Promotes *in Vitro* Hepatic Differentiation of Embryonic Stem Cells and Induced Pluripotent Stem Cells.

*J. Cell Sci.*, **126**, 5391-9 (2013).

Yamamoto S, Ohsawa M, Ono H.

Contribution of TRPV1 receptor-expressing fibers in spinal ventral root discharges and hyperalgesia after mechanical noxious stimuli in spared nerve injury (SNI) model rats.

*J. Pharmacol. Sci.*, **121**, 9-16 (2013).

Ono H, Iwajima Y, Nagano Y, Chazono K, Maeda Y, Ohsawa M, Yamamoto S.

Reduction in sympathetic nerve activity as a possible mechanism for the hypothermic effect of oseltamivir, an anti-influenza virus drug, in normal mice.

*Basic Clin Pharmacol Toxicol.*, **113**, 25-30 (2013).

Mutoh J, Ohsawa M, Hisa H.

Effect of naloxone on ischemic acute renal failure in the mouse.

*Neuropharmacol.*, **71**, 10-18 (2013).

Ohsawa M, Miyabe Y, Katsu H, Yamamoto S, Ono H.

Identification of the responsible sensory nerve fiber in the liposphatidic



acid-induced neuropathic pain in mice.

*Neuroscience*, **247**, 65–74 (2013).

Ikegami M, Ikeda H, Ohashi T, Ohsawa M, Ishikawa Y, Kai M, Kamei A, Kamei J.  
Olanzapine increases hepatic glucose production through the activation of hypothalamic AMPK.

*Diabetes Obes. Metab.* , **12**, 1128–1135 (2013).

Ikeda H, Ikegami M, Kai M, Ohsawa M, Kamei J.  
Activation of spinal cannabinoid CB2 receptors inhibits neuropathic pain in streptozotocin-induced diabetic mice.

*Neuroscience*, **250**, 446–454 (2013).

Ikegami M, Ikeda H, Ishikawa Y, Ohsawa M, Ohashi T, Kai M, Kamei A, Kamei J.  
Olanzapine induces glucose intolerance through the activation of AMPK in the mouse hypothalamus.

*Eur J Pharmacol*, **718**, 376–382 (2013).

Yamamoto S, Ohsawa M, and Ono H

Contribution of TRPV1 receptor-expressing fibers to spinal ventral root after-discharges and mechanical hyperalgesia in a spared nerve injury (SNI) rat model.

*J Pharmacol Sci*, **121**, 9–16 (2013).

Ono H, Iwajima Y, Nagano Y, Chazono K, Maeda Y, Ohsawa M, Yamamoto S.  
Reduction in sympathetic nerve activity as a possible mechanism for the hypothermic effect of oseltamivir, an anti-influenza virus drug, in normal mice.

*Basic Clin Pharmacol Toxicol.* , **113**, 25–30 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

大澤匡弘, 川村和美

薬剤師を真の“ゲートキーパー”とするために～薬剤師が潜在的な精神科疾患や過量投与, 自殺をピックアップできるようになるためにはどうすることが必要か～

薬学雑誌, **133**, 597–598 (2013).

大澤匡弘, 山田彬博

「キーワード解説：糖尿病と認知機能障害」

日本薬理学雑誌, **142**: 201 (2013).

大澤匡弘

「A5 オピオイド鎮痛薬」「A6 鎮痛補助薬」

緩和医療薬学, 南江堂, pp. 2013.

(学会発表)

大澤匡弘【シンポジウム】

糖尿病マウスに見られる認知機能障害におけるグリア細胞の関与

第 86 回日本薬理学会年会 2013 年 3 月 21~23 日 (福岡)

大澤匡弘

慢性疼痛発現における脳内痛覚伝達系の亢進の関与

日本薬学会 第 133 年会 2013 年 3 月 27~30 日 (横浜)

糸 和彦【特別講演】

ドーパミントランスポーターによるシナプス外情報伝達制御

第 8 回トランスポーター研究会 2013 年 6 月 16 日 (熊本)

糸 和彦【シンポジウム】

睡眠と学習を制御するドーパミン回路の同定

日本睡眠学会第 38 回学術集会 2013 年 6 月 28 日 (秋田)

糸 和彦【シンポジウム】

睡眠の生理機能モデルとしてのショウジョウバエ

日本睡眠学会第 38 回学術集会 2013 年 6 月 28 日 (秋田)

大澤匡弘

オキサリプラチンによる末梢神経障害に対する漢方薬の作用機序に関する研究

第 25 回 東洋医学に関する学術研究報告会 2013 年 6 月 29 日 (名古屋)

糸 和彦【シンポジウム】

Brain circuit for Sleep and Learning in a Fruit fly model.

IEEE-EMBC2013 2013 年 7 月 7 日 (大阪)

糸 和彦

睡眠障害と薬物治療

第 123 回 日本薬理学会近畿部会 2013 年 7 月 12 日 (名古屋)

勝 弘毅, 大澤匡弘, 宮辺裕輔, 山本昇平, 糸 和彦, 小野秀樹

Lysophosphatidic acid 誘発機械アロディニにおける TRPV1 発現神経の関与

第 123 回日本薬理学会近畿部会, 2013 年 7 月 12 日 (名古屋); A-1.

山本昇平, 鈴木悠馬, 大澤匡弘, 糸 和彦, 小野秀樹

長期増強下および神経障害性疼痛下における G-線維誘発性 field-potentials に対する cilnidipine の作用

第 123 回日本薬理学会近畿部会, 2013 年 7 月 12 日 (名古屋); A-20.

山田彬博, 勝 弘毅, 村上友康, 山本昇平, 糸 和彦, 大澤匡弘

糖尿病マウスに見られる認知機能障害におけるアストロサイトの関与

第 123 回日本薬理学会近畿部会, 2013 年 7 月 12 日 (名古屋); B-13.

村上友康, 倉谷亮祐, 勝 弘毅, 山本昇平, 条 和彦, 牧野利明, 上園保仁, 大澤匡弘  
がん悪液質に対する PPAR $\gamma$  活性化能をもつ生薬の効果  
第 123 回日本薬理学会近畿部会. 2013 年 7 月 12 日 (名古屋); B-24.

Masahiro Ohsawa, Riyo Nakamura, Noboru Inoue, Tomoyasu Murakami, Hiroki Katsu,  
Shohei Yamamoto, Hideki Ono  
Role of astrocytes in the memory impairment in diabetes mellitus.  
American Diabetes Association 73<sup>rd</sup> Scientific sessions, 2013 年 7 月 21~25 日  
(Chicago, USA)

条 和彦【シンポジウム】

Large-scale objective sleep-data analysis using a contactless sleep monitor  
European Biological Rhythm Society, General Meeting 2013 年 8 月 19 日  
(Munich, Germany)

大澤匡弘

がん悪液質におけるインスリン抵抗性の関与  
第 7 回日本緩和医療薬学会年会 2013 年 9 月 15, 16 日 (幕張)

村上友康, 倉谷亮祐, 山本昇平, 条 和彦, 大澤匡弘  
がん悪液質モデルマウスにおける視床下部インスリンシグナルの変化  
第 7 回日本緩和医療薬学会年会. 2013 年 9 月 15, 16 日 (幕張) 09-4.

条 和彦

睡眠と学習・記憶  
第 6 回 分子高次機能研究会 2013 年 9 月 17 日 (長野・軽井沢)

大澤匡弘, 村上友康, 勝 弘毅, 山本昇平, 条 和彦  
神経障害性疼痛における帯状回皮質ミクログリアの役割  
第 23 回日本臨床精神神経薬理学会・第 43 回日本神経精神薬理学会合同年会.  
2013 年 10 月 24~26 日 (沖縄) 02-F2.

井上 昇, 勝 弘毅, 村上友康, 山本昇平, 条 和彦, 大澤 匡弘  
糖尿病マウスの海馬 LTP 減弱におけるアストロサイトの関与  
第 124 回日本薬理学会近畿部会. 2013 年 11 月 1 日 (京都) P05.

条 和彦

概日周期生成機構と睡眠制御  
第 21 回日本ポリソムノグラファー研究会全国大会 2013 年 11 月 3 日 (福岡)

橋崎将典, 中嶋 宏, 土屋直樹, 志賀利一, 堤 正和, 金光陽子, 池上あずさ, 条 和彦  
非接触型睡眠計を用いた大規模睡眠データの分析  
2013 年 11 月 9 日 (大阪)

条 和彦

行動遺伝学ツールとしてのショウジョウバエ

第 18 回 熊本大学遺伝子実験施設セミナー 2013 年 12 月 20 日 (熊本)

【医薬品安全評価学分野】

(原報)

Nahoko Kaniwa, Emiko Sugiyama, Yoshiro Saito, Kouichi Kurose, Keiko Maekawa, Ryuichi Hasegawa, Hirokazu Furuya, Hiroko Ikeda, Yukitoshi Takahashi, Masaaki Muramatsu, Masahiro Tohkin, Takeshi Ozeki, Taisei Mushiroda, Michiaki Kubo, Naoyuki Kamatani, Masamichi Abe, Akiko Yagami, Mayumi Ueta, Chie Sotozono, Shigeru Kinoshita, Zenro Ikezawa, Kayoko Matsunaga, Michiko Aihara, and the Japan Pharmacogenomics Data Science Consortium.

Specific *HLA* types are associated with anti-epileptic drug-induced Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis in the Japanese.

*Pharmacogenomics*, **14**, 1821–1831 (2013).

Shoko Sato, Hitoshi Shirakawa, Shuhei Tomita, Masahiro Tohkin, Frank J. Gonzalez, Michio Komai.

The aryl hydrocarbon receptor and glucocorticoid receptor interact to activate human metallothionein 2A.

*Toxicol Appl Pharmacol.*, **273**, 90–9 (2013).

Tadaaki Hanatani, Kimie Sai, Masahiro Tohkin, Katsunori Segawa, Yasuaki Antoku, Naoki Nakashima, Hideto Yokoi, Kazuhiko Ohe, Michio Kimura, Katsuhito Hori, Junichi Kawakami, Yoshiro Saito.

An algorithm for the identification of heparin-induced thrombocytopenia using a medical information database.

*J Clin Pharm Ther.*, **38**, 423–8 (2013).

Kimie Sai, Tadaaki Hanatani, Yuichiro Azuma, Katsunori Segawa, Masahiro Tohkin, Hedeaki Omatsu, Hiroo Makimoto, Midori Hirai, Yoshiro Saito

Development of a detection algorithm for statin-induced myopathy using electronic medical records.

*J Clin Pharm Ther.*, **38**, 230–5 (2013).

(学会発表)

頭金正博

レセプト情報を利用した研究について

第4回レセプト情報等の提供に関する事前説明会 2013年6月26日(東京)

Masahiro Tohkin

Comparative Studies of Pharmacokinetics among East Asian Populations  
and Caucasian

アジア QA フォーラム第1回国際会議 2013年7月5-6日(東京)

頭金正博

副作用の発症に関連するゲノムバイオマーカーの探索研究

第340回CBI学会研究講演会 2013年7月10日(東京)

中野 駿, 萩原宏美, 小川喜寛, 頭金正博

薬剤疫学研究のためのナショナルレセプトデータベースの有用性と限界

第16回日本医療情報学会総会・学術大会 2013年8月10-11日(名古屋)

花谷忠昭, 佐井君江, 頭金正博, 瀬川勝智, 木村通男, 堀 雄史, 川上純一, 齋藤嘉朗  
医療情報データベースを用いた薬剤性肝障害検出アルゴリズムの構築

第16回日本医療情報学会総会・学術大会 2013年8月10-11日(名古屋)

Kimie Sai, Tadaaki Hanatani, Yuichiro Azuma, Katsunori Segawa, Masahiro Tohkin,  
Hideaki Omatsu, Hiroo Makimoto, Midori Hirai, Yoshiro Saito

A Detection Algorithm for Statin-Induced Myopathy Using Electronic Medical  
Records

第29回国際薬剤疫学会学術総会 ICPE 2013年8月25-28日(モントリオール)

Tadaaki Hanatani, Kimie Sai, Masahiro Tohkin, Katsunori Segawa<sup>1</sup>, Michio Kimura<sup>3</sup>,  
Katsuhito Hori, Junichi Kawakami, Yoshiro Saito

Development of an Algorithm for Detecting Heparin-Induced Thrombocytopenia and  
Assessment of the Risk Factors using a Medical Information Database

第29回国際薬剤疫学会学術総会 ICPE 2013年8月25-28日(モントリオール)

岡田佑輔, 松村治穂, 近藤勝弘, 江崎哲夫, 木村和哲, 飯田真介, 頭金正博, 松永民秀,  
中村克徳

ポリコナゾールによる肝障害のリスク因子の検討

日本病院薬剤師会関東ブロック第43回学術総会 2013年8月31日-9月1日(新潟)

田島陽子, 前川京子, 妹尾勇弥, 浦田 政世, 石川将己, 村山真由子, 頭金正博, 齋  
藤嘉朗

ヒト尿中脂質代謝物の基本的性質(性差および年齢差, 安定性)に関する網羅的検討

第86回日本生化学会大会 2013年9月11-13日(横浜)

花谷忠昭, 佐井君江, 頭金正博, 瀬川勝智, 安德恭彰, 中島直樹, 横井英人, 大江和彦,  
木村 通男, 堀 雄史, 川上純一, 齋藤嘉朗

医療情報データベースを用いた行政施策の評価: オセルタミビル<sup>®</sup>の10代使用制限及び  
クロピドグレルとオメプラゾールの併用注意

第19回日本薬剤疫学会 2013年11月16-17日(東京)

渡邊 崇, 小川喜寛, 木村通男, 堀 雄史, 川上純一, 頭金正博

医療情報データベースを活用した副作用としての無顆粒球症の検出に関する研究  
第 34 回日本臨床薬理学会学術総会 2013 年 12 月 4-6 日 (東京)

小川喜寛, 河合加奈, 頭金正博  
副作用自発報告データベース (AERS) からみたアジア諸国と非アジア諸国におけるダビ  
ガトランとワルファリンの出血性副作用の比較  
第 34 回日本臨床薬理学会学術総会 2013 年 12 月 4-6 日 (東京)

萩原宏美, 中野 駿, 小川喜寛, 頭金正博  
ナショナルレセプトデータを用いた市販後副作用情報の伝達における DI 室設置の有用  
性についての検討  
第 34 回日本臨床薬理学会学術総会 2013 年 12 月 4-6 日 (東京)

伊東真紀, 山田健人, 藤原由希子, 萩原宏美, 川合眞一, 頭金正博  
日米韓におけるワルファリンの処方量の比較  
第 34 回日本臨床薬理学会学術総会 2013 年 12 月 4-6 日 (東京)

岡田佑輔, 山田梨紗子, 頭金正博, 川合眞一  
シンバスタチンの薬物動態に関わる遺伝子多型の探索  
第 34 回日本臨床薬理学会学術総会 2013 年 12 月 4-6 日 (東京)

山田健人, 頭金正博, 牛田英里, 松永民秀, 永田 清, 松澤直樹, 百瀬泰行, 大森 栄  
いわゆる「健康食品」と医薬品の併用に関する実態調査  
第 34 回日本臨床薬理学会学術総会 2013 年 12 月 4-6 日 (東京)

頭金正博  
日中韓米の PK 試験からみた民族差 シンポジウム 16: 東アジア圏での薬物動態の民  
族差を考える  
第 34 回日本臨床薬理学会学術総会 2013 年 12 月 4-6 日 (東京)

【病院薬学分野】

(原報)

Hideki Ono, Yui Iwajima, Yuko Nagano, Kaori Chazono, Yasuhiro Maeda, Masahiro Ohsawa, Shohei Yamamoto

Reduction in Sympathetic Nerve Activity as a Possible Mechanism for the Hypothermic Effect of Oseltamivir, an Anti-influenza Virus Drug, in Normal Mice.

*Basic Clin. Pharmacol. Toxicol.*, **113**, 25-30 (2013).

Arufumi Shiota, Yuji Hotta, Tomoya Kataoka, Masahiko Morita, Yasuhiro Maeda, Kazunori Kimura

Oral L-Citrulline Supplementation Improves Erectile Function in Rats with Acute Arteriogenic Erectile Dysfunction.

*J. Sex. Med.*, **10**, 2423-2429 (2013).

Tomoya Kataoka, Yuji Hotta, Masae Ohno, Yasuhiro Maeda and Kazunori Kimura  
Limited effect of testosterone treatment for erectile dysfunction caused by high-estrogen levels in rats.

*Int. J. Impot. Res.*, **25**, 201-205 (2013).

木村和哲

陰茎虚血モデルを用いた動脈性EDの病態解明

*Nagoya Med J.*, **51**, 145-152 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

前田康博, 伊藤哲哉

核酸代謝異常症の質量分析

医用質量分析ガイドブック, 79-84 (2013).

木村和哲

抗がん剤自動調整装置等の導入により安全かつ効率的な抗がん剤調整業務を推進

Palette Vol.89 (2013).

木村和哲

薬剤師の機能を発揮して安全な薬物治療に貢献する名古屋市立大学病院薬剤部の取り組み

Medical forum CHUGAI Vol.17 NO.4 (2013).

(学会発表)

片岡智哉, 堀田祐志, 山本侑佳, 前田康博, 木村和哲



Androgen 補充療法の効果が不十分であった去勢ラットに対する Androgen 補充療法の長期治療の有効性の検討

第 23 回日本性機能学会西部総会 2013 年 2 月 2 日 (徳島); 一般演題 A1.

山本侑佳, 片岡智哉, 堀田祐志, 前田康博, 岸本大輝, 金山博臣, 木村和哲  
食塩感受性高血圧モデルラット (Dhal salt-sensitive rat) を用いた勃起機能の検討  
- 食塩過剰摂取による勃起機能への影響 -

第 23 回日本性機能学会西部総会 2013 年 2 月 2 日 (徳島); 一般演題 A2.

堀田祐志【ランチョンセミナー】

PDE5 阻害剤の「連続」投与の効果とその可能性

第 23 回日本性機能学会東部総会 2013 年 3 月 9 日 (仙台)

前田康博, 那須徹也, 堀田祐志, 加藤沙耶香, 中島葉子, 齋藤信治, 伊藤哲哉, 木村和哲

UPLC/MS/MS によるメチルマロン酸血症・プロピオン酸血症患者の酵素活性測定

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28pmB-108.

伊藤邦彦, 藤井 哲, 増田雅也, 大槻真嗣, 矢野裕章, 岩本卓也, 奥田真弘, 小野秀樹

大学連携による教育用症例作成と症例データベース構築 東海薬学教育コンソーシアムの取り組み

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28amG-025.

本間崇正, 堀田祐志, 大野雅恵, 前田康博, 木村和哲

エリスロポエチンによる慢性腎不全ラットへのヘモグロビン上昇速度の差が血管内皮機能に与える影響

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 29 日 (横浜); 28amD-028S.

高橋瀬奈, 堀田祐志, 前田康博, 木村和哲

ストレプトゾトシン誘発性糖尿病モデルラットにおける膀胱機能と酸化ストレスの経時的变化

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 29 日 (横浜); 29Q-pm17S.

片岡智哉, 堀田祐志, 山本侑佳, 前田康博, 木村和哲

肥満に伴いテストステロンが低下した ED モデルラットを用いたテストステロン補充療法の開始時期の検討

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 29 日 (横浜); 29P-pm11S.

堀田祐志, 服部由香, 高畑 裕, 前田康博, 木村和哲

一酸化窒素に着目したシクロホスファミド投与による膀胱炎発症機序の解明

日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 29 日 (横浜); 30amF-495.

高木三千代, 中島健一, 田邊宏樹, 木村和哲, 井上 誠

軽度炎症状態にある脂肪細胞のアディポネクチン産生低下を改善する天然物の探索  
日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 29 日 (横浜); 29T-am12S.

小野秀樹, 茶園かおり, 橋本祐一, 岩嶋優依, 山本昇平, 前田康博, 大澤匡弘  
体温低下作用と神経筋接合部遮断作用におけるリン酸オセルタミビル (タミフル) と局  
所麻酔薬の類似性  
日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30amD-238.

渡辺美里, 鬼頭典子, 黒井美晴, 鮫島健太, 黒田純子, 木村和哲  
外来化学療法室における薬剤師面談担当制の導入 曜日担当制による処方提案の質的  
改善効果について  
日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30amF-583.

鈴木 匡, 藤井 聡, 大原弘隆, 明石恵子, 木村和哲, 金 允勝  
医療系学部連携によるチーム医療に貢献する薬局薬剤師養成研修 (2 年目の成果検証)  
日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30amG-133.

鈴木英子, 手崎世織, 山本清司, 加藤弘子, 小島基嗣, 浅野知子, 近藤勝弘, 黒田純  
子, 江崎哲夫, 木村和哲  
入院支援センターの新設に伴う持参薬確認業務の変化  
日本薬学会第 133 年会 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30pmF-731.

Kishimoto T, Kataoka T, Yamamoto Y, Koizumi T, Akazawa S, Hotta Y, Kanayama H,  
Kimura K.  
Salt excess-induced erectile dysfunction independent of hypertension: a  
preliminary report  
The 14th Biennial Meeting of the Asia-Pacific Society for Sexual Medicine  
2013 年 6 月 1 日 (Kanazawa, Japan); PP-047.

Yamamoto Y, Kataoka T, Hotta Y, Maeda Y, Kishimoto T, Kanayama H, Kimura K.  
Effect of high salt intake on erectile dysfunction in Dahl salt-sensitive rats.  
The 14th Biennial Meeting of the Asia-Pacific Society for Sexual Medicine  
2013 年 6 月 1 日 (Kanazawa, Japan); PP-046.

Hotta Y 【Symposium 8: Basic research】  
Effects of Oral L-Citrulline Supplementation on Erectile Dysfunction  
The 14th Biennial Meeting of the Asia-Pacific Society for Sexual Medicine  
2013 年 6 月 2 日 (Kanazawa, Japan); S8-5.

Kataoka T, Hotta Y, Maeda Y, Kimura K  
Adverse effect of excessive testosterone on the erectile function of rats  
The 14th Biennial Meeting of the Asia-Pacific Society for Sexual Medicine  
2013 年 6 月 2 日 (Kanazawa, Japan); 03-4.

Kataoka T, Hotta Y, Maeda Y, Kimura K  
How androgen replacement therapy affects the erectile function of metabolic

syndrome rats

International Symposium on Prostate, Androgens and Men' s Sexual Health  
2013年6月21-22日(Berlin, Germany) ; 021.

Hotta Y, Kataoka T, Shiota A, Morita M, Kamimura A, Maeda Y, Kimura K.  
Oral L-citrulline supplementation improves erectile function with an increase  
in L-arginine/asymmetric dimethylarginine ratios and decrease in NADPH oxidase  
1 and 4 expression in castrated rats

International Symposium on Prostate, Androgens and Men' s Sexual Health  
2013年6月21-22日(Berlin, Germany) ; 030

片岡智哉, 堀田祐志, 山本侑佳, 前田康博, 木村和哲  
陰茎海綿体内皮機能障害に対する Androgen 補充療法の効果 - 肥満モデルラットを用いた検討 -

第13回日本抗加齢医学会総会 2013年6月30日(横浜) ; 019-4.

片岡智哉, 堀田祐志, 前田康博, 木村和哲  
去勢ラットの勃起障害に対する Androgen 補充療法の投与期間に関する検討

第123回日本薬理学会近畿部会 2013年7月12日(名古屋) ; C-20.

堀田祐志, 片岡智哉, 塩田有史, 本成真理奈, 前田康博, 森田匡彦, 木村和哲  
去勢ラットの勃起障害に対するシトルリン飲水投与の効果について

第123回日本薬理学会近畿部会 2013年7月12日(名古屋) ; C-21.

飯塚成志, 村上里奈, 木村和哲, 浅井清文, 大原弘隆, 酒々井真澄, 鈴木 匡, 明石恵子, 早野順一郎

課題解決型学習におけるチーム内ピア評価尺度と学習評価との相関について

第45回日本医学教育学会大会 2013年7月26-27日(千葉)

村上里奈, 飯塚成志, 木村和哲, 浅井清文, 大原弘隆, 酒々井真澄, 鈴木 匡, 明石恵子

医療系学部連携チームによる東日本大震災被災地域(岩手県陸前高田市)訪問学習

第45回日本医学教育学会大会 2013年7月26-27日(千葉)

Hotta Y, Hattori Y, Maeda Y, Kimura K

Involvement of nitric oxide in cyclophosphamide-induced cystitis in rats

International Continence Society 2013 (ICS 2013) 2013年8月26-30日  
(Barcelona, Spain)

Yamamoto S, Hotta Y, Maeda Y, Asai K, Kimura K

Physiological role of mineralocorticoid receptors in rat bladder epithelium

International Continence Society 2013 (ICS 2013) 2013年8月26-30日  
(Barcelona, Spain)

Maeda Y, Ito T, Gotoh K, Nakajima Y, Kato S, Sugiyama N, Saito S, Hotta Y, Kimura K

Acyl-coa analysis by UPLC/MS/MS for enzyme activity assay in a patient with methylmalonic acidemia

12nd International congress of inborn errors of metabolism (ICIM)  
2013年9月3-6日(Barcelona, Spain); P-255.

前田康博, 後藤佳奈, 伊藤哲哉, 堀田祐志, 中島葉子, 加藤沙耶香, 杉山成司, 齋藤伸治, 木村和哲

UPLC/MS/MSによるメチルマロニル-CoA ムターゼ活性測定

第61回質量分析総合討論会2013年9月10日(つくば); 1P-48.

堀田祐志, 服部由香, 高畑裕, 前田康博, 木村和哲

シクロホスファミド投与による膀胱炎発症における一酸化窒素の関係について

第20回日本排尿機能学会2013年9月19日(静岡); 0-005.

山本清司, 竹本将士, 前田康博, 黒田純子, 江崎哲夫, 木村和哲

陰圧式アイソレーター「ケモシールド®」の導入前後の抗がん剤による環境汚染および人体への曝露の比較調査

第23回日本医療薬学会年会2013年9月19日(仙台); 8-03-11.

前田康博【シンポジウム】

質量分析を利用した代謝異常症の病態解明

アシルカルニチン, アシル-CoAの解析と意義

第38回日本医用マススペクトル学会年会2013年9月26日(神戸); S1-1.

前田康博, 伊藤哲哉, 後藤佳奈, 堀田祐志, 中島葉子, 加藤沙耶香, 齋藤伸治, 木村和哲

メチルマロニル-CoA ムターゼ活性測定におけるUPLC/MS/MSによるアシル-CoA分析

第38回日本医用マススペクトル学会年会2013年9月26日(神戸); P-2.

後藤佳奈, 前田康博, 堀田祐志, 片岡智哉, 岡田有武, 岡田秀親, 木村和哲

アナフィラトキシン阻害ペプチド(AcPepA)を用いた敗血症治療薬開発

—UPLC/MS/MSを用いたAcPepA濃度解析—

第38回日本医用マススペクトル学会年会2013年9月26日(神戸); P-26.

Masaki A, Ishida T, Maeda Y, Inagaki A, Suzuki S, Ito A, Mori F, Sato F, Narita T, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Niimi A, Ueda R, Inagaki H, Utsunomiya A, Iida S

Clinical significance of indoleamine 2,3-dioxygenase (IDO) expression in ATL.

第75回日本血液学会学術集会2013年10月13日(札幌); OS-3-143.

Kimura K

Study of Effective Androgen Replacement Therapy on Erectile Function in Various Rat Models

8th Japan-ASEAN Conference on Men's Health and Aging  
2013年11月7日(Nagano, Japan); S3-3.

田代雄祐，竹本将士，黒田純子，前田康博，木村和哲  
陰圧式アイソレーター（ケモシールド®）による抗がん剤調整にはオゾン水を用いた清拭が有用か？

第 23 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会 2013 年 11 月 10 日（鈴鹿）； F-24.

堀田祐志【平成 24 年度名古屋市立大学病院医学研究奨励賞講演】

シクロホスファミド誘発性膀胱炎における一酸化窒素の役割

第 64 回名古屋市立大学医学会総会 2013 年 12 月 8 日（名古屋）

【臨床薬学教育研究センター】

(原報)

Maruyama J, Matsunaga T, Yamaori S, Sakamoto S, Kamada N, Nakamura K, Kikuchi S, Ohmori S

Differentiation of monkey embryonic stem cells to hepatocytes by feeder-free dispersion culture and expression analyses of cytochrome P450 enzymes responsible for drug metabolism.

*Biol Pharm Bull*, **36**, 292-298 (2013).

Sasaki T, Takahashi S, Numata Y, Narita M, Tanaka Y, Kondo Y, Matsunaga T, Ohmori S, Nagata K

Hepatocyte nuclear factor 6 activates the transcription of CYP3A4 in hepatocyte-like cells differentiated from human induced pluripotent stem cells.

*Drug Metabol Pharmacokinet*, **28**, 250-259 (2013).

Sato H, Maeda T, Ito T, Nakajima Y, Ohte M, Ukai A, Nakamura K, Enosawa S, Toyota M, Miyagawa Y, Okita H, Kiyokawa N, Akutsu H, Umezawa A, Matsunaga T  
Establishment and directed differentiation of induced pluripotent stem cells from glycogen storage disease type Ib patient.

*Genes Cells*, **18**, 1053-1069 (2013).

Obayashi K, Araki T, Nakamura K, Kurabayashi M, Nojima Y, Hara K, Nakamura T, Yamamoto K

Risk of falling and hypnotic drugs: retrospective study of inpatients.

*Drugs R&D*, **13**, 159-64 (2013).

Akiyoshi T, Ito M, Murase S, Miyazaki M, Guengerich FP, Nakamura K, Yamamoto K, Ohtani H

Mechanism-based inhibition profiles of erythromycin and clarithromycin with cytochrome P450 3A4 genetic variants.

*Drug Metab Pharmacokinet*, **28**, 411-415 (2013).

川名純一, 小柳俊哉, 中村克徳, 大林恭子, 山本康次郎, 越前宏俊, 住吉徹哉, 緒方宏泰

The clinical significance of genotype of CYP2C9 and VKORC1 on warfarin dosage regimen for initial anti-coagulation after cardiovascular surgery.

(心臓血管外科手術施行後のワルファリン初期投与計画における CYP2C9 及び VKORC1 の遺伝子多型情報の臨床上の意義)

*アプライド・セラピューティクス*, **4**, 47-55 (2013).

(総説・著書・総合論文など)

Nakamura K, Matsuzawa N, Ohmori S, Ando Y, Yamazaki H, Matsunaga T

Clinical evidence of the pharmacokinetics change in thalidomide therapy.  
*Drug Metabol Pharmacokinet*, **28**, 38-43 (2013).

中村克徳  
病院薬剤師が担うファーマコゲノミクス検査の現状と将来展望.  
*愛知県病院薬剤師会雑誌*, **40**, 5-6 (2013).

鈴木 匡  
チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成—大学が提供する新しい研修.  
*調剤と情報*, **19**, 85-89 (2013).

(特許申請)

申請日：2013年2月26日  
出願番号：特願2013-036434  
名称：人工多能性幹細胞を腸管上皮細胞へ分化誘導する方法  
発明者：松永民秀，岩尾岳洋

申請日：2013年6月1日  
出願番号：PCT/JP2013/065298  
名称：人工多能性幹細胞を肝細胞へ分化誘導する方法  
発明者：松永民秀，岩尾岳洋，近藤祐樹，吉橋幸美，宮田直樹，鈴木孝禎

(学会発表)

松永民秀  
再生医療と薬の研究に期待される万能細胞 (ES 細胞・iPS 細胞)  
名古屋市立大学連携講座 2013年1月16日 (名古屋)

鈴木 匡  
大学がサポートする薬局薬剤師の臨床研究  
特別シンポジウム SS オール薬学キックオフ  
日本薬学会第133年会. 2013年3月30日 (横浜)

永味千枝，菊池千草，竹内正義，松永民秀  
食後高血糖モデルラットの大腿動脈における血管障害機序とアナグリプチンの効果  
日本薬学会第133年会. 2013年3月30日 (横浜) ; 30amF-505.

鈴木 匡，藤井 聡，明石恵子，大原弘隆，木村和哲，金 兌勝  
医療系学部連携によるチーム医療に貢献する薬局薬剤師養成研修 (2年目の成果検証)  
日本薬学会第133年会. 2013年3月30日 (横浜) ; 30amG-133.

鈴木恵美, 日比野英幸, 秋好健志, 村瀬沙織, 荒木拓也, 宮崎光江, Guengerich F. Peter, 中村克徳, 中村智徳, 山本康次郎, 大谷壽一  
果実成分による CYP3A4 の MBI 特性に対する遺伝子変異の影響.  
日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28amF-116.

大手万理子, 佐藤大介, 中村克徳, 松永民秀  
VEGF 添加時期が iPS-sac 形成に与える影響の検討.  
日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 28 日 (横浜); 28pmC-141.

佐藤大介, 鵜飼 茜, 大手万理子, 奥村啓樹, 小野里太智, 中村克徳, 松永民秀  
iPS 細胞由来肝細胞の三次元スフェロイド培養による糖原病 Ib 型長期遺伝子治療 評価系の構築.  
日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30amF-613.

鵜飼 茜, 佐藤大介, 中村克徳, 松永民秀  
糖原病 Ib 型患者 iPS 細胞を用いた遺伝子導入評価系の構築.  
日本薬学会第 133 年会, 2013 年 3 月 30 日 (横浜); 30amF-616.

鈴木 匡  
地域住民の健康維持・増進のための医療連携モデル説明研修会  
三和化学セミナー 2013 年 4 月 7 日 (名古屋)

松永民秀  
創薬及び疾患研究の新規材料として期待されるヒト iPS 細胞  
日本医科大学 講演 2013 年 5 月 1 日 (東京)

松永民秀  
幹細胞との出会い  
信大薬剤部研究室お披露目セミナー 2013 年 5 月 11 日 (松本)

菊池千草, 永味千枝, 竹内正義, 松永民秀  
新規 DPP-4 阻害薬アナグリプチン慢性投与の食後高血糖モデル動物の血管におけるスーパーオキシド産生増加に対する効果  
第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2013 年 5 月 17 日 (熊本); II-16-1.

松永民秀  
6 年制薬学教育の新コアカリキュラム及び臨床実習時に現場指導で求められること  
薬友会三重県支部講演会 2013 年 6 月 9 日 (四日市)

松永民秀  
再生医療・創薬研究の新規材料として期待される iPS 細胞  
製剤機械技術学会特別講演会講演 2013 年 6 月 10 日 (東京)

松永民秀  
ヒト iPS 細胞の創薬研究利用: 個別化医療の発展を目指して  
第 7 回日本ゲノム薬理研究会講演会 2013 年 6 月 18 日 (名古屋)



鈴木 匡

薬局のくすりを活用した賢いセルフメディケーション

名古屋市女性会館主催講座 2013年6月25日(名古屋)

鈴木 匡

これからの地域薬局の機能を考える

東邦薬品セミナー 2013年8月24日(名古屋)

松永民秀

ヒト iPS 細胞から腸管上皮細胞をつくる！

イノベーション・ジャパン 2013 - 大学見本市 8月29日(東京); en10549.

鈴木 匡

F 薬学臨床

薬学教育モデル・コアカリキュラム改定案全国説明会 2013年9月13日(東京)

松永民秀, 近藤祐樹, 荻原留理, 岩尾岳洋, 永田 清, 黒瀬光一, 堀川隆司, 丹羽卓朗,  
山折 大, 大森 栄, 中村克徳

ヒト iPS 細胞由来肝細胞を用いた薬物代謝酵素誘導評価

(Induction Study of Drug Metabolism Enzymes by Using Hepatocyte-like Cells  
Differentiated from Human iPS Cells)

フォーラム 2013: 衛生薬学・環境トキシコロジー 2013年9月14日(福岡): P119.

鈴木 匡

薬剤師新時代…大学と連携した新しい薬局業務の開拓

西尾市薬剤師会学術講演会 2013年9月18日(愛知県 西尾市)

菊池千草, 今枝憲郎, 岡山直司, 松永民秀

糖尿病患者の動脈硬化性疾患に対する血糖値変動の影響

第23回日本医療薬学会年会. 2013年9月22日(仙台); 日-10-037-08.

外ノ池文乃, 鈴木 匡, 榊原幹夫, 榊原明美, 鍋谷伸子

薬局店頭でのHbA1c測定によるセルフメディケーション推進の効果

第23回日本医療薬学会年会. 平成25年9月22日(仙台) 日-P1-007.

鈴木 匡

大学がサポートする薬局薬剤師の臨床研究そして生涯研鑽

第46回 日本薬剤師会学術大会 シンポジウム 2013年9月23日(大阪)

松永民秀

再生医療と薬の研究に期待される iPS 細胞

第29回名古屋市立大学薬学部卒業後教育講座 10月期 2013年10月6日(名古屋)

近藤祐樹, 岩尾岳洋, 荻原留理, 佐々木崇光, 永田 清, 黒瀬光一, 堀川隆司, 丹羽卓朗,  
山折大, 大森 栄, 中村克徳, 松永民秀

Pharmacokinetic function of hepatocyte-like cells differentiated from human iPS cells

(ヒト iPS 細胞由来肝細胞様細胞の薬物動態学的機能)

日本薬物動態学会第 28 回年会 2013 年 10 月 9 日 (東京); 1-G-P-03.

岩尾岳洋, 近藤祐樹, 小玉菜央, 中村克徳, 堀川隆司, 丹羽卓朗, 黒瀬光一, 松永民秀  
Small-molecule compounds enhance the differentiation of human induced pluripotent stem cells into enterocytes

(低分子化合物はヒト iPS 細胞から腸管上皮細胞への分化を促進する)

日本薬物動態学会第 28 回年会 2013 年 10 月 9 日 (東京); 1-G-P-04.

荻原留理, 近藤祐樹, 岩尾岳洋, 山折 大, 大森 栄, 中村克徳, 松永民秀  
Guiding the differentiation of human induced pluripotent stem cells into definitive endoderm using a combination of small-molecule compounds

(低分子化合物組み合わせによるヒト iPS 細胞から胚体内胚葉への分化)

日本薬物動態学会第 28 回年会 2013 年 10 月 10 日 (東京); 2-G-P-44.

小玉菜央, 岩尾岳洋, 壁谷知樹, 堀川隆司, 丹羽卓朗, 黒瀬光一, 中村克徳, 松永民秀  
Small-molecule compounds improve differentiation efficiency from human induced pluripotent stem cells to functional enterocyte-like cells

(複数の低分子化合物はヒト iPS 細胞から機能性を持った小腸上皮細胞様細胞への分化効率を改善する)

第 36 回日本分子生物学会年会 2013 年 12 月 5 日 (神戸); 3-P-0619.

松永民秀

薬物代謝研究の新規基盤技術: ES 細胞および iPS 細胞の薬物代謝研究への応用

日本薬物動態学会第 28 回年会シンポジウム 2013 年 10 月 11 日 (東京)

鈴木 匡

「F 薬学臨床教育」が育成する薬剤師像

第 57 回 日本薬学会関東支部大会 2013 年 10 月 26 日 (東京)

松永民秀

再生医療と薬の研究に期待される iPS 細胞

名古屋市立大学 第 63 回薬学際 2013 年 10 月 27 日 (名古屋)

鈴木 匡

新薬学教育モデル・コアカリキュラム導入に向けて

東海薬学教育コンソーシアム シンポジウム 2013 年 11 月 3 日 (名古屋)

松永民秀

創薬研究の新規材料として期待されるヒト iPS 細胞

九州大学大学院講義 2013 年 11 月 21 日 (福岡)

松永民秀

創薬研究の新規材料として期待される iPS 細胞

国立成育医療研究センター講演 2013 年 12 月 11 日 (東京)

鈴木 匡

薬局新時代…地域を支える薬局薬剤師業務の開拓

緑区薬剤師会 学術講演会 2013 年 12 月 17 日 (名古屋)

## 5 科学研究費等補助金

研究種目	課題番号	研究者一姓	研究者一名	職名	H25年度年度配分額	課題名
					直接経費	
新学術領域研究(研究領域提案型)	24110512	矢木	宏和	助教	3,300,000	神経系におけるキシロース含有N型糖鎖の高次機能およびその分子基盤の解明
新学術領域研究(研究領域提案型)	24115715	藤原	俊伸	教授	3,600,000	microRNAが関与する翻訳抑制機構の素過程の解析
新学術領域研究(研究領域提案型)	25121730	佐藤	匡史	准教授	1,800,000	糖タンパク質選別輸送装置の超分子形成および作動機構の解明
新学術領域研究(研究領域提案型)	25136717	今泉	祐治	教授	3,500,000	カルシウムクロック機構の再構築と平滑筋組織ペースメーカーシミュレーション
基盤研究(B)	23390020	今泉	祐治	教授	3,000,000	新規創薬標的としての細胞内カルシウム正帰還制御機構と関連イオンチャネル分子群
基盤研究(B)	23390036	松永	民秀	教授	3,500,000	胚盤胞補完法による100%サル肝臓を持つラット-サル異種動物間キメラの作出
基盤研究(B)	25291004	星野	真一	教授	2,300,000 1,400,000	新規遺伝子発現・mRNA品質管理システム『mRNAポリA鎖制御系』の全容解明
基盤研究(B)	25293028	中川	秀彦	准教授	1,500,000 2,400,000	シグナル分子としてのNO・H2Sの光制御投与法の開発と疾患モデルへの応用
基盤研究(B)	25291007	藤原	俊伸	教授	2,400,000 1,600,000	RNA結合タンパク質がファインチューニングする翻訳開始制御機構
基盤研究(B)	25290007	糸	和彦	教授	3,000,000 1,900,000	ショウジョウバエを用いた自発的覚醒・睡眠制御機構の解析
基盤研究(C)	23590014	中村	精一	教授	1,700,000	抗腫瘍性サポニン類の完全化学合成と生物活性評価
基盤研究(C)	23590048	平嶋	尚英	教授	2,000,000	開口放出部位を模した脂質平面膜法を用いた分泌小胞局在CaチャネルOrai2の解析
基盤研究(C)	23590085	長田	茂宏	准教授	1,400,000	発がん初期に発現上昇するクロマチン関連因子の細胞がん化・防御に与える影響
基盤研究(C)	23590193	菊池	千草	講師	2,700,000	持続高血糖と食後高血糖による糖尿病血管障害発症機序の解明と治療法の開発
基盤研究(C)	23590213	頭金	正博	教授	1,700,000	レセプト等の大規模医療情報を用いた医薬品による副作用の検出方法に関する研究
基盤研究(C)	24540440	奥蘭	透	准教授	1,600,000	弱電解質の拡散によって駆動される荷電コロイドのダイナミクス
基盤研究(C)	24550160	山中	淳平	教授	2,300,000	球面上での荷電コロイド結晶化を用いた正多面体状微粒子クラスターの構築
基盤研究(C)	24590085	林	秀敏	教授	1,700,000	ストレス誘導性分子TRB1、TRB3によるストレス制御と疾患発症の分子メカニズム
基盤研究(C)	24590142	梅澤	直樹	准教授	1,700,000	ペプチド機能を光制御する新手法の開発・環状化戦略
基盤研究(C)	25430040	田中	正彦	准教授	1,700,000	小脳ブルキンエ細胞におけるリアノジン受容体を介した樹状突起形成制御機構の解明
基盤研究(C)	25460019	加藤	信樹	助教	1,800,000	新規[3+3]環化付加型反応を基盤とするインドールアルカロイド類合成法の開発
基盤研究(C)	25460104	山村	寿男	准教授	1,600,000	カルシウム活性化クロライドチャネルTMEM16の新規修飾サブユニットの同定
基盤研究(C)	25460127	水上	元	教授	1,700,000	消化管吸収性の改善を指向した天然機能性化合物の配糖体化
基盤研究(C)	25460170	瀧井	猛将	准教授	1,300,000	結核菌生菌特異的な宿主細胞傷害活性の解析
基盤研究(C)	25460171	伊藤	佐生智	講師	1,300,000	黄色ブドウ球菌毒素SSLの免疫かく乱作用に着目した感染予防・治療法の確立と創薬
基盤研究(C)	25460193	中村	克徳	准教授	3,000,000	分子標的薬投与によるインフュージョンリアクション発症機構の解明と評価系の構築
基盤研究(C)	25460194	湯浅	博昭	教授	1,600,000	アクアポリン10の核酸塩基輸送機能・核酸塩基及び関連薬物の小腸吸収における役割
基盤研究(C)	25460217	藤井	聡	教授	1,300,000	分泌型miRNAによる褥瘡・糖尿病性皮膚潰瘍の評価方法の確立と新規治療法への応用
基盤研究(C)	25460724	大澤	匡弘	准教授	1,300,000	古典的グリア細胞機能に着目した慢性疼痛発現メカニズムの解明とその治療法への応用
基盤研究(C)	25460907	牧野	利明	准教授	1,700,000	偽アルドステロン症発症リスクの個体差に関する研究と予知のための検査キットの開発
若手研究(B)	25840051	田所	哲	助教	1,800,000	人工エキソ/エンドサイトーシス系の界面解析と標的特異的分泌/取り込み系への展開
挑戦的萌芽研究	24659036	服部	光治	教授	1,700,000	巨大分泌蛋白質リーリンの「機能増強」は、精神神経疾患の革新的改善法になり得るか？
挑戦的萌芽研究	24659050	宮田	直樹	教授	1,000,000	細胞内局在性を有するヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の合成
挑戦的萌芽研究	25670059	中川	秀彦	教授	3,000,000	チオアミド回転障壁に基づくプロリンペプチド結合異性化酵素Pin1の阻害剤創製
挑戦的萌芽研究	25670151	藤原	俊伸	教授	1,000,000	RNAアプターによる腫瘍マーカー検出法の開発
若手研究(B)	23710276	山越	博幸	助教	1,100,000	ラマンタゲの開発と応用
若手研究(B)	24700983	井上	靖道	准教授	1,700,000	TRB3によるがん抑制遺伝子p53機能制御と発がん機構の解明
若手研究(B)	24750132	豊玉	彰子	講師	2,500,000	荷電コロイド結晶を用いた不純物粒子拡散素過程の視覚化
若手研究(B)	24770102	佐藤	匡史	准教授	1,800,000	好熱性真核生物のゲノム情報を基盤とした小胞体関連分解装置の構造生物学研究
若手研究(B)	24770131	細田	直	講師	1,800,000	ストレス環境下において現れる損傷mRNAを選択的に分解する分子機構
若手研究(B)	24790081	河野	孝夫	助教	2,000,000	精神神経疾患の診断・治療を目指した、巨大分泌蛋白質リーリンの特異的分解機構の解明
若手研究(B)	24790164	岩城	壮一郎	講師	2,100,000	エクソソーム由来分泌型miRNAを用いた新規動脈硬化評価法の開発
若手研究(B)	25860009	家田	直弥	助教	1,600,000	生体応用を志向したPeT型光制御パーオキシナイトライド供与化合物の開発
若手研究(B)	25860026	田上	辰秋	講師	1,200,000	炎症性肺疾患に対する温度応答DDSの基盤技術に関する研究
若手研究(B)	25860053	矢木	宏和	助教	1,500,000	特定のタンパク質と糖鎖の組み合わせにより発動される神経幹細胞の分化制御機構の解明
若手研究(B)	25860120	岩尾	岳洋	助教	2,400,000	ヒトiPS細胞から機能的な腸管上皮細胞への分化と創薬研究への応用
若手研究(B)	25870611	堀田	祐志	助教	2,100,000	思春期の偏った食生活が将来の勃起機能に与える影響

## 6 学外との共同研究等

平成25年度 薬学研究科共同研究契約一覧

	薬学管理番号	分野名	研究担当者		研究題目	共同研究相手先	研究契約期間
			補職	氏名			
1	薬共22-6	臨床薬学	教授	鈴木 匡	薬剤師教育の教育効果評価法の開発と検討	株式会社スズケン	平成23年3月1日～平成27年2月28日
2	薬共23-1	細胞分子薬効解析学	教授	今泉 祐治	スギ生物科学研究所との連携に基づく創薬スクリーニング技術開発と技術移転	有限会社 チャネロサーチテクノロジー	平成23年4月1日～平成26年3月31日
3	薬共23-3	生薬学	准教授	牧野 利明	大建中湯含有成分の体内同位体標識技術の開発	株式会社ツムラ	平成23年4月1日～平成26年3月31日
4	薬共24-3	病態解析学	教授	藤井 聡	薬剤師のフィジカルアセスメントの能力向上に関する教育手法の開発	東邦薬品株式会社	平成24年4月1日～平成26年3月31日
5	薬共24-4	薬物送達学	教授	尾関 哲也	IMRALレーザーによって調製した金・磁性・有機物ナノ粒子の評価	アイシン精機株式会社	平成24年4月1日～平成26年3月31日
6	薬共24-7	臨床薬学	教授	松永 民秀	幹細胞およびこれから分化した諸細胞の評価法	株式会社プライマリーセル (7/1よりコスモ・バイオ株式会社)	平成24年6月1日～平成26年3月31日
7	薬共25-1	生薬学	准教授	牧野 利明	漢方エキスの薬効評価及び活性成分の探索	ロート製薬株式会社	平成25年4月1日～平成26年3月31日
8	薬共25-2	薬物動態制御学	教授	湯浅 博昭	トランスポーター安定発現細胞株の作製及び機能解析	小野薬品工業株式会社	平成25年4月1日～平成26年3月31日
9	薬共25-3	薬物動態制御学	教授	湯浅 博昭	新規尿酸輸送担体EUTのツール化合物探索とカニクイザルにおけるin vivo機能評価	武田薬品工業株式会社	平成25年5月1日～平成26年3月31日
10	薬共25-4	薬物送達学	教授	尾関 哲也	医薬品の品質特性にX線照射が与える影響調査	アンリツ産機システム株式会社	平成25年6月1日～平成26年5月31日
11	薬共25-5	生薬学	教授	水上 元	新規バイオサーファクタントの開発を目指した、植物培養細胞によるトリテルペンの配糖化の研究	日本ロレアル株式会社	平成25年9月2日～平成26年8月31日
12	薬共25-6	病態生化学	教授	服部 光治	精神神経疾患関連分子の機能解明	田辺三菱製薬株式会社	平成25年7月1日～平成26年6月30日
13	薬共25-7	コロイド・高分子物性学	教授	山中 淳平	レーザー光回折による微小重力下でのコロイド分散系の構造解析と粒子間相互作用の研究	一般財団法人日本宇宙フォーラム	平成25年4月8日～平成26年3月31日
14	薬共25-8	神経薬理学	教授	桑 和彦	睡眠に関する共同研究	オムロンヘルスケア株式会社	平成25年9月1日～平成26年9月30日
15	薬共25-9	薬物送達学	教授	尾関 哲也	2液混合型スプレードライヤーノズルを用いた魚油のワンステップマイクロカプセル化製法の研究	日本水産株式会社	平成25年11月1日～平成26年3月31日
16	薬共25-10	臨床薬学	助教	岩尾 岳洋	ヒトiPS細胞から医薬品の体内動態を定量的に解析可能な腸管上皮細胞への分化誘導法の開発	第一三共株式会社 (TaNeDS)	平成26年1月1日～平成27年3月31日





## 7 新聞報道等

## 「新聞報道等」

加藤晃一，矢木宏和

「筋ジス治療一步」

中日新聞 平成 25 年 11 月 22 日

加藤晃一，矢木宏和

「先天性筋ジストロフィー原因因子の機能解明」

科学新聞 平成 25 年 12 月 6 日

牧野利明

「東洋医学の知識を深めよう、漢方のいいところ」

中日新聞ショッパーNo. 610, 2013 年 2 月 21 日

岩尾岳洋，松永民秀

「腸管上皮細胞誘導法 名古屋市大から実施権の許諾 iPS アcademia」

日刊工業新聞 平成 24 年 7 月 8 日

鈴木 匡

「地域医療に貢献する薬局薬剤師に向けたつづやき」

薬局新聞 平成 25 年 8 月～平成 26 年 3 月 全 12 回

## 8 進路および就職状況

薬学部・薬学研究科卒業生(修了者)進路調(平成25年度卒業)

平成26年4月1日現在

(単位:人)

区分	卒業者	就職希望者	就職決定者	就職地域別							就職未決定者	進学・その他					
				就職先業種別	市内	県内	中部	京浜	京阪神	その他			計				
学部	89 (36)	51 (26)	51 (26)	農・林・漁業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	博士課程進学	3 (1)			
				建設業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	博士後期課程進学	35 (9)		
				鉱業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	大学院入学試験準備	0 (0)	
				製 造 業	食料品・飲料・たばこ・飼料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	国家資格等試験準備	0 (0)
					繊維工業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	公務員試験準備	0 (0)
					出版・印刷・同関連産業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	自営	1 (0)
					化学工業・石油・石炭製品	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (5)	3 (0)		0 (0)	14 (5)	既に有職者で就職せず	0 (0)	
					鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	その他	0 (0)
					業務用機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	計	39 (10)
					電気機械・電子デバイス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)		
					輸送用機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)		
					精密機械器具・その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)		
				電気・ガス・熱供給・水道業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				情報通信・運輸業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				卸売・小売業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				金融・保険・不動産業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				学術研究・専門技術サービス業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				飲食店・宿泊業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				生活関連サービス業、娯楽業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				医療・福祉	14 (8)	9 (6)	5 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (2)	33 (19)						
				教育・学修支援業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				複合サービス業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				サービス業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)			
				公務	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		3 (0)				
				計	17 (8)	9 (6)	5 (2)	12 (6)	3 (0)	4 (2)	50 (24)						
				全体の地域別割合	34.0%	18.0%	10.0%	24.0%	6.0%	8.0%	100.0%						
女子の地域別割合	(33.3%)	(25.0%)	(8.3%)	(25.0%)	(0.0%)	(8.3%)	(100.0%)										
大 博 士 前 期	32 (14)	24 (10)	24 (10)	製造業(化学工業・石油・石炭製品)	2 (0)	0 (0)	2 (1)	9 (5)	6 (2)	1 (0)	20 (8)	0 (0)	博士後期課程進学	4 (2)			
				公務	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)		博士課程進学	3 (2)			
				情報通信業	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		既に有職者で就職せず	0 (0)			
				専門技術サービス業	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		公務員試験準備	1 (0)			
													研究員	0 (0)			
													博士後期課程受験中	0 (0)			
													その他(進路未定を含む)	0 (0)			
				計	4 (0)	1 (1)	3 (2)	9 (5)	6 (2)	1 (0)	24 (10)		計	8 (4)			
全体の地域別割合	16.7%	4.2%	12.5%	37.5%	25.0%	4.2%	100.0%										
女子の地域別割合	(0.0%)	(10.0%)	(20.0%)	(50.0%)	(20.0%)	(0.0%)	(100.0%)										

学 院	博 士 後 期	9 (1)	6 (1)	6 (1)	医療・福祉	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	既 <sub>レ</sub> 有職者で就職せず	0 (0)
					教育・学修支援業	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)		その他(進路未定を含む)	0 (0)
					製造業(化学工業・石油・石炭製品)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)		日本学術振興会特別研究員	2 (0)
														博士号取得のため研究継続	1 (0)
														計	3 (0)
					計	2 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (1)			
					全体の地域別割合	33.3%	0.0%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%			
女子の地域別割合	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)								

( ) は女子で内数

## 9 薬学部在籍者名簿

# 大学院薬学研究科（薬学部）所属教員一覧

(平成25年4月現在)

講座	分野	教授	准教授	講師	助教
医薬化学	薬化学	中川 秀彦			家田 直弥
	精密有機反応学	樋口 恒彦	梅澤 直樹		加藤 信樹
	薬品合成化学	中村 精一	近藤 和弘		山越 博幸
	機能分子構造学		池田 慎一	白井 直洋	
生命分子薬学	生体超分子システム解析学	平嶋 尚英	田中 正彦		田所 哲
	コロイド・高分子物性学	山中 淳平	奥菌 透	豊玉 彰子	
	生命分子構造学	加藤 晃一 (兼任)	佐藤 匡史		矢木 宏和
	分子生物薬学	今川 正良	長田 茂宏	西塚 誠	
	薬物送達学	尾関 哲也		田上 辰秋	
	構造薬学 *		藤井 陽一	黒田 良孝	
医療分子機能薬学	生薬学	水上 元	牧野 利明		寺坂 和祥
	生体防御機能学	藤原 俊伸	瀧井 猛将	伊藤佐生智	
	遺伝情報学	星野 真一		細田 直	
	細胞分子薬効解析学	今泉 祐治	山村 壽男		鈴木 良明
	病態生化学	服部 光治			河野 孝夫
医療薬学	薬物動態制御学	湯浅 博昭	井上 勝央		太田 欣哉
	病態解析学	藤井 聡	樫本 紀夫	岩城壮一郎	
	医薬品代謝解析学	林 秀敏	井上 靖道		伊藤 友香
	中枢神経機能薬理学	糸 和彦	大澤 匡弘		山本 昇平
	レギュラトリーサイエンス	頭金 正博			長部 誠 田島 陽子 安部 賀央里 (3名とも特任助教)
	病院薬剤学	木村 和哲 (兼務)		前田 康博	内藤 敏子 堀田 祐志
	臨床薬学	松永 民秀 鈴木 匡	中村 克徳	菊池 千草	岩尾 岳洋
腫瘍制御学 (連携大学院)	鶴見 達也 (客員教授;愛知県がんセンター研究所)	笠原 広介 (客員准教授;愛知県がんセンター研究所)			
加齢病態制御学 (連携大学院)		竹下 淳 杉本 昌隆	(客員准教授;国立長寿医療センター研究所) (客員准教授;国立長寿医療センター研究所)		
医薬品質保証学 (連携大学院)	奥田 晴宏 佐藤 陽治	(客員教授;国立医薬品食品衛生研究所) (客員教授;国立医薬品食品衛生研究所)			
環境・発生生物学 (連携大学院)	井口 泰泉 (客員教授;自然科学研究機構 岡崎統合N(イノ)センター)	東島 眞一 (客員准教授;自然科学研究機構 岡崎統合N(イノ)センター)			

専攻	講座	学年 分野	研究科前期課程				研究科後期課程							合計	
			1年	小計	2年	小計	計	1年	小計	2年	小計	3年	小計		計
創薬生命科学	医薬化学	薬化学	薄井 佑奈 喜多村 佳委 真庭 大介	3	伊藤 芳 小島 理奈 福島 直樹	3	6			荒井 卓也	1			1	7
		精密有機反応学	國枝 一輝 寶来 侑平 本間 紘次郎	3	天野 祐一	1	4			渡辺 二規	1			1	5
		薬品合成化学	高田 峰辰 本田 清高	2	鈴木 恵介 外川 貴史	2	4	近藤 秀明	1	戸井田 明憲	1	赤堀 禎紘	1	3	7
		機能分子構造学	長縄 遼太郎	1	森田 友香	1	2		1					1	3
創薬生命科学	生命分子薬学	生体超分子 システム解析学	中野 勝真 望月 雄司	2	猪飼 千晴 田中 順一 宮地 克真	3	5		1					1	6
		コロイド・高分子 物性学			沖塚 翔太	1	1	村門 愛	1	菅生 行紘 谷地 知大 中村 友紀	3			4	5
		生命分子構造学	鈴木 康介	1	稲垣 宏弥	1	2							0	2
			佐藤 友亮 芝田 裕一		舟木 ゆかり			加藤 大輝							



		分子生物薬学	山口 光	3		1	4		2	落合 なつき	1	林 孝弘	1	4	8
								有江 瑞洋							
専攻	講座	学年	研究科前期課程					研究科後期課程					合計		
		分野	1 年	小計	2 年	小計	計	1 年	小計	2 年	小計	3 年	小計	計	
		薬物送達学	竹内 堂朗	1	久保田 雅仁 高橋 朋弘	2	3	大塚 正史 西山 哲矢	3	照喜名 孝之 福重 香	2	野田 剛弘	1	6	9
		生薬学	篠田 祐布香 鈴木 俊章 山田 亜紀	3	田中 和貴 張 伏子 南 安依里	3	6	高 勝莉	1		1	趙 伯陽 梶田 梨恵	1	3	9
医療分子機能薬学		衛生化学			小川 翔大 竹野 聖史 花井 朱璃	3	3							0	3
		遺伝情報学	松本 彩希	1			1					橋本 芳史 岡本 淳志 山岸 良多	3	3	4
		細胞分子薬効解析学	栗田 卓 西村 歌織 林 恵介	3	梅田 俊太郎 大羽 輝弥 松木 克仁	3	6					大城 隼也 鬼頭 宏彰	2	2	8
		病態生化学	小林 大地 佐藤 嘉高	1	久永 有紗	1	2		水谷 健二	1			1	3	
医療機能薬学		薬物動態制御学	石山 高範 山城 貴弘 山田 知美 田島 健太郎	4	伊藤 悠子 稲岡 枝梨菜	2	6	古川 純士	1					1	7
		病態解析学	甲神 知紗登 長谷川 諒	2	郭 威 長崎 彩子	2	4					伊藤 史織	1	1	5

学年	研究科前期課程					研究科後期課程							合計	
	分野	1年	小計	2年	小計	計	1年	小計	2年	小計	3年	小計		計
医療薬学	医薬品代謝解析学	澤中 美希 野原 匠 宮田 和弥	3	永尾 優始 石井 陽子	2	5	加藤 直樹	1	宮嶋 ちはる	1	西川 佐紀子	1	3	8
	神経薬理学	村上 友康	1	長岡 優也 森 優作	2	3			矢野 裕恭	1			1	4
	レギュラトリーサイエンス 医薬品安全性評価学	中野 駿 山田 健人	2			2	浅野 邦仁 八木 聡美	2	萩原 宏美 花谷 忠昭	2			4	6
	病院薬剤学					0	高橋 瀬奈	1			片岡 智哉 高木 三千代 山本 清司	3	4	4
臨床薬学					0	小枝 暁子 坂本 栄 堀 英生	3	小玉 菜央 榊原 明美	2	近藤 祐樹 佐藤 大介	2	7	7	
腫瘍制御学					0								0	0
加齢病態制御学					0								0	0
医薬品質保証学				城 しおり	1	1							0	1
計		36		34	70		18		17		16	51	121	

平成25年度 卒業研究実習研究室配属

分野	薬学科			生命薬科学科	
	4年	5年	6年	3年	4年
薬化学	井上 理映子	山田 創太	杉本 賢俊	犬飼 雄哉 脇田 弘臣 奥野 華	河中 宏樹 曾根 佑登 山内 啓雅
精密有機反応学	丹羽 雄紀 河内 功三 (H24~)		坂田 陽輔 高田 将史 (H23~)	大久保 恵理奈	神野 隼大
薬品合成化学	高田 真央	渡邊 健斗	中西 知弘	竹田 圭介	澤山 侑季
機能分子構造学	大江 泰	森本 諭	平野 忍	古橋 俊佑	柴田 郁弥 原 侑也 (H25~)
生体超分子システム解析学	尾関 祐哉 寺本 ひかる	柴田 哲大 瀬尾 拓也 千田 知美 内藤 安紗美	日下部 美帆 近藤 祐太 三浦 愛美 大橋 一輝	真野 安由美 溝端 沙莉 木村 友香	大嶽 修一 奥田 梨花 八木 孝樹
コロイド・高分子物性学	犬飼 麗華 平岩 いずみ	柿原 千穂 関 友崇 飛永 あゆみ 山崎 千鶴	佐藤 雄一 増田 竜大 土本 高嗣	佐藤 直子 深谷 奈央 西川 卓	大橋 良章 岡地 真奈美
生命分子構造学	谷口 雄基 柘植 信吾 (H24~)		大鹿 高史 齋藤 拓也		年森 隆泰 柚木 康弘 (H25~)
分子生物薬学	田島 聡美 山田 絵理 和田 麻友美 渡辺 鮎美	山口 桃子 中村 真也	粟津 輝彦 新美 有希 長谷川 郁恵 堀之内 渉	市岡 香貴 加藤 苑果 益田 実己也	和木 雅宏

分野	薬学科			生命薬科学科	
	4年	5年	6年	3年	4年
薬物送達学	柏木 沙織 種継 友祐 寺田 由佳 宮原 佐知	三間 健裕 駄栗毛 美緒	今尾 ゆき乃 上原 一彰 後藤 薫 柳井 浩志	森川 善以 布施 俊樹 石亀 貴欣	安藤 裕太 瀧 萌子 前田 了
構造薬学					
生薬学	石田 智滉 棚橋 俊介 平松 みどり 増本 克彦	伊藤 菜奈子 木村 雪乃 近藤 沙耶 小西 里枝	鮎川 美奈子 立岩 千佳 山本 彩乃 横山 尚美	渡邊 智暉	足立 拓海 大北 剛司 北林 大侑
衛生化学	富田 陽香 矢野 雄暉 山田 由佳 徳田 美季	川島 直己 貞廣 暁利 高見 篤郎 齋藤 彩子	奥村 拓也 筑比地 慧 寺本 真弓 宮田 江里香	青山 智彦 大塚 衆志	高辻 良文
遺伝情報学	稲垣 佑都 長瀬 加奈 奈良尾 紀美子	奥苑 朱加 千布 高太郎 釣 真由美 野木森 拓人	前川 彩乃 脇田 恵里 門屋 恵理 木寺 絵美	張 天岳 田中 杏莉 川島 生	青木 啓将 奥村 眞由 西浦 久達
細胞分子薬効解析学	美濃部 雅士	川崎 桂輔 宮本 達也 横井 一輝	近藤 るびい 服部 美波 松井 未来 足立 大和	山村 英斗 山田 啓史 山越 大槻	佐伯 尚紀 野田 さゆり 山田 茜
病態生化学	亀井 隆奈 竹内 真理 別府 茉莉 柳生 隼太	高嶋 悠	尾上 文 水上 智晴 森下 駿介	荻野 ひまり 酒井 かおり 近藤 佑多	奥村 恭子 牧野 誠
薬物動態制御学	宇佐美 伶奈 佐々木 瞳 森田 佳祐 森久 佳菜	伊藤 美紀 村田 康晴 安田 敬亮 柳川 亜由美	為平 翔太 三村 佳久 宗重 克 福井 佑実	細馬 あかね 関口 裕太郎 河村 繁宏	庄司 大介 鈴木 祐稀 水野 加奈子

分野	薬学科			生命薬科学科	
	4年	5年	6年	3年	4年
病態解析学	井上 涉 小田井 香奈 川合 結乃 松野 宏美	小笠原 美沙 草原 ゆり 安本 美貴	齊藤 美加	鈴木 章裕 後藤 元晴 大曾根 達則 (H25~)	吉川 優
医薬品代謝解析学	小西 浩明 隅田 ちひろ 舛田 悠介 三田村 佳奈	今井 和弘 岩中 広美 川地 志緒里 松野 薫	川原田 祐貴 鈴木 美沙紀 西尾 愛梨紗 松平 厚蔵	川崎 文寛 佐藤 晃一 杉田 直央	鳴海 斐路人
神経薬理学	加藤 慎也 西口 友理 林 里花	倉谷 亮佑	池原 繁之 井上 昇 勝 弘毅 橋本 裕一 腰山 しおり	中根 伸 飯尾 彩加 長谷川 達也 北尾 優花	山田 彬博
医薬品安全性評価学	井口 祐美子 河合 加奈 山田 梨紗子	小川 喜寛 脇田 真実子 藤原 由季子	岡田 佑輔 渡邊 崇 田村 空彌 (H25~)	西川 良平 田近 聡幸 柴北 健佑	横田 俊
病院薬剤学	中村 大学 皆川 真里	青木 有希 本成 真理奈	後藤 佳奈 山本 侑佳 渡辺 美里 本間 崇正	矢萩 亮	
臨床薬学教育研究センター	栗木 駿輔 権田 革達 中野 靖久 藤田 直希 宮野 百合香	鵜飼 茜 大手 万理子 奥村 啓樹 小野里 太智 壁谷 知樹 野田 雅人	新原 浩太 荻原 留理 外ノ池 文乃 松村 治穂	阿武 志保 余 悦	

研究員

許可 NO	新規・継続	配属分野	氏名	生年月日	当初許可年月日
1	新規	薬物動態制御学	井上 勝央	昭和47年3月24日	平成25年4月1日
2	新規	医薬品安全性評価学	斎藤 嘉朗	昭和40年1月21日	平成25年4月1日
3	新規	生体防御機能学	深尾 亜喜良	昭和57年5月6日	平成25年4月1日
4	新規	薬物動態制御学	片野 貴大	昭和57年11月16日	平成25年4月1日
5	新規	遺伝情報学	尾上 耕一	昭和58年12月2日	平成25年4月2日
6	新規	生命分子構造学	棚田 法男	昭和55年2月17日	平成25年4月8日
7	新規	臨床薬学	堀場 亜佐子	昭和51年7月7日	平成25年4月10日
8	新規	生命分子構造学	王 進政	昭和59年9月21日	平成25年5月15日
9	新規	臨床薬学	武中 徹	昭和57年6月10日	平成25年5月16日
10	新規	臨床薬学	堺 陽子	昭和63年3月9日	平成25年6月20日
11	新規	薬物送達学	高 琦琦	西暦1990年9月4日	平成25年7月18日
12	新規	臨床薬学	河村 文夫	昭和43年2月14日	平成25年9月10日
13	新規	生命分子構造学	Wang Ying-Hui	1978年9月2日	平成25年9月11日
14	新規	臨床薬学	中西 博也	昭和61年3月24日	平成25年9月20日
15	新規	遺伝情報学	福島 真	昭和44年3月14日	平成25年10月16日
16	新規	生体超分子システム解析学	鈴木 亮	昭和44年6月10日	平成26年1月1日

許可 NO	新規・継続	配属分野	氏名	生年月日	当初許可年月日
1	継続	生体超分子システム解析学	伊納 義和	昭和47年8月9日	平成18年1月10日
2	継続	生体超分子システム解析学	井上 悠	昭和57年9月17日	平成22年4月19日
3	新規	生体超分子システム解析学	足立 浩章	昭和58年10月25日	平成24年10月16日
4	継続	生命分子構造学	平松 佳永	昭和34年10月14日	平成15年4月1日
5	継続	生命分子構造学	千田紀代美	昭和39年2月19日	平成16年2月1日
6	継続	生命分子構造学	矢部宇一郎	昭和49年8月4日	平成17年4月1日
7	継続	生命分子構造学	近藤 幸子	昭和56年3月21日	平成17年4月1日
8	継続	生命分子構造学	服部久美子	昭和34年9月15日	平成18年2月1日
9	継続	生命分子構造学	山口 拓実	昭和55年7月28日	平成20年4月25日
10	継続	生命分子構造学	栗本 英治	昭和34年4月8日	平成21年4月1日
11	継続	生命分子構造学	竹内 英明	昭和50年10月21日	平成21年7月28日
12	継続	生命分子構造学	植草 義徳	昭和57年4月12日	平成22年4月1日
13	継続	生命分子構造学	矢木 真穂	昭和56年11月24日	平成22年4月1日
14	継続	生命分子構造学	水島 恒裕	昭和45年4月17日	平成23年4月1日
15	継続	生命分子構造学	高木 賢治	昭和58年7月7日	平成23年4月1日
16	継続	生命分子構造学	張 英	西暦1984年3月27日	平成23年5月30日
17	継続	生命分子構造学	朱 彤	西暦1986年1月26日	平成24年12月3日
18	継続	生薬学	安井 敏洋	昭和43年7月5日	平成4年4月1日
19	継続	生薬学	永津 明人	昭和37年7月3日	平成17年4月1日

許可 NO	新規・継続	配属分野	氏名	生年月日	当初許可年月日
20	継続	生薬学	大野 高政	昭和46年9月27日	平成18年4月1日
21	継続	生薬学	田邊 宏樹	昭和51年6月23日	平成18年4月1日
22	継続	生薬学	山下 弘高	昭和54年2月21日	平成19年4月1日
23	継続	生薬学	小島 一夫	昭和55年6月27日	平成21年4月1日
24	継続	生薬学	呉 春珍	西暦1962年2月6日	平成21年7月23日
25	継続	生薬学	角谷 盛夫	昭和25年8月31日	平成22年9月1日
26	継続	生薬学	中西 宏文	昭和58年7月9日	平成23年12月22日
27	継続	生薬学	白 帆	西暦1985年12月25日	平成24年4月1日
28	継続	遺伝情報学	山本 肇	昭和12年7月7日	平成18年4月1日
29	継続	薬物動態制御学	石黒 雅江	昭和23年12月2日	昭和54年2月21日
30	継続	薬物動態制御学	鈴木 成樹	昭和43年6月5日	平成3年4月1日
31	継続	薬物動態制御学	井上 健	昭和42年4月14日	平成6年11月1日
32	継続	薬物動態制御学	川出 義浩	昭和48年2月28日	平成19年7月1日
33	継続	薬物動態制御学	佐野 直也	昭和57年11月10日	平成20年1月30日
34	継続	薬物動態制御学	近藤 徹	昭和51年2月5日	平成23年4月28日
35	継続	薬物動態制御学	山本 俊輔	昭和57年10月25日	平成23年10月5日
36	継続	病態解析学	小泉 恵子	昭和15年9月18日	平成23年5月20日
37	継続	病態解析学	隅田 師玄	昭和32年1月26日	平成23年6月20日
38	継続	病態解析学	鈴木 元	昭和37年2月11日	平成24年4月1日
39	継続	病態解析学	水谷 直貴	昭和62年10月16日	平成24年4月1日
40	継続	医薬品代謝解析学	吉田 康子	昭和42年8月10日	平成21年4月1日
41	継続	医薬品代謝解析学	中田 佳宏	昭和59年6月14日	平成21年11月17日
42	継続	医薬品安全性評価学	伊東 真紀	昭和49年12月14日	平成24年4月1日
43	継続	臨床薬学	吉川 英佑	昭和58年12月12日	平成23年11月25日
44	継続	臨床薬学	松本 雄一	昭和43年9月1日	平成24年11月1日
45	継続	臨床薬学	皆谷 和弘	昭和53年11月30日	平成25年1月18日

教員採用・退職・昇任一覧

分野	補職名	氏名	採用年月日	前職
薬品合成化学	助教	山越 博幸	H25.3.1	科学技術振興機構 研究員
生体防御機能学	教授	藤原 俊伸	H25.4.1	微生物化学研究所主席研究員
中枢神経機能薬理学	教授	糸 和彦	H25.4.1	熊本大学発生医学研究所准教授
薬物送達学	講師	田上 辰秋	H25.4.1	特任講師
細胞分子薬効解析学	助教	鈴木 良明	H25.4.1	博士後期修了



## 職員

### 総合機器分析施設

衛生技師：加藤節子，岩澤加奈

### 薬学部事務室

事務長：三浦伸介

学務係長：滝塚厚夫

主事：内木篤，山田治夫

業務士：山田俊也

事務系職員：藤井華子，松永佳子，水野栄子

### 総合情報センター田辺通分館－薬学部

分館長：樋口恒彦（精密有機反応学分野教授兼務）

司書：政谷浩子，稲葉美由紀

## 教職員の異動

### 職員

退職：水野久美子（再雇用職員）（2013年3月31日）

異動：黒野正裕（芸術工学部事務室へ、2013年3月31日）

滝塚厚夫（病院事務課から、2013年4月1日）